

まだま

第3号

〔普及発信デジタルアーカイブ活動報告 特集号 No.1〕

豊見城市教育委員会 文化課 紀要

令和8（2026）年2月

頁

豊見城市における鳥類記録とその生息状況について

高原 建二・比嘉 邦昭・渡邊 康志・池村 浩明・長嶺 将範・宮城 国太郎 1-81

令和7年度「とみぐすく写真アーカイブ」古写真トークイベント実施記録

—地域資料の情報収集における有効な手法の検討—

久貝 祐子・田辺 可奈 82-85

デジタル博物館事業の戦前集落復元について

工藤 紗也香 86-93

豊見城第二国民学校（二豊）の3D復元について

中村 鼓 94-99

デジタル技術を活用した平和教育の新たな展開

—沖縄戦平和学習用VR「時空記者」の実践を中心に—

島袋 幸司 100-105

資料とふれあい、人と向き合う社会科教育への提案

—『豊見城市史 第5巻 社会と文化・教育編』の成果を学校で広く活用するために—

稲嶺 航 106-114

まだま
— 書名について —

「まだま」とは、美しい玉を意味する琉球の古語で、これから転じて「貴重なもの」「すぐれたもの」との意味に用いられました。古くは真玉橋や真玉湊の名にも採られ、豊見城ともゆかりの深い語です。

文化課では、文化財保護・文化振興・市史編集などの取り組みについて紹介する冊子を発刊するにあたり、豊見城のすぐれた文化について市民の皆様をはじめ、広く内外に知っていただき、その価値の再認識に貢献することができるようにとの願いを託し、本書の表題を「まだま」としました。

多くの皆様が本書を通じ、豊見城の「まだま」ともいえる文化の一端にふれていただければ幸いです。

まだま 第3号〔普及発信デジタルアーカイブ活動報告 特集号 No.1〕について

本冊子は令和7年度デジタル博物館事業において制作された冊子である。「とみぐすくデジタルアーカイブ」の情報発信を目的に、アーカイブ構築にかかる情報整理、基礎資料、事例報告などを掲載し、今後のデジタルアーカイブ活動の推進を図る。

豊見城市における鳥類記録とその生息状況について

嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志・池村浩明・長嶺将範・宮城国太郎
(沖縄県鳥獣保護管理員・沖縄野鳥研究会・沖縄国際大学非常勤講師・漫湖水鳥湿地センター・
元漫湖水鳥湿地センター・沖縄野鳥の会)

はじめに

鳥類は森林生態系の基盤となる植物の花粉媒介や種子散布、さらには食物網における高次捕食者としてその生態系機能を担っているだけでなく、我々人間にとっても様々な形の「生態系サービス」を提供してきている(風間 2015)。このことから、鳥類は生態系における高次捕食者として、その頂点に立つ生物群であり、自然環境をモニターする「環境指標生物」として見ることができる。

こうした視点に立ち、その地域の鳥類の生息現状を把握することは、その地域の自然環境の現状を理解する上でひとつのアプローチとして有効と思われる。このような観点から、本市における鳥類記録を丹念にまとめると同時に、その生息現状を把握し、鳥類相の解明とその変遷を理解することは、間接的に自然環境の現状とその変容を知るための手がかりとなるものでもある。

本市における鳥類記録については、近年では黒田(1969)や高良・黒田(1969)によって、那覇市と本市にまたがる漫湖干潟におけるツクシガモやコウノトリなどの観察記録が知られている。その後、沖縄野鳥の会(1976)はその会誌「みなみの鳥 4号」特集号で、「漫湖・与根の水鳥」として110種の目録を作成している。また、与那城(1986)は別に漫湖干潟の鳥類目録を作成し、その確認種数を148種としている。さらに同干潟からは、嵩原ら(2000)によっても、県内各地の湿地環境における鳥類調査を総括した報告書の中で174種の鳥類記録が見られる。他にはMcWhirter *et al.*(1996)によってまとめられた「暫定的な沖縄県産鳥類目録(英文)」には断片的ではあるが、漫湖干潟や与根、瀬長島などにおける鳥類記録が散見できる。

最近では、「豊崎地区」における埋め立て事業に伴う環境調査が工事前と工事期間中実施されており、1988年から2007年までの調査期間に125種の鳥類が記録され、さらに豊崎周辺で見られる鳥類ガイドブックも編集されている(沖縄県土地開発公社 2008・沖縄県土地開発公社 2012)。他には沖縄野鳥研究会(2010)により編集された図鑑の中には、コサギやカラシラサギの他、オオホシハジロ、コウノトリ、シロアジサシなど断片的であるが、市内で確認された鳥類写真や観察記録が数多く掲載されている。さらにまた、環境省により2003年(平成15年)に開設された漫湖水鳥・湿地センターでは、漫湖干潟及びその周辺における地域で国設鳥獣保護区管理員及びセンター職員により毎年のように年間を通じた鳥類調査が実施され、その結果は2004年より同センターの事業報告書(漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会 2004 など)に順次掲載されている。また、環境省自然保護局多様性センターでは、国内における自然環境のモニタリングのため、その調査サイト1000により国内各地に設置されたサイトで鳥類調査を実施している。そのサイトとして、県内では7箇所が設置され、市内では漫湖干潟、与根三角池、翁長干潟の3か所が該当する。その鳥類調査結果がその翌年には全国を網羅した報告書が作成されているが、こうした報告書の中から本市の確認された希少な記録のみを抜粋して観察記録として採用したものもある。

筆者らは2002年の「豊見城市」として村から市に昇格する以前の1982年から2000年の期間に、環境省及び世界野生生物基金日本委員会によって作成された全国3次基準メッシュ図(フィールド・マップ:沖縄本島南部:1987年調製)によって区画された同一メッシュ内(約1km四方)で、30分間の定点的な鳥類調査を実施

してきた(図1)。さらにその後、2000年以降今日まで同様な手法による補足的な調査を市内各地実施し、最近における市内現況を把握するため各メッシュ地域における鳥類記録の集積に努めてきた。さらに前述したように環境省漫湖水鳥・湿地センター(以下湿地センターとする)においては、同センターの事業報告に掲載された観察記録を活用した。

さらにまた、新聞やインターネット上のホームページなどに掲載された市内における鳥類の飛来についても収集できる範囲でその記録等も収集した。

今回、本調査記録も含め、これまでに報告の見られる市内の調査記録を網羅的にまとめ、その主要な留鳥種の生息分布図とその最新の鳥類目録作成を試みた。したがって、「豊見城市」としてその全地域をまとめた鳥類調査の記録としては本報告が初めであろう。

本報告が本市の鳥類相を理解し、鳥類の保護や自然環境の保全に寄与する資料として、さらには学校教育における環境教育や観光新興におけるエコツーリズム等の推進を図る上でひとつの資料として活用されることになれば幸いである。

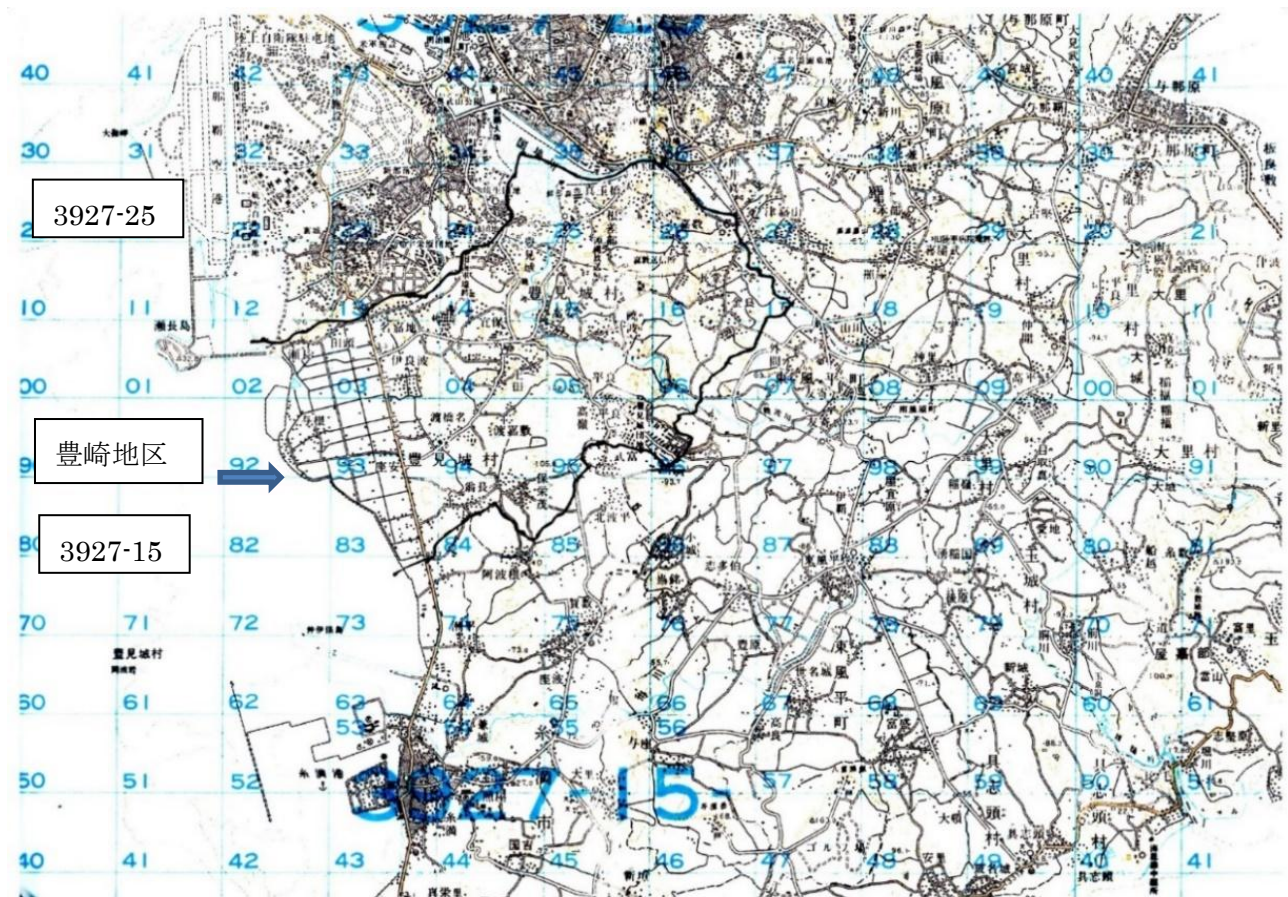


図1. 豊見城市域3次メッシュ地図

(環境省及び世界野生生物基金日本委員会:フィールド・マップ(沖縄本島南部)抜粋)

備考 *1、本メッシュ地図は1987年に調製作成され、豊崎地区や那覇空港新滑走路などは地図に入っていない。

*2、メッシュコードによっては、隣接する2市にまたがる箇所も見られる。(例えば、三角池と具志干潟、漫湖干潟など)

1. 調査地概要

豊見城市は沖縄本島南部に位置し、北は県都の那覇市に隣接、東は南風原町、八重瀬町、南は糸満市に隣接している。本土復帰頃を境に人口が急激に増加し、かつては、「豊見城村」として全国的にも1位、2位の人口規模を争う大きな村に発展してきたが、2002年4月1日、地方自治法施行後初となる村から市へ市制施行を行い「豊見城市」が誕生した。現在人口は令和3年3月末現在で65,644人(住民基本台帳人口)となっている(市役所 hp 参照:2019年2月閲覧・第5次豊見城市国土利用計画(2022)より)。

地形は与根海岸一帯の低地域、豊見城丘陵域、嘉数丘陵域及び高嶺丘陵域の4地域に区分される。与根低地域は東シナ海に面した沖積層低地で土地改良事業によって区画された圃場が広がり、海岸部は豊見城市地先開発事業により豊崎地区が造成された。豊見城丘陵域は豊見城の背後部の丘陵を中心とした地域で、また嘉数丘陵は、嘉数台地を中心とした饒波川、長堂川及び国場川の河川に囲まれた地域である。高嶺丘陵は高嶺から保栄茂にいたって多くの丘陵があり、平良グスク跡は標高108.9mで市最高地をなし、一帯は山林原野が広がっている。したがって、市の総面積は19.34km²となっている。〔第5次豊見城市国土利用計画より(2022)〕:令和3年10月現在)

さらに同土地利用計画から本市の土地利用の変遷を見ると、平成22年(2010)の農用地は507haであるが、令和2年(2020年)では451haと減少傾向である。一方、森林環境は平成22年(2010)には103haであるが、令和2年(2020年)は120haと増加傾向が見られ、都市公園等の整備が拡大してきているものと思われる。また、こうした農用地の減少に反して住宅用地は、平成22年(2010)には350haとなっているが、令和2年(2020年)は394haと増加傾向であり、市街地化が確実に進展してきている状況が見られる。

2. 調査方法

本調査の初期は著者の一人である比嘉を中心にして、沖縄野鳥研究会員の協力のもとに実施された。その調査開始時期は1982年で調査時期や時間、場所を特に定めず、前述した全国3次基準メッシュ図(図1)によって区画された市内各地のメッシュ内で30分間の定点的な鳥類調査を実施されてきた。また、2000年以降からは任意に市内各地で同様な鳥類調査を実施し、さらに2017年からは現在の生息状況を把握する目的で、同様に補足的で任意的な定点調査を市内各地で複数回実施した。その際には市内各地で車両を使用し不定期に走り回り、場所によっては定点調査以外の踏査等でも目撃される鳥類を記録することに努めた。鳥類確認には10倍の双眼鏡と必要に応じてニコン製フィールドスコープを使用した。その確認された鳥類種は、同様にその確認地を3次基準メッシュコード(以下:メッシュ)の8桁の位置情報を付加して確認記録をデータベース化し、整理集積した。

こうした調査記録の他には、前述したように「漫湖干潟(39272524)」に隣接して設置された環境省漫湖水鳥・湿地センター(字豊見城)において、とよみ大橋周辺で月2回から3回実施されている同干潟における鳥類調査の記録(無記名)は、前述したように毎年のように同センター業務報告書に確認鳥類が掲載されている。しかしながら、同干潟は那覇市と豊見城市の両市にまたがり、同調査地の区分は見られるが、鳥類調査の集計の際にはこの位置情報が反映された形の記述がみられないため、本報告では調査範囲である漫湖干潟の2/3を豊見城市側が占めていることや鳥類の飛翔力を考慮して、同センターの位置するメッシュを代表メッシュとみなして、この確認記録もまとめて市内における鳥類記録データベースとして加味した。

なお、調査地は豊見城市内を原則的にその範囲としたが、本市は那覇市に隣接しており、両市にまたがる漫湖干潟(調査環境:写真1)や具志干潟などの一部の干潟地域においては、行政区を飛び越えて野鳥はその飛翔力により広域的に干潟環境を利用していることは自明なことである。したがって、調査対象区を明確に区分

することには困難さがあり、隣接する干潟環境は包括して同一メッシュ地域として見なした。したがって、メッシュコードの「39272524(漫湖干潟)」と「39272502(具志干潟と瀬長島から与根地先に至る干潟(図版 I 調査地環境環境:写真2)及び与根調整地(写真3. 以下「三角池」とする))」などはこれに相当し、これらの地区は同一メッシュの範囲とみなした。他には豊見城城址公園周辺(写真4)や県営海軍壕公園(写真5)などの公園緑地などの地域でも重点的に調査を実施した。

<図版1 調査地環境>



写真1. 漫湖干潟(全景:城址公園から)



写真2. 瀬長島及び与根海岸周辺干潟



写真3. 与根洪水調整池(通称三角池)



写真4. 豊見城城址公園周辺
(沖縄県空手会館近く)

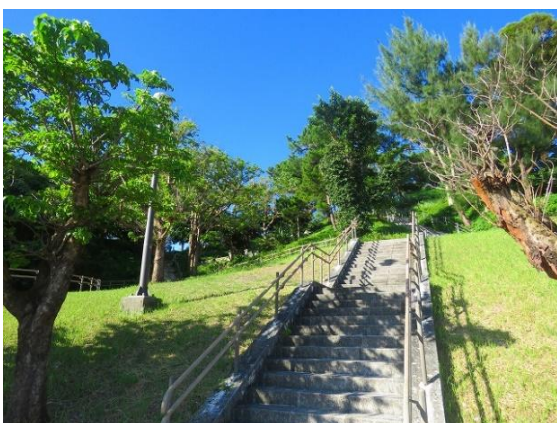


写真5. 県営海軍壕公園



写真6. 豊崎干潟

さらに豊見城市においては、2000年頃から与根から翁長地先にかけて大規模な埋め立て地事業が実施され、現在「豊崎タウン」として、一大商業地や人工海浜等が整備されている。したがって、今回の調査では与根地区地先の豊崎地区(写真6:豊崎干潟)が新たな調査地(メッシュコード:392715-81・392715-82・392715-83)として加わった。

本地区以外には、前述したように、瀬長島地先西方に近接する那覇空港新滑走路地域(現在は新滑走路として共用)も、那覇市側の大嶺海岸沖合を埋め立てた場所であるが、一部瀬長島地先の公有水面を含んでいるため、瀬長島に近接しているメッシュ(392725-00)を調査区メッシュとして振り分けた。その結果、調査開始時より調査対象のメッシュ数は4地区増加し、合計31メッシュである(図1及び図3)。

こうして得られた鳥類の記録のデータベースを空間解析用のGISソフト(Q-GPS)を利用し、3次元メッシュデータを属性データとして、種ごとに鳥類分布主題図を作成した。なお、背景の地形データには世界測地系で作成された国土地理院基盤図であるため、3次元メッシュデータは世界測地系に位置を補正後、市内の地図と重ね合わせた。また、2000年を境にして、その前後における生息確認状況を比較するため、その確認メッシュを分けて表示した。

なお、本報告では、その鳥類目録作成における分類や学名の扱いと掲載の順序、渡り区分については、日本鳥学会(2024)による「日本鳥類目録改訂第8版」(以下、「改訂第8版」とする)に準拠した。また、県内における渡り区分については、沖縄野鳥研究会(2010)及び日本鳥学会(2024)を参考にした。

3. 調査結果と考察

(1) 市内における確認鳥類

調査の結果、市内における鳥類の生息分布図を作成するためのメッシュデータ(鳥類記録データベース)を集計すると、1980年代からスタートした初期の定点メッシュ調査のレコード数は約1100件(個)であった。その後、前述したように開設以降、毎年調査報告が見られる水鳥湿地センターにおける鳥類調査記録を加味し、さらに市内各地における過去の調査記録なども活用した。さらにまた、前述したように最近の生息現状を把握するための現地調査として、市内各地で定点メッシュ調査を実施した。特に漫湖干潟や与根遊水地(以下、三角池とする)、豊崎干潟、与根海岸、瀬長島周辺、豊見城城址公園、県営海軍壕公園などの調査区においては複数回調査を実施した。したがって、本調査によるこうした現地調査結果を加味すると、そのレコード数は全体で延べ2798件であった。したがって、これらを総計すると、市内における全鳥類記録データベースは延べ3898件である(附表1(抜粋)参考)。

こうしたデータベースを集計・解析すると、本市においては19目48科245種(亜種・外来種含む)の鳥類が記録されていることになり、その「豊見城市鳥類目録(2026)」は巻末に掲載した。市内で確認された鳥類について、おおよその「渡り区分」で見ると、渡りを行わない留鳥が33種(全体比13%・外来種含む)、夏期に渡来し繁殖する夏鳥が7種(3%)、沖縄より南に越冬地を持ち、沖縄を通過する旅鳥と沖縄で越冬する冬鳥は明確に区分することが困難な種が多いことからまとめて扱くと205種(迷鳥含む:全体比84%)になった。したがって本市の鳥類生息の状況は、夏鳥と旅鳥および冬鳥(迷鳥含む)が全体比86%とその主体を占めることが理解された(図2)。

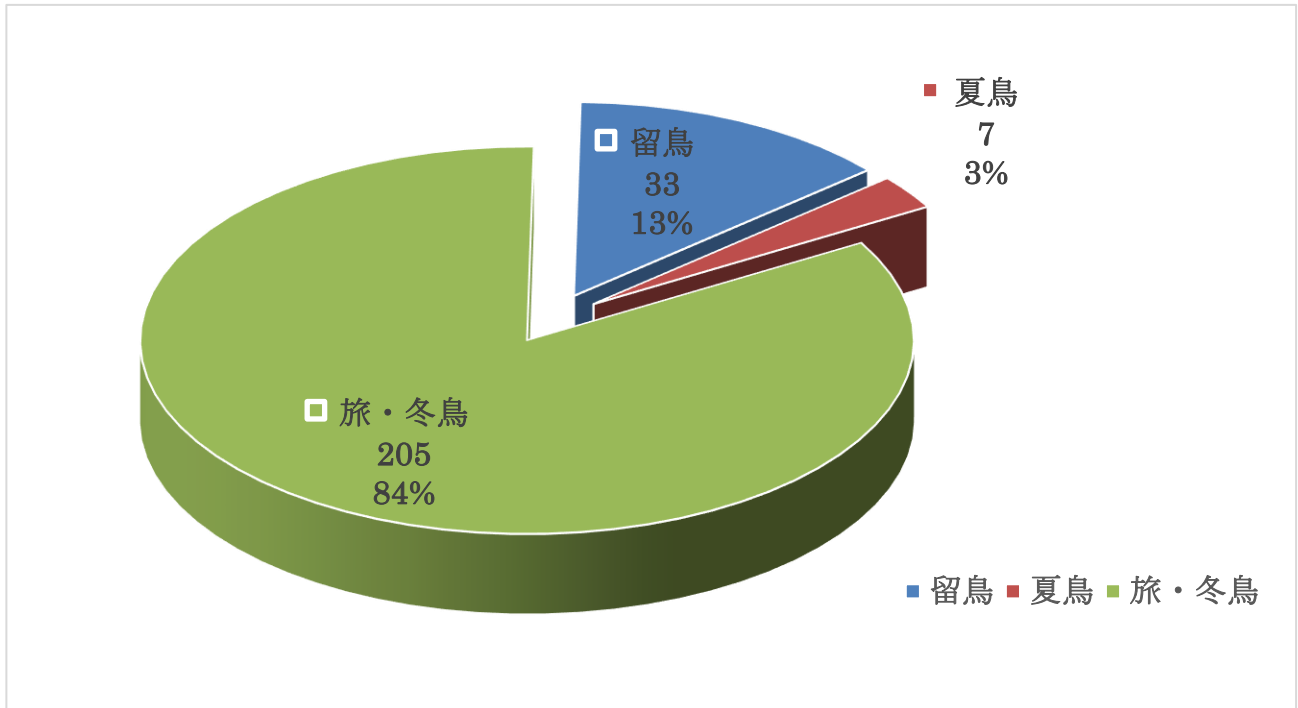


図2. 豊見城市の鳥類渡り区分図

なお、本報告で確認種数を亜種含むとしたのは、留鳥として生息する亜種と冬季に渡来する亜種の区別が明確にできる種が見られることによる。具体的には、例えば、種ウグイスや種メジロ、種ヒヨドリなどでは、それぞれの亜種を留鳥及び旅鳥や冬鳥に明確に渡り区分を行うことが可能であることによる。

また、市内における調査メッシュを示し、さらに各調査メッシュにおける出現種数を解析すると(図3)、やはり漫湖干潟の所在する2メッシュが161種及び101種と市内でも格段に鳥類種が数多く確認されている。これは調査努力量にも依存するが、本干潟はシギ・チドリ類やサギ類、ガンカモ類など水鳥を中心に秋期から冬季に数多く飛来し生息することがこれまでも知られているので、干潟環境に生息する留鳥を含め、渡来する水鳥の種類数が数多く確認されていることを裏付ける結果となった。さらに本地区にはマングローブ林が見られその南側には豊見城城址公園となっていて、自然林に覆われている森林地域も一部に見られるため、森林性のスズメ目に属する小鳥類が生息する地域となっていることで、その出現種数をさらに押し上げているものと考えられる。

次いで、出現種数の多いのは与根調整池(三角池)が129種、豊崎干潟が114種などその確認種数は多くなっている。これらの地区もやはり漫湖干潟と同様に水鳥を中心にした渡り鳥が数多く飛来する場所である。特に三角池は冬季の時期には希少種のクロツラヘラサギをはじめ、ここで越冬するセイタカシギのようなシギ・チドリ類、コガモやハシビロガモのようなガンカモ類が多く見られることで、その出現種数は多くなっている。したがって、市内ではこうした水鳥の渡来地として、鳥類とその生息地保護を図る上で重要性の高い場所が複数所在することが確認されたことになる。このことから、市内のこうした場所は現在ラムサール条約により登録され、国際的にも保護すべき湿地としての漫湖干潟以外にも、三角池や豊崎干潟は鳥類保護の観点からその渡りの中継地や越冬地として、その保全をさらにすすめていく必要があるだろう。

なお、市内田頭地区(39272513)においては、調査メッシュとしての調査もれが見られたが、追加の補足調査を行い、11種が確認されたことからデータベース上には反映している。以下に、市内で確認された鳥類の渡り区分に従って、市内におけるその生息現状をまとめた。

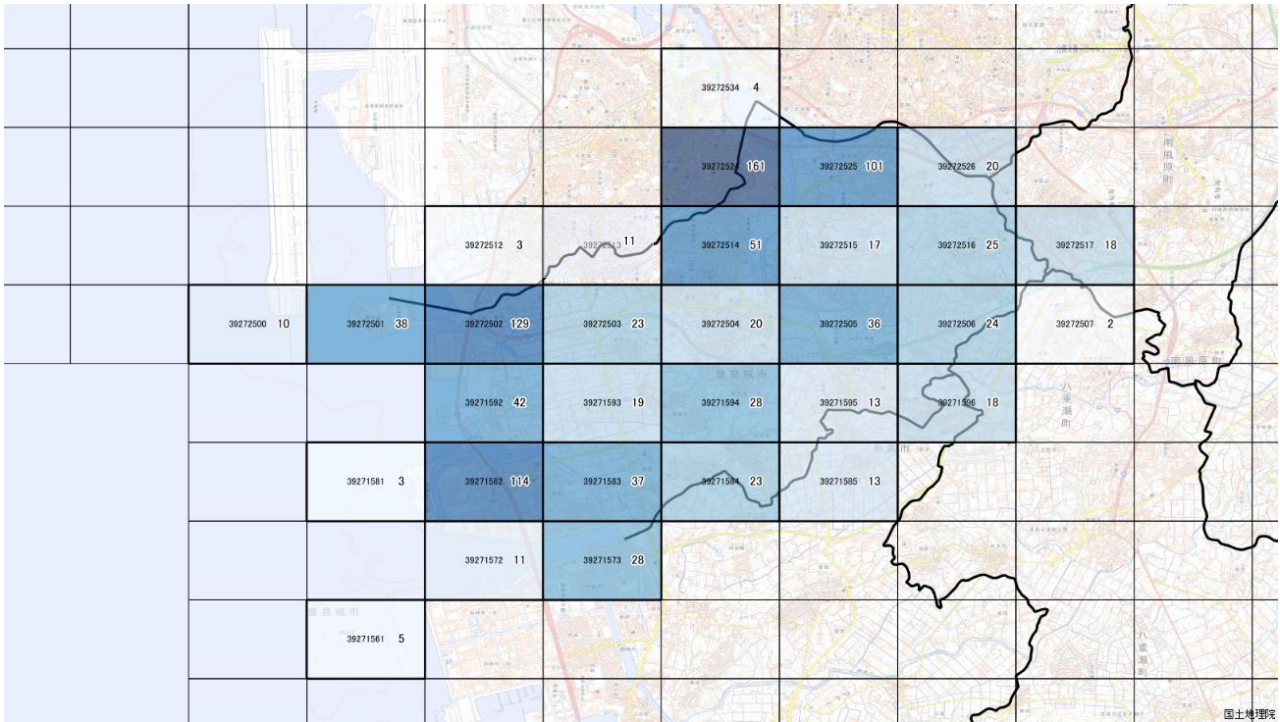


図3. 調査メッシュと各メッシュにおける出現種数(*出現種数の多さは色の濃淡で表示)

1) 留鳥の生息状況

本調査とこれまでの確認記録を整理すると、市内から前述したように 33 種(亜種・外来種含む)の留鳥が確認された(表1)。特に、これまで冬鳥とされてきたコサギとムクドリは市内での繁殖活動の確認や繁殖期に亜成鳥の群れが確認されたことで、その一部は留鳥と見なしてよいものと思われる。また、主に森林地域に生息するリュウキュウツミやリュウキュウアオバズクが市街地の多い市内でも緑地公園などで確認された。したがって留鳥数はこれまでの種数より4種増加することになる。しかしながら、リュウキュウヒクイナやリュウキュウヨシゴイ、ミフズラなどについては、その生息確認地(メッシュ数)が少なく、生息個体数やその生息地が減少傾向にあると考えられる種も見られる。こうした種の中には沖縄県レッドリスト(県自然保護課編 2017)に掲載され保護すべき希少種も見られることから、市内においてはこれらの種が激減しないようその生息地の保全や外来種対策などを進め、種の保全を進めることが今後重要なことであろう。

なお、沖縄島では留鳥として扱われるカルガモやカイツブリ、オシドリは市内では冬季のみに確認され、その繁殖が確認されなかったことから、冬鳥としての渡り区分を行った。また、本来は留鳥を含め全確認種について、その生息分布図を作成することが可能であるが、限られたページ数をもとに作成された本報告では、市内で確認された留鳥の中から国指定天然記念物や「改訂版沖縄県レッドリスト(以下県版レッドリストとする)」に掲載されている貴重種や希少種、さらに特筆すべき鳥類などについて独自の判断で選定し、その生息分布図を作成して、市内におけるその生息状況等を概観し、以下のようにまとめた。

表1. 豊見城市の留鳥

和名	繁殖の有無	確認地・備考
リュウキュウヨシゴイ		与根・漫湖干潟など
クロサギ	◎	
ゴイサギ	◎	与根(繁殖)
コサギ	◎	与根(ゴイサギとの繁殖コロニー形成)
リュウキュウキジバト		
カラスバト		豊見城城址公園・豊崎
リュウキュウズアカアオバト		独立種・豊見城城址公園など
シロチドリ	◎	与根・豊崎など
バン	◎	
リュウキュウヒクイナ		三角池(与根巣遊水地)など
シロハラクイナ		
ミフウズラ		最近の生息確認はない。激減
リュウキュウツミ	◎	海軍壕公園(繁殖)
リュウキュウアオバズク		豊見城城址公園・漫湖干潟・海軍壕公園(繁殖)
カワセミ		三角池・漫湖干潟など
リュウキュウコゲラ		
リュウキュウサンショウクイ		独立種となる。
オキナワシジュウカラ		
ダイトウウグイス		
セッカ	◎	
リュウキュウヒヨドリ		
リュウキュウツバメ	◎	
リュウキュウメジロ	◎	
スズメ	◎	
リュウキュウハシブトガラス		
ムクドリ		与根・瀬長(隣接する那覇市と糸満市でも留鳥)
イソヒヨドリ	◎	
シロガシラ	◎	外来種(亜種不明)
ギンバラ		外来種
アミハラ	◎	外来種
ドバト		外来種
ヘキチョウ		外来種

*本目録には沖縄島で留鳥とされる種を含み、市内では繁殖未確認種を含む。

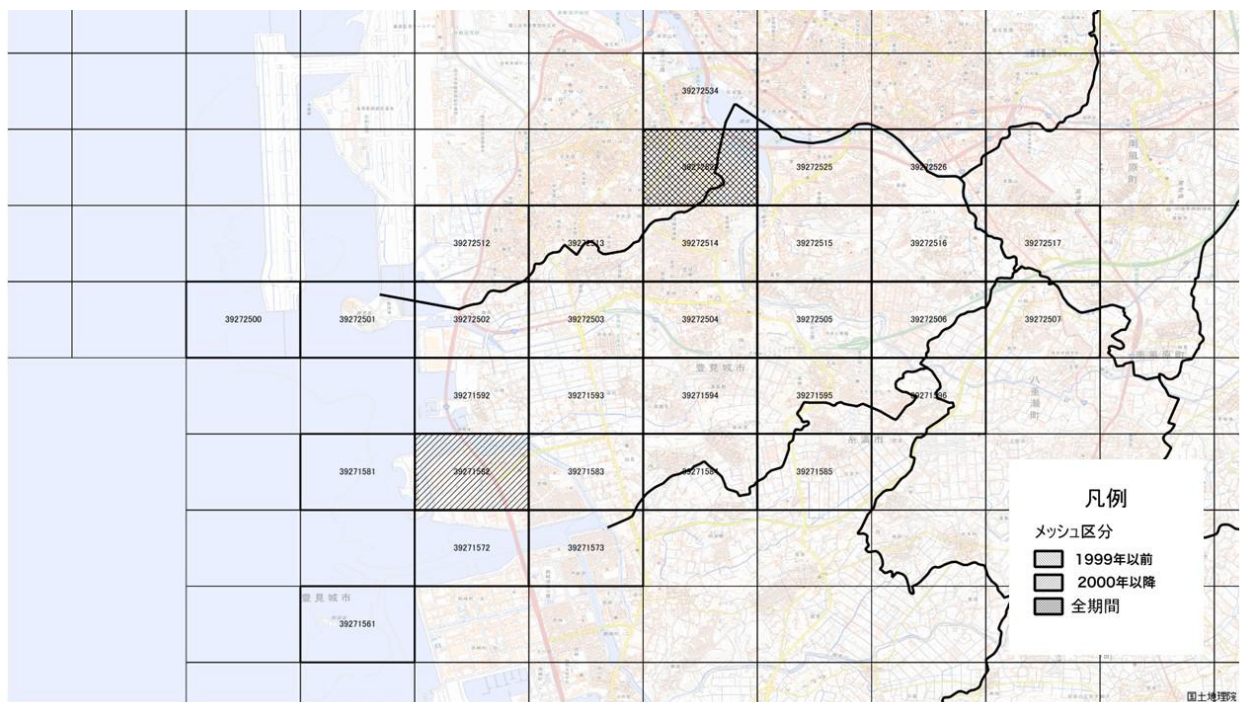
① カラスバト *Columba janthina janthina*

1991年10月13日に豊見城城趾公園に近い森林地域と、2013年5月9日に豊崎の道路(メッシュコード: 39271582)でロードキル個体が拾得された。したがって、市内2メッシュでのみでその生息地域が確認された(生息分布図1)。

これは渡り個体の通過とも考えられるが、市内には小規模ながら残存するまとまった森林地域が見られることから、こうした森林にごく少数が生息している可能性があるため、留鳥とした。

本来、本種は鬱蒼とした常緑広葉樹林が見られるような広大な森林地域を主要な生息地としているが、沖縄島南部の市街地に近い森林で生息確認されたことは、島南部に所在する残存林が本市の森林環境を含め回復傾向にあることが考えられ、特筆すべきことであろう。特に市内の豊見城城址公園は、その北側や東側の斜面は戦後ほとんど手つかずの自然林となっており、鬱蒼とした森林景観でその回復傾向が見て取れる。

本種は国指定天然記念物に指定された貴重種であり、「県版レッドリスト」で「絶滅危惧Ⅱ類」にランクされている保護すべき希少種である。したがって、市内の緑地公園や御嶽林、墓地林などを含め、まとまった形で見られる残存林はそのまま維持し、さらに公園緑地を創造し、できるだけ本種の生息地環境の保全に留意すべきであろう。



生息分布図1. カラスバト

凡例

メッシュ区分

-  1999年以前
-  2000年以降
-  全期間

(*拡大以下同じ)

② リュウキュウズアカアオバト *Treron riukuensis permagnus*

市内からは漫湖干潟周辺や真玉橋近くの森林部、翁長や豊見城城址公園周辺(写真 4)の森林など残存林を中心に5メッシュで確認された(写真7・生息分布図2)。本種は前述したカラスバト同様、主に森林地域に生息するハト類であるが、市内における生息分布はカラスバトより確認地は多く、市内の小規模な残存林などでも生息している状況が確認された。

本種(亜種)は、日本鳥学会(2024)による「目録改訂第 8 版」に準拠すると、ズアカアオバトの亜種として分類され、亜種 *Treron formosae permagnus* とされている。しかしながら、種 *T.riukuensis* として独立種とする見解もあり、こうした根拠に基づく鳥類図鑑も見られる(Brazil 2009)。本報告ではこの扱いに準拠し、種 *T.riukuensis* とした。このこと

ことから、本種は琉球列島に特産する固有種となり沖縄島産の亜種名はリュウキュウズアカアオバト

T.r.permagnus となる。したがって、本種はカラスバト同様にその生息分布域が限定された貴重なハト類であり その保護のためには市内における森林環境の維持とともに公園整備においてさらなる森林の創造が求められる。



写真7.リュウキュウズアカアオバト(豊見城城址公園)



生息分布図2.リュウキュウズアカアオバト

③ リュウキュウヨシゴイ *Ixobrychus cinnamomeus*

市内では長堂や真玉橋など6メッシュで確認され(生息分布図3)、特に最近では三角池や水鳥湿地センターの所在する漫湖干潟でしばしば観察されている(写真8)。

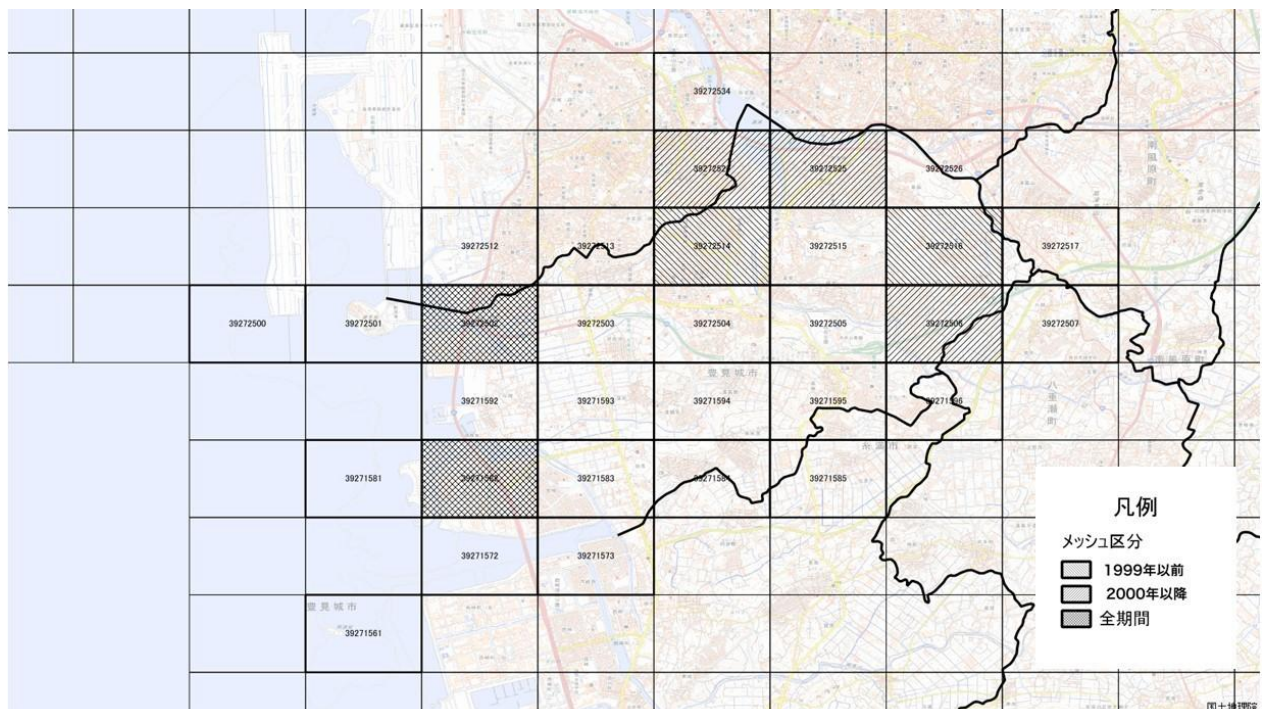
他には豊崎地区の埋め立て事業に伴う環境調査における確認例(沖縄県土地開発公社 2012)も見られるが、確認地が明確に示されていないので、メッシュ図には表示していない。現在、豊崎地区は大型の商業施設等が設置され、その北側や西側に干潟の一部が残されているとは言え、その生息地の一部は失われていると見るべきであろう。したがって、本種の市内におけるその確認地はかなり少数である。おそらく、市内における本種の主な生息地である湿地環境が、市街地化の進行や海岸線の埋め立てなどにより減少し、このことが個体数の減少傾向を伴っている可能性がある。

また、本種は河川や湿地に近い農耕地沿いのアシ原やパラグラスの繁茂する草原などの地表に近い場所で営巣することが知られているが(嵩原ら 2022)、本市も含め沖縄島には外来種であるマングースが定着し、さらに野生したイヌやネコなども見られることで、その卵や雛、若鳥などが捕食を受け、数を減らしている可能性も高い。

本種は「県版レッドリスト」で「準絶滅危惧種」として選定掲載されている保護すべき希少種である。したがって、本種の保全を考える場合、その生息地となる湿地やアシ原の復元などの環境保全策とともに、こうした外来種の個体数管理を合わせて行うことが必要と思われる。



写真8. リュウキュウヨシゴイ(漫湖干潟)



生息分布図3. リュウキュウヨシゴイ

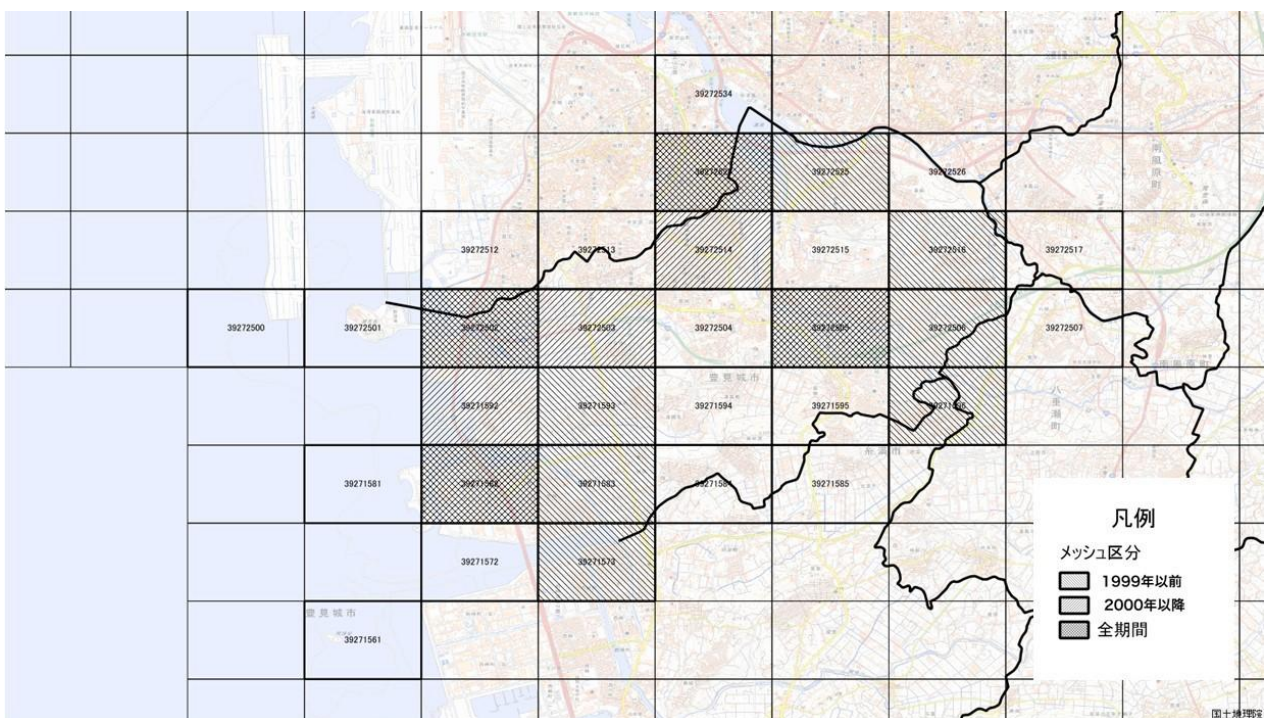
④ コサギ *Egretta garzetta garzetta*

本種はこれまで県内各地では、その渡り区分として「冬鳥」(沖縄野鳥研究会 2010・日本鳥学会 2012)として扱われているが、前述したように、2011年5月に市内与根地区にある植木用に密に植栽されたリュウキュウコクタン上でゴイサギと同所的な繁殖コロニーを形成して繁殖した(沖縄タイムス 2011年5月27日付け総合一面・名護博物館編 2011・写真9)。この繁殖コロニーが発見されたのは同年5月25日で、ゴイサギが約100羽、コサギ(写真3)が約20羽のコロニーであったという(大城亀信氏私信)。したがって、本確認例が沖縄島でコサギの繁殖が確認された初めての確認例であり、本市においてはコサギの一部個体は留鳥であることが確認された。しかしながら、本種の中には冬季に飛来する個体も多いものと考えられ、市内では留鳥として生息する個体だけでなく、この冬鳥としての渡来個体を含んでいる可能性が高い。したがって、市内では12メッシュで確認されているが(生息分布図4)、留鳥としての生息分布域を考えると幾分過大評価の可能性はある。

なお、最近、本種は沖縄島中部の沖縄市泡瀬地区でも、ゴイサギと同所的なコロニーを形成し繁殖をはじめ、より留鳥化の傾向が高まってきている状況が報告されている(嵩原ら 2019)。したがって、本市も含め沖縄島においては、本種の一部個体は留鳥と見なしてよいであろう。



写真9. コサギとゴイサギの繁殖コロニー(与根)



生息分布図4. コサギ

⑤ リュウキュウヒクイナ *Porzana fusca phaeopyga*

市内では三角池や豊崎干潟などにおける生息が確認されたが、4メッシュとかなり少ない生息確認地となっている(写真 10(奥間邑明氏提供)・生息分布図5)。本種は河川沿いの湿地を主な生息地としており、警戒心が強く開けた場所には姿を現すことが少ないため、幾分過少評価であろう。しかしながら、本市の市街地化に伴い湿地環境の埋め立てが進行し、このことが本種の生息地の減少を伴っている可能性がある。本種はまた地上を主な生活の場としており営巣も地上で行うが、野生化したイヌやネコその他、外来種として導入された哺乳類のマンガースが市内各地で定着しているため、その卵や雛及び成鳥の捕食等、その生息に大きな生態的な影響が及んでいる可能性が考えられる。

本種は、「県版レッドリスト」で「準絶滅危惧種」にランクされている保護すべき希少種である。したがって、本種の保護については、湿地環境の維持と野生化したイヌやネコ、外来種マンガースの捕獲を伴う個体数管理を行うなど、陸上生態系保護の観点からも何らかの対策を検討すべきである。

なお、冬季には別亜種ヒクイナが冬鳥として渡来するとされている(日本鳥学会 2024)が、市内では確実な観察記録がないので、目録には採録掲載していない。しかしながら、冬季に飛来している可能性は高いものと思われ、冬季には2亜種が混在して生息している可能性がある。したがってその飛来生息に留意することが必要である。



写真10. リュウキュウヒクイナ(三角池)



生息分布図5. リュウキュウヒクイナ

⑥ シロチドリ *Charadrius alexandrinus nihonensis*

市内では漫湖干潟沿いや与根や瀬長島周辺の海岸線など 11 メッシュで確認された(生息分布図6)。特に2019年6月21日に瀬長島に隣接する那覇空港新滑走路建設用地南側(392725-00)で、2巢の抱卵を確認した(写真11)。また、同年6月に与根にある旧ゴルフ場造成地(現総合病院)でも番(つかい)がみられ、巣や雛を守る「偽傷行動」が見られたのでここでも繁殖していた可能性がある。さらに、同時期に豊崎地区の人工ビーチで亜成鳥2個体(写真12)を含む4個体が確認されたので、ここでも繁殖していることは間違いない。おそらく、これらの地域以外でも瀬長島北側の砂浜のある自然海岸線などで繁殖し、定着して生息しているものと思われる。

本種は秋期や冬期には個体数が増加することから、留鳥として生息する個体以外に、旅鳥や冬鳥としての渡来や越冬個体が存在することに留意が必要である。

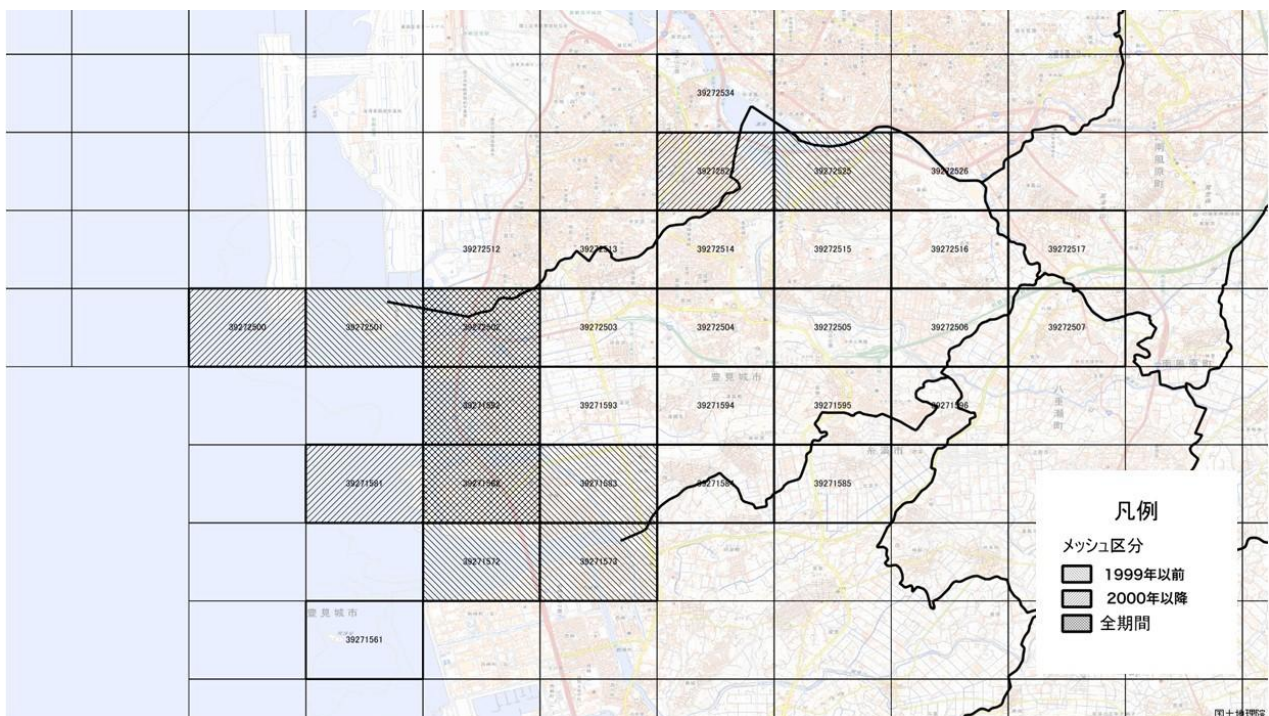
なお、本種は、「県版レッドリスト」で「準絶滅危惧種」にランクされている保護すべき希少種である。したがって、市内に残る砂浜海岸はその繁殖地として、今後ともにその保全に努めるべきである。



写真11. シロチドリ(卵:瀬長島地先)



写真12. シロチドリ(幼鳥:豊崎)



生息分布図6. シロチドリ

⑦ ミフウズラ *Turnix suscitator okinavensis*

市内では 1999 年 5 月 29 日に保栄茂(びん)の農耕地で番(つがい)が確認され、わずか 1 メッシュのみの確認である(生息分布図7)。しかしながら、最近の現地調査においてもその生息を追認することはできず、市内ではかなり激減している状況が見られる。おそらく、このことは本市の市街地化により、その生息地である農耕地や牧草地などの減少傾向(豊見城市 2022)が見られることと、地上で採餌や繁殖を行う本種にとっては市内で定着している外来種のマングースや野生化したネコなどによる捕食圧の影響が大きいものと考えられる。したがって、前述したリュウキュウヨシゴイやヒクイナと同様にその保護に関しては、外来種のマングースや野生化したネコなどの捕獲を含めた個体群管理が必要であろう。

なお、本種は沖縄県版レッドリストで「絶滅危惧Ⅱ類」にランク掲載されている希少種であり、市内でもその保護を図ることが必要である。したがって、外来種対策と並行して、農業生産の場としての農地等を維持し、本種の生息地の維持をすすめる必要がある。



生息分布図7. ミフウズラ

⑧ リュウキュウツミ *Accipiter gularis iwasakii*

漫湖水鳥湿地センターや県営海軍壕公園、豊見城城址公園など市内6メッシュで確認され(生息分布図8) 残存する市内の森林や緑地の多い公園などの他、緑の少ない市街地の街路樹などでも目撃された。特に県営海軍壕公園では 2020 年 7 月にリュウキュウマツ *Pinus luchuensis* で営巣を観察し、雛4個体(上江田利伸氏私信)が確認された(嵩原ら 2025・写真 13~15)。ここではほぼ毎年のように営巣が見られることから、安定した生息地(繁殖地)となっていることが示唆された。なお、同地区での育雛の観察時に雛への餌として、メジロが捕獲され給餌されたことから、こうした市街地の緑地に生息する小鳥類が餌資源として利用されていることも確認した。

さらにまた、本営巣地は 2021 年から 2023 年も同一営巣木で繁殖を行ったことから、4 年間継続して同一営巣木(リュウキュウマツ)の利用が確認された。しかしながら、2023 年は同営巣地で抱卵まで確認されたがその途中で営巣放棄がみられた。これは市内で増加してきているハシブトガラスの影響と考えられている(金城昌一氏私信)。

本種(亜種)は本来まとまった森林地域に生息しているが、最近では森林地域から離れた市街地近くの公園における生息や街路樹などへの営巣と、市街地への進出に伴う生息分布拡大の傾向(都市鳥化傾向)があることが嵩原・渡久地(1997)や嵩原ら(2009)及び嵩原ら(2025)などによっても指摘されている。したがって、今回の調査においても市街地近くの緑地公園における繁殖であり、この傾向を裏付ける観察であろう。

本亜種の分類学的な扱いについては、「日本鳥類目録改訂第8版(日本鳥学会 2024)」においては、沖縄島産は亜種リュウキュウツミ *A. g. iwasakii*と同じ扱いにしている。

これは、最近の研究成果として、沖縄島産ツミの計測結果から亜種リュウキュウツミと同定した研究(山階鳥類研究所 2017)や遺伝的な解析で八重山諸島産リュウキュウツミと同じ遺伝子を持つことを指摘する報告(Nagai *et al* 2020)に基づく考え方である。したがって、本報告でも考えに準拠し、沖縄島産亜種を亜種リュウキュウツミ *A. g. iwasakii*として扱った。このことから、本亜種は環境省や沖縄県版レッドリストでは「絶滅危惧 I B 類」にランク掲載されている保護すべき希少種であり、市内における残存林の維持や公園緑地の更なる創出など、本種の生息環境の維持とその拡大を図る必要があるものと思われる。



写真 13. リュウキュウツミの雌(海軍壕公園)



写真 14. リュウキュウツミの巣(海軍壕公園)



写真 15. リュウキュウツミ
(雛:海軍壕公園)



生息分布図8. リュウキュウツミ

⑨ リュウキュウアオバズク *Ninox scutulata totogo*

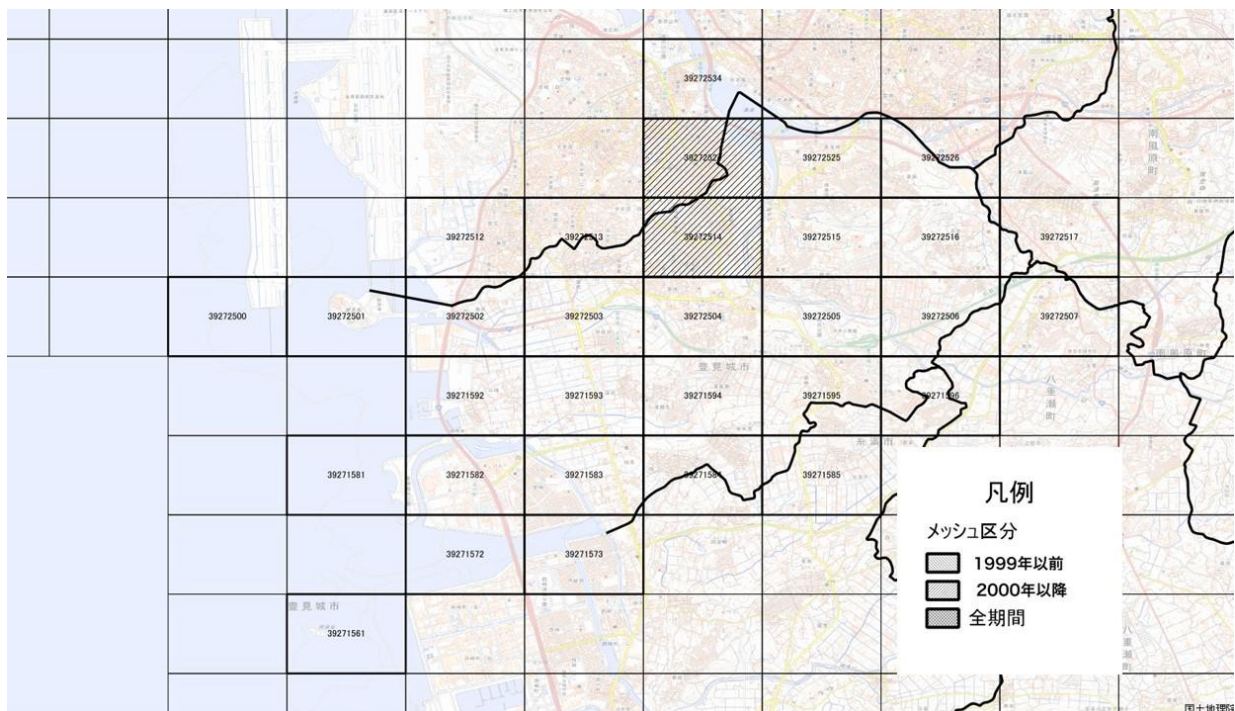
2018年と2019年にかけて、豊見城城址公園周辺の森林地域で確認された。また、同城址公園に隣接する漫湖水鳥湿地センター周辺でも確認例が見られる(漫湖水鳥湿地センター管理運営協議会 2023)。さらに県営海軍壕公園の緑地で2023年5月に繁殖が確認された(写真16.松田昌一氏私信)。したがって、生息確認地は2メッシュであるが(生息分布図9)、おそらく、市内では県営海軍壕公園以外にもこうした森林がまとまって見られる地域(緑地公園・墓地林)にも生息している可能性がある。

本種(亜種)は本来、森林環境が広がる沖縄島北部の山地森林地域に生息しているが、最近では沖縄島中部に所在する市街地近く緑地公園でも繁殖が確認されており(髙原ら 2019)、沖縄中・北部部島地域の森林地域からより南の市街地近くの緑地公園や残存林などに生息分布を広げている傾向がある。これは市街地に隣接した小規模な緑地公園などの街灯に夜間集まる昆虫類を餌資源として利用することで、市街地近くでの生息が可能となっているものと考えられる。

さらに最近、琉球列島に生息するアオバズクの生息適地に関しては伊藤(2018)により、プレイバック法を用いてその生息分布のモデル解析に関する研究が見られ、その各環境要因の寄与率や重要度などの解析が地域ごとに行なわれている。その結果、本亜種は特に中琉球地域において連続した森林面積や農耕地の面積割合、最大森林面積の順にその寄与率や重要度が高いことが指摘されている。この中では農耕地が広がるにしたがって本亜種の在確率が高まることは興味深いことであり、さらにその環境選択性を比較すると、耕作地の周りに森林がある地域を選好して生息しているらしいという。したがって、市内ではさらに生息範囲が広がる可能性があり、今後、詳細な生息調査が必要であろう。



写真16. リュウキュウアオバズク(雛2: 県営海軍壕公園・松田昌一氏提供)



生息分布図9. リュウキュウアオバズク

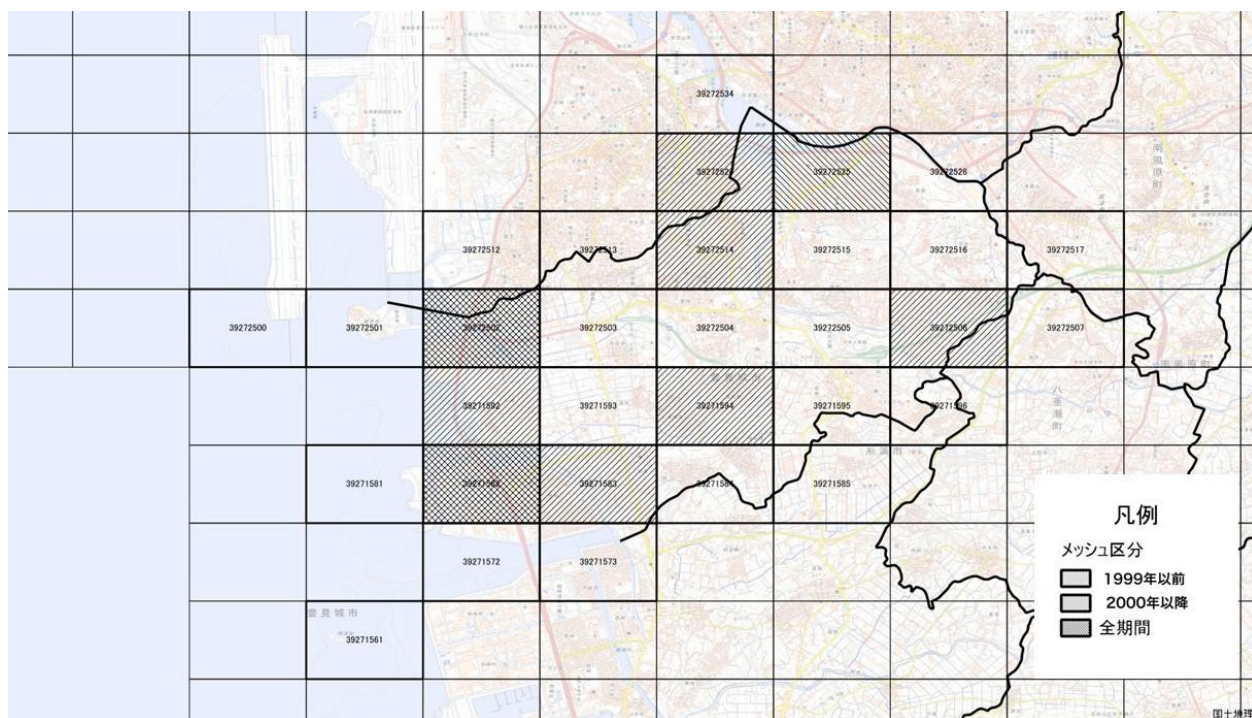
⑩ カワセミ *Alcedo atthis bengalensis*

市内の漫湖干潟、与根の三角池周辺(写真17)、豊見城団地北東の饒波川や保栄茂川沿いなど9メッシュと干潟や河川沿い、海岸などの地域で確認された(生息分布図 10)。本調査以外では豊崎地区における埋め立て事業に伴う環境調査での生息確認の報告が見られ(沖縄県土地開発公社 2012)、同地区では現在でも創出された干潟や水路などで生息していることを確認している。おそらく、市内では調査がおよんでいない住宅地域や農耕地などを流れる小河川や小水路でも生息しているものと思われることから、幾分過少評価であろう。これは市内各地の河川や水路には川の汚れに強い外来種のテラピアが定着し、これを餌資源として市街地河川沿いにおいても生息しているものと考えられ、市街地の中であってもその姿を見る機会が増えたように思われる。これは隣接する那覇市の市街地内における生息状況についても同様な指摘がされている(嵩原ら 2009)。したがって、今後生息調査が進むことで、本種の生息確認地はさらに増えることが予想される。

なお、本種は、「県版レッドリスト」でも「準絶滅危惧種」にランクされている保護しなくてはならない希少種である。したがって、市内にある河川域はその繁殖地として保全に努め、特にその営巣地となる河川護岸を防災上支障のない範囲で巣穴が掘れるような環境にするべきであろう。



写真17. カワセミ(与根)



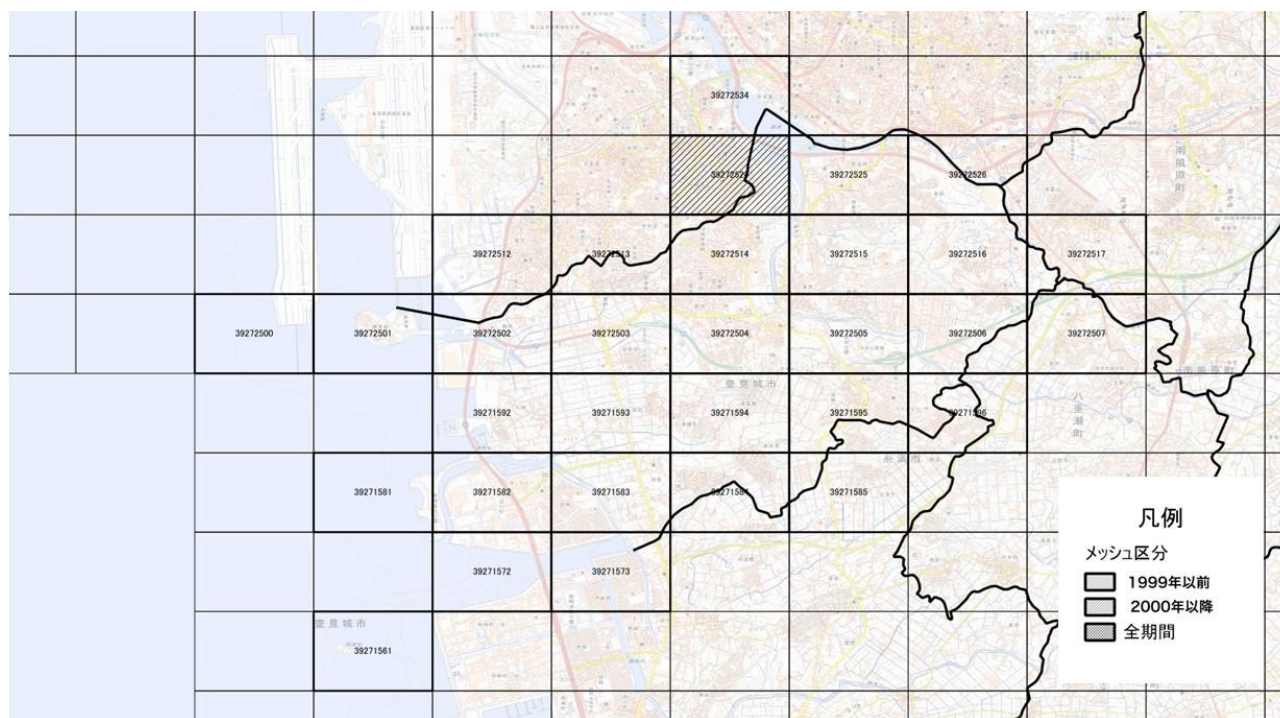
生息分布図 10. カワセミ

⑪ リュウキュウコゲラ *Dendrocopos kizuki nigrescens*

市内では2006年度に実施された漫湖干潟周辺のマングローブ林や海岸林近くの調査で確認され、1メッシュでの確認である(生息分布図 11)。これは本市の街地化が著しく、まとまった森林地域は少ないが、おそらく本種(亜種)は市街地に隣接した小規模な海岸林やマングローブ林、内陸の自然林に囲まれた豊見城城址公園のような緑地公園などに進出して、少数が生息しているものと思われる。

本種(亜種)は最近、沖縄島南部の市街地近くの公園でも繁殖を始め、本来まとまった森林地域の見られる島中北部域から離れて、島南部の市街地に隣接した小規模な残存林や公園緑地、墓地林などに依存して生息し、「都市鳥化」の傾向が報告されている(青柳 2016・嵩原ら 2019)。おそらく、こうした傾向が進展していくことで、本種の「都市鳥化」はさらに確定的になるものと考えられ、本市でも緑地公園などで定着することが考えられる。

なお、本種は「県版レッドリスト」でも「準絶滅危惧種」にランクされている保護すべき希少種である。したがって、本種が定着して生息するためには、市内の森林環境の維持と回復を図ることが重要であることは言うまでもない。

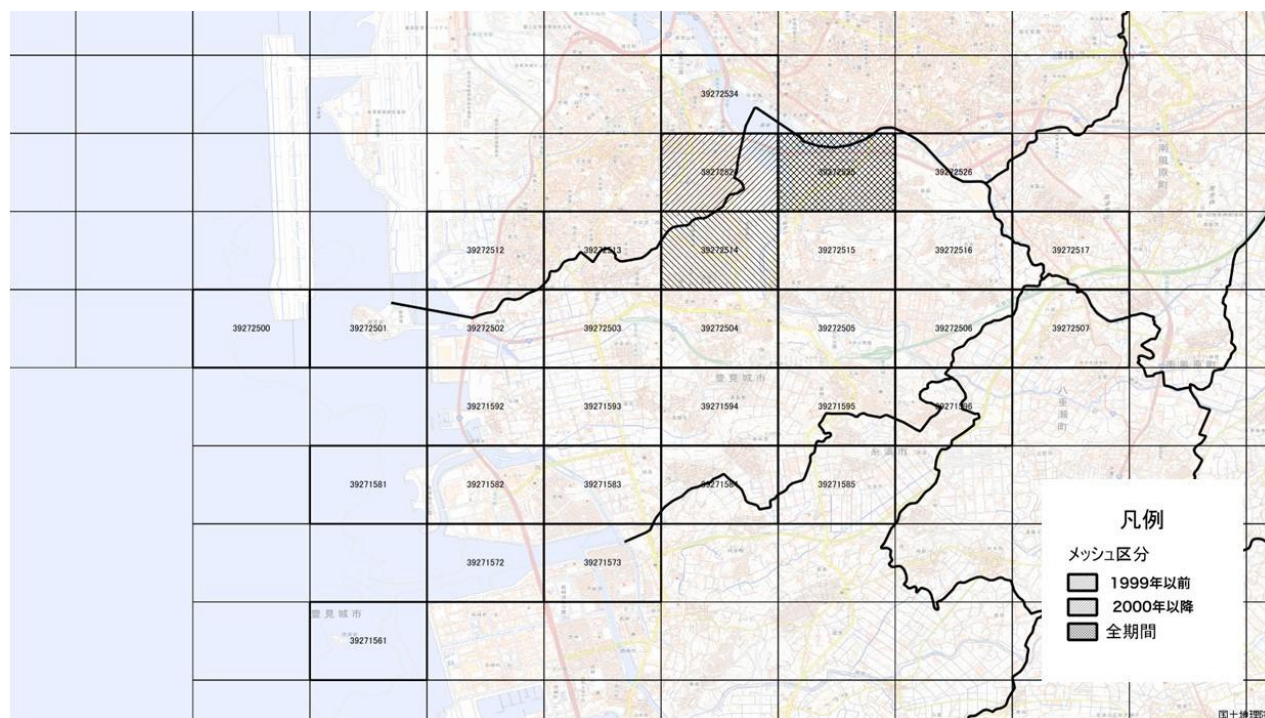


生息分布図 11. リュウキュウコゲラ

⑫ リュウキュウサンショウクイ *Pericrocotus tegimae*

市内においては3メッシュで確認された(生息分布図 12)。特に豊見城城址公園や真玉橋周辺の森林地域で確認された。本種は最近、本来の森林地域から離れ、市街地の街路樹などでも繁殖を始め、市街地環境への進出(都市鳥化)の適応傾向が見られる種である(嵩原ら 2021)。したがって、市内における確認もこうした傾向を示唆しているものと思われる。

なお、本種は新たに公表された日本鳥学会(2024)による「目録改訂第 8 版」では、これまでの種サンショウクイの亜種から、独立した「種」に分類が変更され、種リュウキュウサンショウクイとなった。したがって、本来は琉球列島に生息分布を持つ貴重な固有種であったが、最近、九州や四国から本州の関東地域までその生息分布を広げており(日本鳥学会 2012・三上・植田 2011)、環境適応性や分散能力の高い種と考えられる。さらに世界的な鳥類記録のネットワークである「e-Bird」(2022 年 9 月 12 日閲覧)における本種の確認記録を見ると隣国台湾や中国の上海までその生息分布を広げており、その分散適応能力の高さがうかがえる。したがっておそらく、市内においても今後生息分布地が広がる可能性が考えられ、今後の動向を注視していく必要がある。



生息分布図 12. リュウキュウサンショウクイ

⑬ ダイトウウグイス *Cettia diphone restricta*

市内では保栄茂や高嶺、饒波川など、繁殖期である夏季に生息確認されている個体を留鳥の亜種ダイトウウグイスとした。これは後述するように冬季に沖縄で越冬する亜種ウグイスとの混同をさけるためである。したがって、市内では4メッシュで確認された(生息分布図13)。おそらく、市内では農耕地周辺や緑地公園周辺などに見られるススキ草原などを中心に生息しているものと思われる。

本種(亜種)は渡りを行わないウグイスの一亜種で、沖縄島各地で留鳥として普通に生息し、亜種和名はダイトウウグイスとされている(日本鳥学会 2024)。本亜種は亜種ウグイス *C. d. cantans* に比べやや大きく、特に嘴が細長いとされ、また下面も暗色で、背面の色も亜種ウグイスに比べ、より褐色味が濃いとされる(永井 2016)。しかしながら、これらの亜種の野外識別には困難さがある。

なお、日本鳥学会(2024)では、沖縄諸島に冬季に渡来する冬鳥として亜種ウグイスを認めている。また、梶田(2002)及び斎藤・西海(2018)は、県内に冬季に渡来する灰緑色のウグイスを亜種リュウキュウウグイス *C. d. riukiensis* として扱い、その繁殖地は本土より北方にあるとしているが、まだ特定されていないとの指摘が見られる。日本鳥学会(2024)もこの考えを採用し、この冬季の渡来種として別亜種リュウキュウウグイスを認めている。したがって、留鳥の亜種ダイトウウグイスを始め、冬季には渡来する亜種ウグイスなど様々なウグイス類の亜種が市内に渡来し生息する可能性があることがわかり、冬季には留鳥以外に、渡来種としての複数亜種が混在して生息することがわかる。

本亜種ダイトウウグイスは、環境版(2020web 版)のレッドリストでは「情報不足種(DD)」としてランク掲載されている。したがって、その保護のためには、その生息分布について各地域における情報を集積していくことが必要であり、掲載ランクを明確にするためにも、沖縄島におけるその生息分布の状況を把握する必要がある。そうした観点から本市内における生息分布状況についても解析し、本報告に掲載することにした。



⑭ ムクドリ *Sturnus cineraceus*

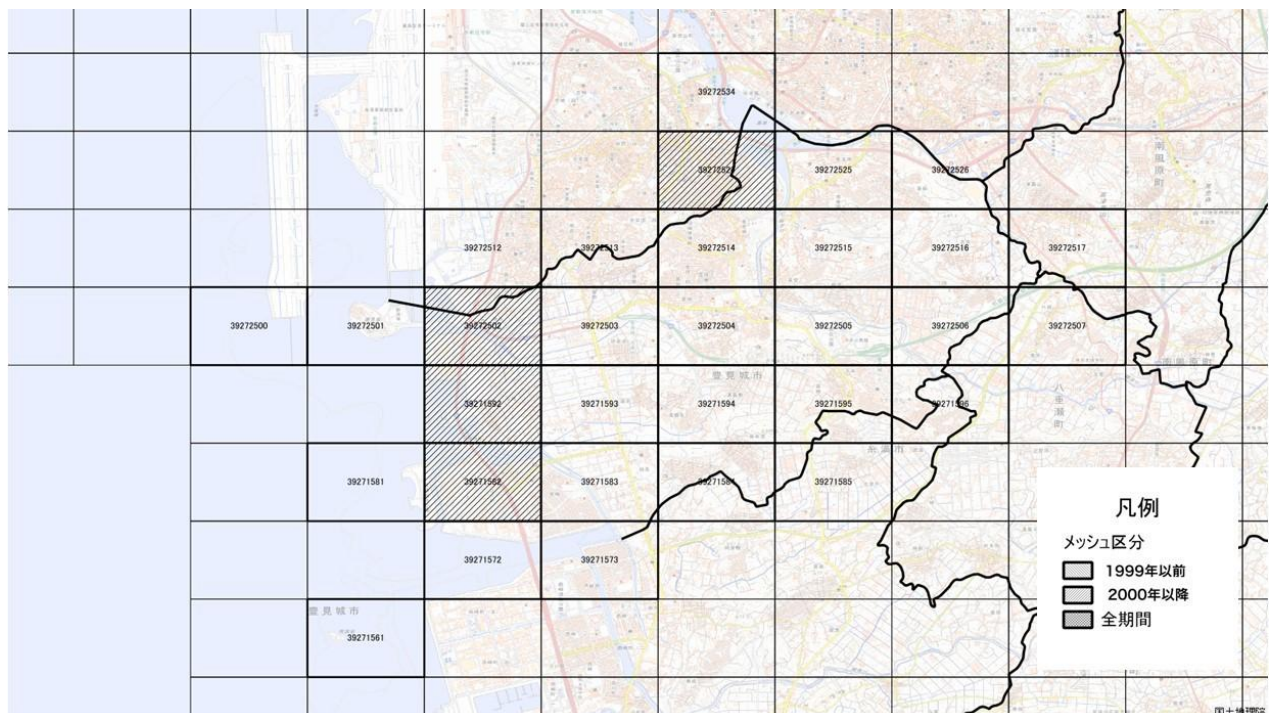
市内では三角池周辺と漫湖干潟周辺で確認され、4メッシュにおける確認地がみられた。特に2019年6月21日に瀬長島野球場の駐車場脇にある芝地で採餌している1個体を確認した(写真18)。また、2023年8月には三角池近くで80個体以上の群れを観察した。したがって、これは渡り個体の可能性もあるが、本種の繁殖時期後半であり、越夏ではなく、ここで定着している可能性が考えられた。その根拠として、特に2019年6月の観察は、同年5月から6月にかけて、隣接する那覇市の山下町と糸満市内の潮崎地区で本種の繁殖を確認したことによる(嵩原ら 2021)。おそらく、この同時期に市内で確認されたことは、これら隣接する市外からの飛翔個体の可能性もあるが、本市内でも那覇市や糸満市と同様に繁殖活動を行い、留鳥として定着しているものと思われる。そのことを裏付けるように、市内では2019年9月15日の調査では、三角池近くのサッカー場芝地で50個体以上の成鳥と若鳥の混じった群れが採餌している状況を確認した。さらに2023年6月にも隣接する具志地区で若鳥を含む30個体余りの群れを確認した。ここでの繁殖行動は確認していないが、冬鳥としての本来の渡来時期としてはかなり早期であることから、ここでほぼ留鳥化して定着していることを示唆しているものと思われた。

本種は県内では通常冬鳥(沖縄野鳥研究会 2010)として渡り区分されているが、沖縄島や伊江島、野甫島での繁殖が知られ、一部留鳥化している(日本鳥学会 2012)。したがって、今回の確認は沖縄島における留鳥化が拡大してきている傾向を示すものであろう。

なお、本州の都市地区においては、しばしば冬季のねぐらに集まる大集団が街路樹などある特定の場所に集合する結果、その鳴き声や大量の糞の落下などにより、人間生活への大きな影響が生ずることが指摘されている(唐沢 1991)。したがって、その個体数の増加には市内でも注視していく必要がある。



写真 18. ムクドリ(瀬長島)



生息分布図 14. ムクドリ

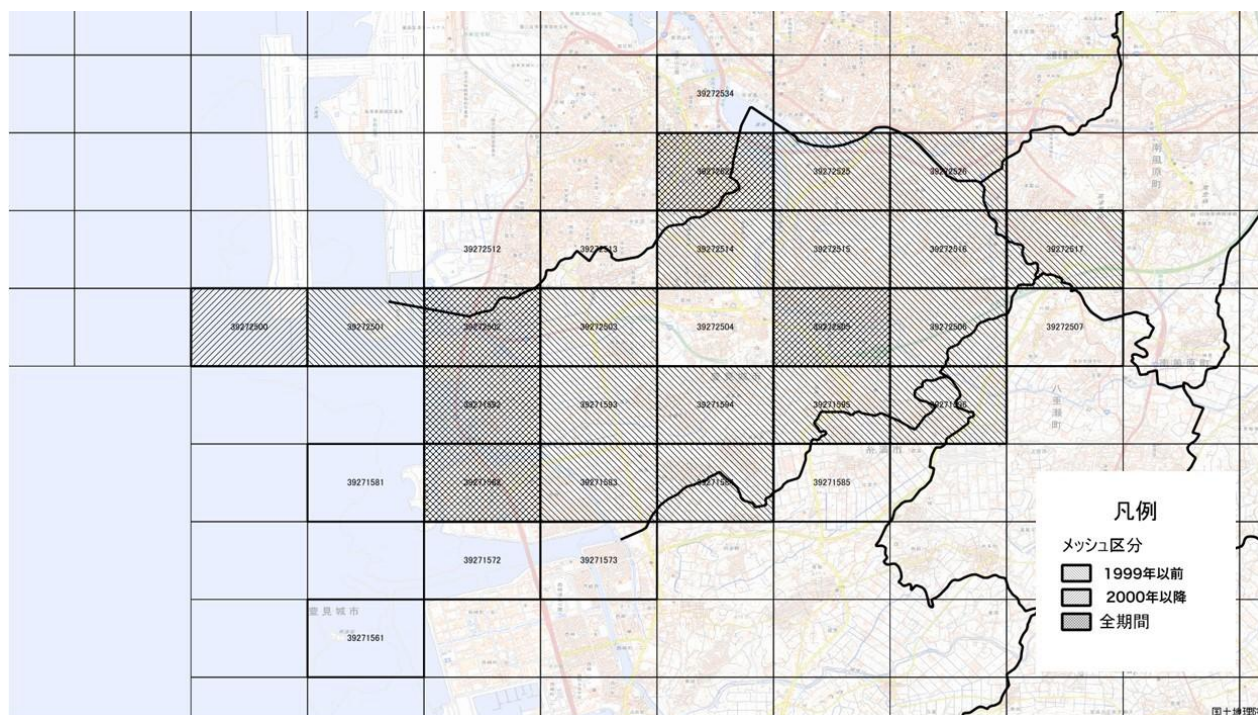
⑮ セッカ *Cisticola juncidis brunniceps*

市内の農耕地などを中心に 22 メッシュで確認された(生息分布図 15)。本種はチガヤやススキ草原、サトウキビ畑周辺などに普通に生息している(写真 19)。

しかしながら、本市における確認メッシュの大部分が 1980 年代の調査初期の確認記録である。現在では市内における市街地化が進行し、草原や農耕地などの減少傾向が見られることから(豊見城市 2022)、本種の生息地は減少傾向にあるものと考えられる。したがって、2000 年以降は三角池や瀬長島周辺など数メッシュで確認され、ごく最近の調査では豊崎地区の未利用地草原でも確認されたが、その生息確認地は少ない。したがって、生息域の減少とともに、おそらく本種の市内における個体数は減少傾向であろう。このことから、本種が市内で激減しないように、市内における生態系の保全からその生息地となる草原や農耕地などの維持・回復が必要であろう。したがって、今後も詳細な調査を実施し、本種の個体数や生息地の動向にも注意を払う必要がある。



写真 19. セッカ(豊崎)



生息分布図 15. セッカ

⑩ シロガシラ的一种 *Pycnonotus sinensis* ssp.

市内では22メッシュと大部分の地域で生息が確認された(生息分布図16・写真20)。しかしながら、本調査では豊崎に所在する人工ビーチ周辺などは未確認メッシュとなっているが、おそらく、ここでも生息しているものと思われ、市内ほぼ全域に生息していると考えた方がよいであろう。

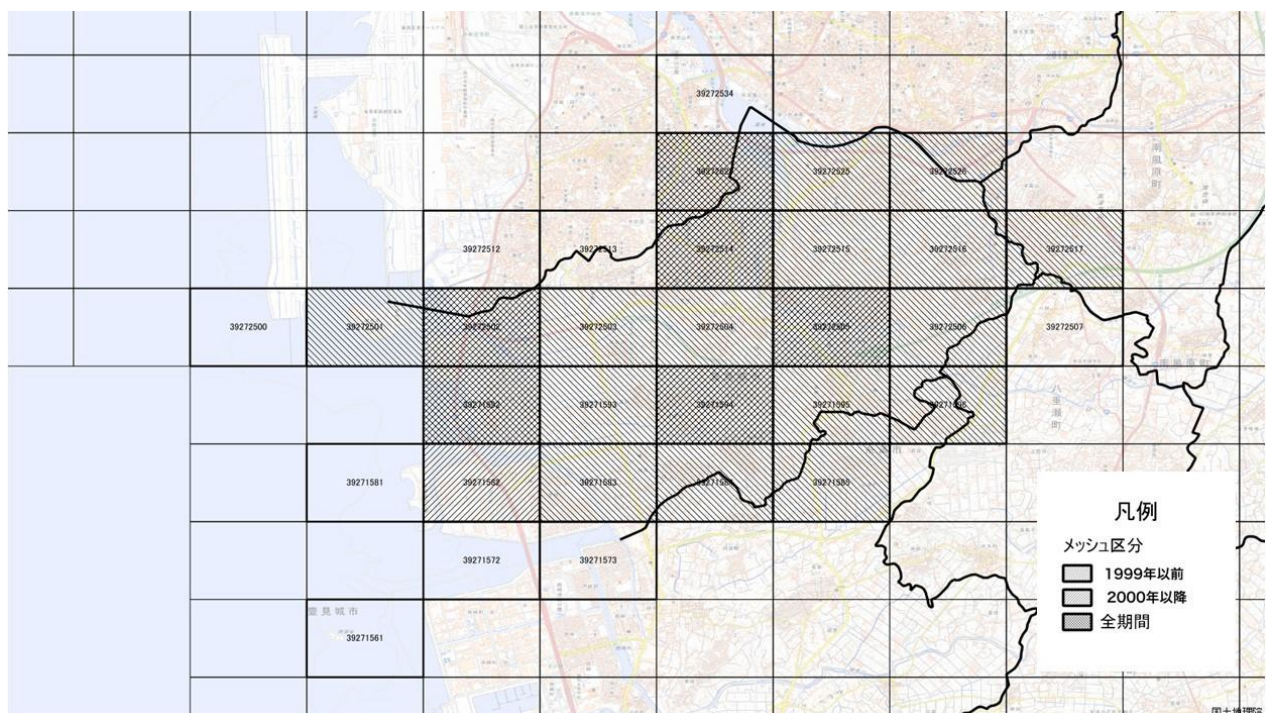
本種は沖縄島においては「外来種」とされ、1976年に糸満市における生息確認以降(比嘉 1976)、その後沖縄島中・北部へと生息地を拡大していったことが知られている。その結果、現在は沖縄島全域での生息状況が見られ、さらに周辺離島へも生息分布は拡大してきている。

しかしながら、その生息分布の拡大に伴い、秋季から冬季に見られる集団個体がしばしば野菜類などを食害し、大きな農業被害が出ることもある。したがって、その農業被害の対策を検討する上でも、市内においてもその生息状況を経年的に把握することが大切であり、本報告においてもその生息状況を掲載することにした。今後、市内における本種の個体群の動向に注視していく必要がある。

なお、本種(亜種)の分類学的な扱いについては、日本鳥学会(2024)は、「改訂第8版」では亜種不明で本目録に掲載しており、亜種がまだ確定していない。これは今後の研究を待つべきであろう。



写真20. シロガシラ(外来種)



生息分布図16. シロガシラ

2) 夏鳥の確認状況について

市内に所在し、まとまった森林緑地が見られる公園や墓地林など残存する森林地域ではアカショウビンとサンコウチョウが飛来していた。一方、豊崎地域の海岸近くでは海洋性のアジサシ類であるベニアジサシやエリグロアジサシが渡来していたことが知られている(沖縄県土地開発公社編 2008)。これらの夏鳥は一般的に沖縄島近海では海岸近くの無人島や岩礁などで繁殖している。さらに、市内では糸満市西崎区に隣接する岡波島で、2020年8月20日の調査でベニアジサシやエリグロアジサシの繁殖が確認され、さらにマミジロアジサシの繁殖の可能性も考えられている(渡久地豊氏私信)。

本調査で市内において繁殖が確認されたのは、他にコアジサシとツバメチドリの2種であった。この中でコアジサシは埋め立て地などを繁殖地しているため、かつては豊崎地区の埋め立てが進む中で、そのサンゴやレキ砂などが混じった埋め立て地で繁殖したことが知られている(内間邑明氏私信)。ここでは2020年6月6日にも豊崎に所在する人工ビーチで1巢の抱卵が確認された(写真21)。また、瀬長島に隣接するゴルフ場跡地を造成した場所で数番(つがい)の営巣がみられた。さらにまた、2019年6月21日には瀬長島地先沖合にある新那覇空港滑走路建設地(現在は供用:392725-00)においても、数個の営巣例と抱卵個体が確認された。この建設用地では同所的にツバメチドリも数番の営巣抱卵を確認した(写真22)。したがって、市内における夏鳥は繁殖未確認種も含まれるが、この7種と見なした。この7種の中でツバメチドリとマミジロアジサシの生息確認は市内では初めてであろう。なお、夏鳥についても、その生息分布図作成は可能であるが、割愛してある。



写真21. コアジサシ抱卵
(豊崎人工ビーチ)

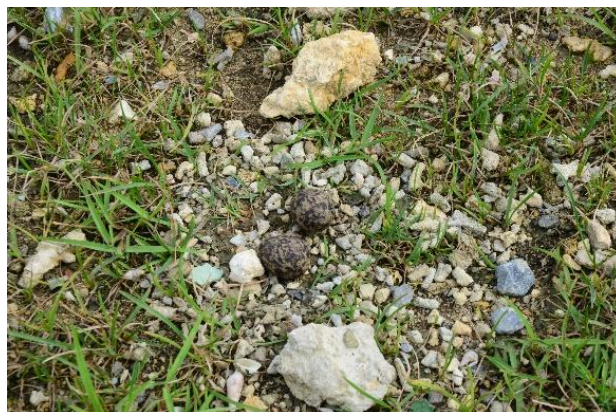


写真22. ツバメチドリ(巣と卵)
(瀬長島地先)

3) 旅鳥及び冬鳥(迷鳥含む)の確認状況について

沖縄県内では、例えばサンバのように、主たる群れは10月頃を通過し、東南アジアなどで越冬する旅鳥であるが、一方では農地や森林地域で越冬する個体も普通に見られる。したがって、通過する旅鳥や越冬する冬鳥については、明確な渡り区分を行うことに困難さがある種が数多く見られる。このことから、これをまとめて扱うと前述したようにその確認種は204種となる。本来はその確認種全種についても生息分布図を作成することが可能であるが、本報告ではページ数の都合によりその生息分布図は割愛し、この中から特筆すべき種を独自の判断で選定し、市内におけるその確認状況などについて、以下にまとめた。

① アメリカコガモ *Anas crecca carolinensis*

市内では1981年1月17日から1月22日に漫湖干潟で初確認(沖縄島)されているが(McWhirter *et al* 1996)、ごく最近の2023年1月に与根三角池でも雄1個体が確認された(写真23・奥間健二氏私信)。本種の雄は側胸に細い白帯が見られることが大きな特徴であり、今回確認された個体はその特徴を備えていたため、本種と同定した。したがって、市内(沖縄島)では42年ぶり2例目の記録と思われる。本種は国内でも稀な迷鳥であり(日本鳥学会 2024・永井 2016)、県内にもごく少数が迷鳥として飛来することが確認された。



写真23. アメリカコガモ(三角池)
(奥間健二氏提供)

② メジロガモ *Aythya nyroca*

2020年12月26日に三角池で1個体が確認された(写真24)。本種は沖縄島初確認として、2020年11月に大宜味村大保ダムで確認された(渡久地豊氏私信)。しかしながら、同個体は同所においてしばらく滞在した後に姿を確認することができなかった。その後、島南部の本市内で1個体が確認されたことから、おそらく、大宜味村で見られた個体が本市まで移動したものと考えられた。本個体は2020年12月26日から2021年1月中旬まで三角池に滞在した。

本種は迷鳥として県内に渡来し、これまで南大東島や宮古諸島の池間島での観察例があり、八重山諸島の石垣島では2008年1月の渡来例が知られている(沖縄野鳥研究会 2010)。また、最近では北大東島で2015年3月の確認例が見られ(城間 2019)、県内では飛来例が増加している。



写真24. メジロガモ(三角池)

③ シノリガモ *Histrionicus histrionicus*

2022年1月19日に与根漁港沖合で3個体が確認された(写真25・渡久地豊氏私信)。本種は慶良間諸島の座間味島で古い観察記録が知られ、日本鳥学会(2012)の日本鳥類目録には座間味島においての迷鳥(AV:偶発的にしか記録されない鳥類)としての記述が見られる。おそらく、今回の確認は沖縄島では初めての確認例であろう。

本種はシベリア東部やカムチャツカ、北千島、さらにアラスカから北アメリカ西岸北部までの広い地域で繁殖することが知られ、国内では本州北部の沿岸域で越冬することが知られている北方性のカモ類である(黒田編 1984)。また、本種は北海道や本州北部の溪流で少数繁殖するカモ類であり(日本鳥学会 2024)、南西諸島まで南下してくるのは、極めてまれであろう。



写真25. シノリガモ(与根漁港)

④ ベニバト *Streptopelia tranquebarica*

2019年6月21日に与根のゴルフ場跡で1個体が観察された(写真26)。本個体は前日の雨で水がたまったゴルフ場跡地周辺に降り立ち、採餌をしていた。その後、人間の接近に気づき護岸沿いの電線にとまった後、瀬長島海岸方向に飛去した。市内においては、1982年10月24日に与根において目撃記録があることから、今回が2例目の確認であろう。

沖縄野鳥研究会(2010)によると、本種は迷鳥として県内各地に渡来するとされるが、八重山諸島ではその飛来数は多いように思える。しかしながら、沖縄島ではかなり稀な迷鳥であろう。



写真26. ベニバト(与根)

⑤ ヨーロッパムナグロ *Pluvialis apricaria*

2022年9月25日に豊崎干潟の休息地として設置された人工島で1個体が確認された(写真27:大内若葉氏撮影・私信)。本種はムナグロより一回り大きく、翼下面全体が白いことが大きな識別点であり(宮島ら2012・永井2016)、本個体はこうした識別点で本種と同定された。

本種については、宮島ら(2012)によって2011年9月30日に金武町における確認が国内初記録として報告されている。その後、金武町において2019年11月に県内2例目の再確認記録が見られる(嵩原ら2020)。国内では2012年12月に石川県での確認が知られており(真木ら2014)、市内における今回の確認は国内4例目の渡来であろう。



写真27. ヨーロッパムナグロ
(豊崎干潟:大内若葉氏提供)

⑥ ミヤコドリ *Haematopus ostralegus osculans*

市内では1989年の5月と11月に与根の東海岸で確認され、さらに2002年11月23日に瀬長島近く海岸や那覇市側の具志干潟でも1個体が観察されている(嵩原ら2003)。したがって、市内では2例の確認例が見られる。

本種は県内ではまれな迷鳥として渡来することが知られ(沖縄野鳥研究会2010)、日本鳥学会(2012)の日本鳥類目録には、琉球諸島においては不定期渡来(IV)として、沖縄島や宮古島、石垣島、西表島に、南大東島に迷鳥(AV: accidental visitor)として飛来するとしている。また、沖縄島では最近うま市具志川照間海岸や海中道路周辺で2014年11月に2個体の観察記録(嵩原ら2019)などが知られている。したがって、市内でもごくまれな渡り鳥である。

⑦ オオチドリ *Charadrius veredus*

2011年3月27日に豊崎地区の建築物が設置されていない埋め立て地内にある草原化した環境で夏羽1個体が確認された(写真28)。本種はまれな旅鳥として県内各地に渡来することが知られている(沖縄野鳥研究会2010)。したがって、本市の埋め立て地がそのままの状態であり一時的に草原化した環境が渡り中途の休息地となっていた。しかしながら、その後、この渡来地は建築物などが立ち、草原的環境が変容したことで、この確認以降、ここでは本種の渡来例は見られない。



写真 28. オオチドリ (豊崎埋め立て地)

⑧ コバシチドリ *Eudromias morinellus*

市内では1975年1月(与根)、2007年12月(豊崎:写真29)の2回の渡来記録が知られている(沖縄野鳥研究会2010)。本種は日本鳥学会(2024)によると、県内では沖縄島と宮古島での確認例が迷鳥(AV)として扱われており、極めて稀な渡来種である。したがって、市内における2回の渡来記録は特筆すべきことであろう。

2007年12月に渡来した個体は、同地区の埋め立て地が草原化した場所や隣接する残存干潟で見られた。したがって、埋め立て地は建築物が立つなど大部分が変容したが、干潟環境は存在しているため、今後も渡来し越冬する可能性が考えられる。



写真 29. コバシチドリ(豊崎)

⑨ シロアジサシ *Gygis alba*

2004年9月17日に市内で傷病鳥として保護され、動物病院で治療を施されたが、その後死亡した。その後同標本は県立博物館に収蔵され、剥製標本として製作保存されている(嵩原ら2008)。この市内における本記録が沖縄島における初確認記録である。

本種は県内では沖縄島と宮古島で迷鳥(AV)として飛来例が知られている(日本鳥学会2012)。最近では、沖縄市泡瀬地区でも2022年6月に1個体が確認されている(嵩原2022)。

本種は太平洋、大西洋、インド洋の熱帯および亜熱帯の島嶼などで繁殖し、非繁殖期はその周辺に生息することが知られている(桐原ら2009)。

⑩ モンゴルセグロカモメ *Larus vegae mongolicus* (別名:モンゴルカモメ)

2000年2月17日に第1回冬羽の幼鳥1羽が漫湖干潟に飛来したのが観察されている(写真30:山城正邦氏私信)。この記録が沖縄県での初めての記録と思われる。また、2020年2月23日には与根干潟南側エリア(本市豊崎と糸満市西崎との間)で1羽、同年2月26日別個体と思われる1羽を三角池で確認されている。いずれも第1回冬羽で、三角池に飛来した個体は釣り人が捨てたものと思われるテグスを飲み込んでおり、餌が十分に取れず同年3月22日に瀬長島近くの水路で保護されている(山城正邦氏私信)。

本個体は若鳥で、全体的に白色味があり、さらに飛翔時に尾羽の黒帯が細く、また初列風切の内側が白く抜けていることなどから、永井(2005)及び永井(2016)の指摘する本亜種モンゴルカモメの識別点に合致していた。

本亜種は日本鳥類目録改訂第7版(日本鳥学会 2012)では、亜種キアシセグロカモメ *Larus cachinnans mongolicus* として記録掲載されている。しかしながら、IOC(国際鳥類学会議: Bird List Ver.12)では、セグロカモメ *L. vegae* の亜種 *L. v. mongolicus* として分類されており、その亜種区分に混乱が見られる。今回、本報告では日本鳥学会(2024)に準拠して亜種和名はモンゴルセグロカモメ *L.v. mongolicus* とした。



写真30. モンゴルセグロカモメ(若鳥)
(豊崎地先:山城正邦氏撮影)

⑪ オニアジサシ *Sterna caspia caspia*

市内では2003年3月と2018年11月の2回、那覇市側の具志干潟と本市の三角池周辺を飛び回る個体の飛来が確認されている(嵩原ら 2003・嵩原ら 2019))。特に2018年の飛来では6個体とその数も多く飛来した。その後、2019年10月20日には与根や三角池周辺で1個体が飛来していることが確認されている(写真31:上原勇氏私信)。

本種は県内各地に迷鳥(AV)として渡来することが知られ(日本鳥学会 2012)、ごく少数が渡来してくる。したがって、本市での確認も迷鳥としての渡来である。



写真31. オニアジサシ(与根海岸)

⑫ ジャワアカガシラサギ *Ardeola speciosa*

2019年9月14日の朝に三角池で冬羽の1個体が複数の観察者により確認された(新垣裕治氏私信・立松聖久氏私信)。しかしながら、本種とアカガシラサギの幼鳥や冬羽個体の識別には困難があるとされている(永井 2016)。今回の確認された個体は冬羽の個体で、その頭部の色がアカガシラサギのようにバフ色が顕著ではなく、薄い褐色を呈し、胸部の斑紋も細く、淡い色であったためジャワアカガシラサギと同定した。

本種は2010年7月に沖縄島北部の名護市古我知水田で冬羽の1個体が国内初確認され、さらに本種の夏羽の観察例として、2010年9月には大宜味村大保で頭部が白色に換羽した夏羽の1個体が確認されている(嵩原ら 2013)。最近、読谷村でも確認例が見られ(嵩原・ウーゴ 2022)、その根拠として、特に飛翔した個体では翼の先端部分に暗色の部分が見られないことが観察され、その識別点の根拠が報告されている。したがって、本種は国内におけるきわめて稀な迷鳥であるが、最近県内における観察例が増加してきており、市内での記録も特筆すべき観察例のひとつであろう。

しかしながら、日本鳥学会(2012)による「日本鳥類目録改訂第7版」では本目録には掲載されておらず、検討中のリストに掲載されている。これは本種の観察記録が公表されず、その同定について他種との比較検討が行われた論文の公表がないことがその根拠となっている。このことから、本報告でもその識別点を明示した報告として公表することにした。

⑬ ブロンズトキ *Plegadis falcinellus*

2021年5月初旬に三角池で1個体が観察された(写真32:内間邑明氏私信)。同年4月1日には石垣島において国内で最も多い飛来数の19個体が確認されている(琉球新報デジタル版:2012.4.5付け・中本純市氏私信)。その後、この群れは分散し、久米島で2個体(盛長ら2025)、与那国島で1個体(嵩原ら2022)など、石垣島から移動してきたと考えられる個体の確認例が見られた。したがって、沖縄島に飛来した個体もその群れの一部個体であろう。本個体は同年5月16日の夕刻まで三角池で滞在したことが知られている(上原勇氏私信)。

本種の沖縄県内(沖縄島)における観察記録は、嵩原(2003)によって、国内初記録としての観察記録が知られているが、籠脱けの可能性を否定できないとしている。その後、2012年6月に慶良間諸島の座間味島と同年6月9~19日に沖縄島金武町並里地区、2014年4月に、慶良間諸島の渡嘉敷島、2014年4月から5月にかけて再び金武町並里で3個体の確認例が知られている(宮島ら2015)。このことから、日本鳥学会(2024)による「目録改訂第8版」では初めて日本の鳥として鳥類目録に掲載された。



写真32. ブロンズトキ(三角池) (奥間邑明氏提供)

⑭ オオフラミンゴ *Phoenicopterus roseus*

市内では2015年1月10日に三角池で若鳥が確認された(写真33)。本種の沖縄島における確認記録については、2014年12月にうるま市照間のイグサ栽培地で同様に若鳥が1個体観察されている(うるま市教育委員会2016)。また、うるま市に隣接する沖縄市の比屋根湿地近くの水路でも2014年12月~2015年1月にかけて若鳥1個体が確認されている(嵩原ら2019)。これらはおそらく同一個体の移動による目撃例であろう。

本種はしばしば動物園で飼育されることから、かご脱けした国外からの飼育鳥(外来種?)の可能性も考えられている。しかしながら、隣接する台湾や中国において、自然分布と考えられる個体飛来例が見られることから、嵩原ら(2019)は、沖縄でも同様に本来の生息地であるインドや東南アジアなどから飛来してきた自然分布の可能性も否定できないものとしている。したがって、これが自然分布であれば沖縄県における確認事例は、国内初の渡来記録であろう。



写真33. オオフラミンゴ(三角池)

⑮ コミミズク *Asio flammeus flammeus*

2008年12月12日に豊崎地区の埋め立て地が草原化した場所で確認された。本種は数少ない冬鳥として渡来し農耕地や牧草地、埋め立て地など県内各地で越冬することが知られている(沖縄野鳥研究会 2010)。本市でも前述したように草原化した環境で昼間はねぐらを取り、夕刻から活動している状況が確認された(写真 34)。しかしながらその利用は一時的で、2009年以降はその越冬地に大型商業施設が建設され、その越冬地は消失した。おそらく、市街地化が進行する市内では、現在わずかに残る農耕地や牧草地などを越冬地として利用している可能性がある。



写真34. コミミズク(豊崎)

⑯ ナンヨウショウビン *Todiramphus chloris collaris*

2017年8月10日に那覇市と豊見城市にまたがって所在する漫湖干潟のマングロブ林で、著者の一人である比嘉により1個体が確認された(富田 2019・嵩原ら 2019;写真 35)。本個体は同日の11時30分ごろにとよみ大橋から饒波川方向に伸びるマングロブ林の中にとまっていた。その後、8月13日の観察では、漫湖水鳥湿地センター側に設置されたマングロブ観察用木道デッキ近くに移動していた。同個体はここで同年8月から翌年の2018年4月13日まで約8ヶ月間滞在した。



写真 35. ナンヨウショウビン(漫湖干潟)

本種は県内では石垣島において1975年10月12日から11月2日まで観察されたのが国内初記録である(McWhirter et al 1996)。その後、1985年3月には西表島での観察例も知られている。こうした確認例がまとめられ、日本鳥学会(2012)による「日本鳥類目録改訂第7版」では宮古・八重山諸島(宮古島・石垣島・西表島・与那国島)と沖縄諸島の久米島で不定期渡来(AV)として渡来として扱われている。したがって、沖縄島では富田(2019)や嵩原ら(2019)によっても指摘が見られるように、今回が初めての確認記録である。

⑰ ハイイロオウチュウ *Dicrurus leucophaeus*

2019年10月16日に漫湖水鳥湿地センター近くで1個体が確認された(写真 36)。本種は国内(県内)では不定期飛来やまれな迷鳥(AV)として渡来することが知られている(沖縄野鳥研究会 2010・日本鳥学会 2012)。国内(県内)では1996年10月に与那国島における国内初記録(嵩原ら 2000)の後、沖縄島や粟国島、座間味島、伊良部島、石垣島、西表島などにおける確認例が見られる(日本鳥学会 2012)。したがって、国内(県内)でもかなり稀な渡来種であり、今回の確認記録は市内から初めての記録として特筆すべき渡来記録であろう。

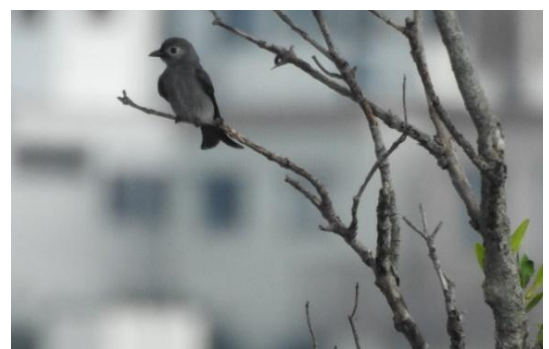


写真 36. ハイイロオウチュウ
(漫湖干潟)

⑧ カンムリオウチュウ *Dicrurus hottentottus brevirostris*

市内では2004年10月22日に沖縄野鳥研究会の大城亀信氏(私信)によって、瀬長島の雑木林で1個体(写真37)が観察された。しかしながら、ここで長い期間留まることはなかった(嵩原ら2008)。

本種は国内では極めて稀な迷鳥(AV)として2000年4月に与那国島で国内初確認されている(真木・大西2000・日本鳥学会2012)。その後、2000年5月には久米島で標識調査による確認が報告され(嵩原ら2001)、さらにその後は2001年4月に再び与那国島(日本鳥学会2012)、そして、沖縄諸島の粟国島では2006年4月に確認例が報告されている(嵩原ら2009)。したがって、市内における確認例は県内で5例目の確認例であり、これは沖縄島初確認の記録である。これら県内での観察記録以降、日本鳥学会(2012)によると、舩倉島(2008年・2010年)やトカラ列島(2006年)などの観察記録が知られている。また、日本鳥学会(2024)による改訂目録では池間島が新たに確認地として追記されている。

本種はインド中部やネパールからバングラデシュ、中国中南部、ミャンマー、タイ北部、ラオス北部、ベトナムインドネシア、ボルネオ北部、フィリピン南部にかけて繁殖し、北方のものは南に渡るとされる(五百ら2008)。



写真37. カンムリオウチュウ(瀬長島)

⑨ カササギ *Pica pica serica*

2014年11月23日に沖縄野鳥研究会の大城亀信氏(私信)によって、市内与根に所在する遊水池(通称三角池)近くで1個体が確認された(写真38:嵩原ら2016)。その後、同年沖縄島南部の糸満市の摩文仁にある沖縄平和祈念公園内や島北部の本部町山川にある海洋博公園内(2015年4月5日)などで、同一個体の移動によると思われる目撃例が知られている。なお、2014年10月29日に糸満市喜屋武における確認例(奥間邑明私信)もあることから、与根における確認例は同個体が移動して来た可能性が高い。

これらの渡来記録以降では、2017年4月に島中部の読谷村宇座で1個体が観察されている(嵩原ら2018)。さらに2020年2月にも市内瀬長島で著者の一人である比嘉により1個体の確認記録が見られる。

本種は国内では日本鳥学会(2012)によると、北海道や本州の新潟県や長野県、東京都、兵庫県、広島などで繁殖記録が見られ、福井県、石川県、富山県、鳥取県、山形県などではイレギュラーな不定期渡来(IV)としての記録がみられる。また、四国では愛媛県や香川県でも同様に不定期渡来(IV)としての記録がみられるが九州では福岡県や佐賀県、長崎県、大分県で「移入種」としての繁殖分布地(IB)としている。しかしながら、宮崎県や鹿児島県では不定期渡来として扱われている。さらに日本鳥学会(2012・2024)では、九州の集団以外は自然分布としているが、移入分布の可能性もあるとしている。

しかしながら、本県は本種の自然分布地である中国大陸に生息分布し、さらに県内に隣接する台湾においても生息していることが知られている(Hsiao and Li 2017)。したがって、本種の生息分布地に近いという地理的位置から考えると、本種の確認例は九州の集団以外である可能性が考えられ、中国大陸や台湾などから迷行した自然分布個体と考えるのが妥当であろう。



写真38. カササギ(三角池近く)
(大城亀信氏提供)

⑳ ヒバリ *Alauda arvensis japonica*

本種も前述したコミミズク同様に、2008年12月12日に豊崎地区の埋め立て地が草原化した場所で数羽が確認された。本種はごく少数が県内各地に冬鳥として渡来し、農耕地や埋め立て地、水田の刈り跡などで越冬することが知られている(沖縄野鳥研究会 2010)。したがって、本市でも同様にごく少数が飛来し、草原で越冬していることが確認された(写真 39)。しかしながら、その利用は一時的で、現在その渡来場所は大型の商業施設となっており、2008年12月以降、市内における確認例は知られていない。



写真 39.ヒバリ(豊崎)

(2)分類学的な「目・科」別の確認状況による鳥類相についての検討

さらに市内で確認された鳥類種(亜種含む)は、分類学的な区分である「目・科」で見ると、19目49科に属する種が確認された。この区分の中で「目」別にその出現種を区分し、本市の出現種を概観すると(図4)、水辺を利用するチドリ目(シギ・チドリ類など:80種(33%))、カモ目(カモ類など)26種(11%)、ペリカン目(サギ類など):19種(8%)、ツル目(ツル類やクイナ類など)7種(3%)と続き、海岸や干潟、河川など主に水辺を利用する鳥類の比率(全体比54%)が高い鳥類相であることを示している。したがって、本市は海岸に面しているため海岸線が長く、さらに前述した各調査メッシュの出現種数でも示したように、那覇市と境をなす漫湖干潟や具志干潟などの他、豊崎干潟や瀬長島周辺の海岸干潟、与根に所在する三角池など多くの干潟環境を有している。この干潟地域は、特に南北に渡りを行う旅鳥やここで越冬する水鳥類が数多く利用していることで、本調査によってもその出現種数が多いという結果となった。

また、ペリカン目に属し、後述するように市の鳥にもなった希少種であるクロツラヘラサギは後述するようにほぼ毎年のように20羽内外が市内で越冬し、県内でも有数の飛来地である。したがって、市内の渡来地(越冬地)はその保護のために積極的に保全を行う必要がある。

一方で、農耕地などの開けた環境に生息する種や森林性の種の多くが含まれるスズメ目では、サンショウクイ科やオウチュウ科、カササギヒタキ科、モズ科など23科に属する鳥類種が出現した。スズメ目は本来的には数多くの科が含まれ、その種数は多いが、市内では合計72種(亜種含む・全体比29%)の確認となった。

(3)環境省(2022web版)及び沖縄県レッドリスト(2017年改訂版)掲載種の確認状況とその保護について

市内からは前述したように245種(亜種・外来種含む)の鳥類が記録されているが、この中で国の天然記念物指定種や環境省版(2020web版)や沖縄県版で作成されている「絶滅のおそれのある野生生物種」いわゆる「県版レッドリスト」に掲載されている種など貴重種や希少種は52確認された(表2)。この中ではすでに留鳥については前述したように市内における分布状況を含めてその生息現状をまとめたことから、ここでは主にそれぞれの掲載ランク別に該当する渡来種を独自の判断で選定し、その確認や飛来状況等をまとめた。

1)絶滅危惧1A類

このランクに該当する種はコウノトリとカラフトアオアシシギ、オオヨシゴイ、ヘラシギの4種であった。以下にこれらの種の中から2種を取り上げ、確認状況をまとめた。

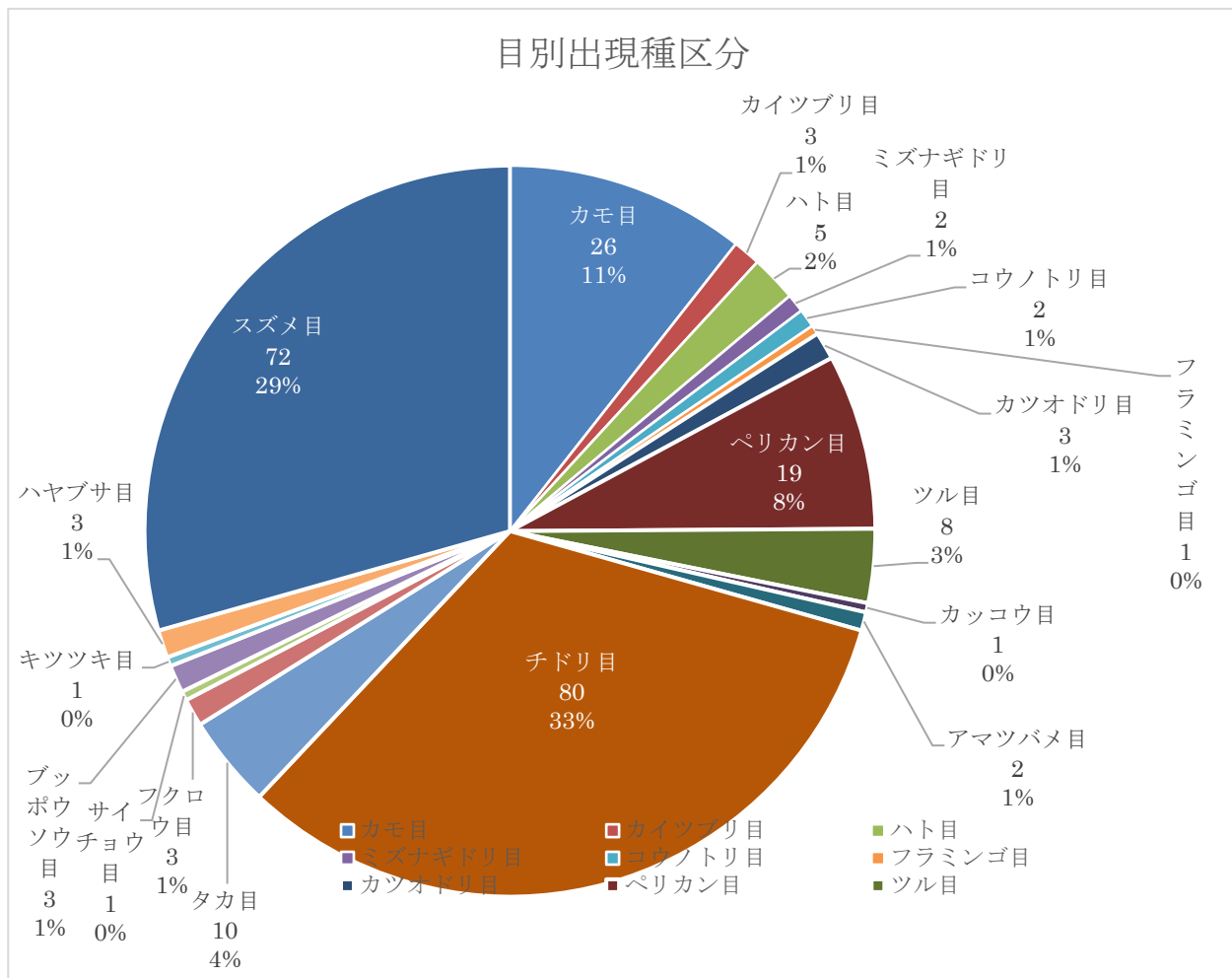


図4. 豊見城市の鳥類相(目別確認種(亜種含む))

① コウノトリ *Ciconia boyciana*

本種は市内漫湖干潟において、1967年1月から3月に渡来記録が知られ(高良・黒田 1969)、その後1986年2月と4月など1992年までに5例の渡来記録が見られる(沖縄野鳥研究会 2010)。最近では飛来する機会はかなり少ないように思えたが、2015年12月19日に三角池近くで飛来例が確認された(沖縄タイムス 2015年12月22日付け朝刊)。同個体には識別用のカラーリングが装着されており、その番号から兵庫県豊岡市で2015年の繁殖期に自然繁殖で生まれた雌で、同年6月に巣立った個体(標識番号:JO107・写真 40)であることが確認された(兵庫県立コウノトリの郷公園 hp 参照・山田衣里私信・山城正邦私信)。おそらく、兵庫県からの県内への飛来は今回が初めてであろう。



写真40. コウノトリ(標識個体:JO107)
(* 恩納村で撮影)

その後同個体は、同年12月22日に伊江島に移動し、島北部の湧出展望台近くで観察されている(琉球新報 2015年12月29日付け朝刊)。その後は、一ヶ月余り目撃例はなかったが、2016年2月4日に恩納村安富祖に飛来し(嵩原ら 2016)、同地で2月7日まで滞在した。さらにその後、本個体は2月10日には伊平屋

島で確認されている。その後はしばらく姿が確認されていなかったが、同年3月には再び本島南部の豊見城市三角池に隣接する那覇市具志干潟で再確認された(嵩原ら 2019)。

本種は国内では1971年を最後に野生絶滅したが、その後兵庫県豊岡市を中心に飼育個体からの保護増殖事業が開始された。こうした事業が軌道に乗り、2005年からは飼育個体の放鳥が開始され、現在野生の1個体も含め国内では200個体以上が野外で生息している(兵庫県立コウノトリの郷公園 hp 参照:2021年3月21日閲覧)。

本種は国指定の特別天然記念物であり、さらに環境省版や沖縄県版レッドリストで絶滅危惧 I A 類(CR)にランクされている保護すべき貴重種でもあり、本市でもその越冬地となる湿地環境の保全を図る必要があるだろう。

② カラフトアオアシシギ *Tringa guttifer*

市内では1985年9月15日及び同年10月7日に与根の海岸と1995年9月10日に共同病院(現豊見城共同病院)の3例の観察例が見られた。

本種は国内では北海道から九州まで不定期渡来(IV)として稀に渡来することが知られている(日本鳥学会 2024)。しかしながら、その個体数は減少傾向にあると考えられ、県内では最近の飛来例は見られず、県内でもごく稀な迷鳥であろう。これまで県内では沖縄島と石垣島、西表島での記録が知られているが(日本鳥学会 2024)、沖縄島では本市の他、宜野湾市や沖縄市での観察例(沖縄野鳥研究会 2010)が見られる。さらに環境省によるモニタリングサイト 1000 の調査まとめによると(環境省自然保護局多様性センター 2009)、沖縄市比屋根湿地で2009年に確認記録が知られている。ごく最近の観察記録としては、2025年9月に糸満市の米須海岸で1個体が確認されている(嵩原ら未発表)。

本種はサハリンで繁殖し、マレー半島やタイ、バングラデシュで越冬するとされている(桐原ら 2009)。しかしながら、前述したように国内(県内)においても最近の観察例はかなり少ないことが知られている。

2)絶滅危惧 I B類(EN)

このランクに掲載されている種はサンカノゴイやクロツラヘラサギ、オオヨシゴイ、コシヤクシギ、アカモズの5種が確認された。なお、オンドリは県版レッドリストに従うとこのランクに該当するが、市内では留鳥として生息していないので冬鳥として渡り区分し、環境省版に従い情報不足種として扱った。

これらの該当種の中からここではクロツラヘラサギの生息状況について述べる。

① クロツラヘラサギ *Platalea minor*

1973年9月から1974年4月まで漫湖干潟などで1個体が越冬した記録が報告されており、これが沖縄島における初めての確認報告と思われる(高良・黒田 1969)。

本種の主な繁殖地は朝鮮半島の限られたエリアのみで、一時期世界中におおよそ200羽しか生息していないとされる絶滅危惧種であった。最近では繁殖地や越冬地などにおける保護活動により個体数が増加傾向にあり、2021年の世界一斉調査では5,222羽が確認されている(<https://www.wbsj.org/>(日本野鳥の会:世界一斉個体数調査(2021年):2022年8月7日閲覧)。この中で国内ではここ2~3年間は約530~570個体で推移し、県内では20~25個体の渡来が確認されているとしている。また、環境省のモニタリング1000サイトにおける2022年の冬季調査(2022年12月~2023年2月末)では、国内で425個体が確認されてい

る(環境省自然環境局生物多様性センター 2023)。市内では漫湖干潟や三角池(写真 41)、与根干潟などが主な越冬期及び越夏期の生息地となっており、90 年代以降は毎年数羽が飛来し、2014 年頃からは毎年 20 羽前後が越冬している。また、一部の若鳥は春になっても繁殖地に戻らない越夏個体も毎年確認されるようになった。特に韓国で 2019 年 6 月 12 日に標識された「K31」(赤地に白抜き数字)は、2019 年冬季に渡来し越冬したが、その後そのまま滞在して三角池などで越夏し、2020 年の冬季にもそのまま滞在した。



写真41. クロツラヘラサギ(夏羽)
(三角池)

沖縄島南部に飛来する個体群のほとんどは、前述した本市の三角池や豊崎干潟、漫湖干潟などの湿地環境に依存しており、その生息地として貴重なエリアとなっている。特に三角池は本種の越冬地や越夏地として定着している。このため、野鳥に関心を持つバーダーが集まる探鳥地としても注目を集めている。

なお、特筆すべきこととして、本種については 2023 年(令和5年)2 月に豊見城市の「市の鳥」として制定されたことで、市内における鳥類の保護とその生息地保全を進める上でその「シンボル」としての役割が期待される。

3) 絶滅危惧Ⅱ類(VU)

このランクに掲載されている種は、環境省版と県版の掲載種を合わせ、ヒシクイやトモエガモ、コクガン、ツクシガモ、セイタカシギ、タカブシギ、コアジサシ、ベニアジサシ、サシバ、ハヤブサなど 22 種が確認された。この中で県版掲載種としてはカラスバト、ムラサキサギ、ミフウズラの 3 種が該当する。ここでは独自の判断で、以下の 3 種について確認状況をまとめた。

① ヒシクイ *Anser fabalis serratirostris*

ヒシクイは国指定の天然記念物として保護すべき貴重種である。本種には 2 亜種があり、いずれの亜種も市内で確認されたが絶滅危惧Ⅱ類にランクされている亜種はヒシクイである。

2020 年 12 月に豊崎で 1 個体が確認されている(写真 42:山城正邦氏私信)。市内ではこれまでに 1999 年 2 月に保栄茂(ピン)川河口で 1 個体の確認例が見られる。したがって、豊崎における観察例は市内では 21 年ぶりの確認例と思われる。



写真 42. ヒシクイ(豊崎:山城正邦氏提供)

② コクガン *Branta bernicla orientalis*

本種は国指定天然記念物の貴重種でもあり、市内では1991年1月に翁長西海岸と2017年4月に豊崎干潟における2回の渡来例がみられる。

県内には迷鳥として渡来し、1981年の読谷村における県内初記録の後、慶良間諸島渡嘉敷島(1986年)、糸満市(1990年)、南大東島(1993年)、国頭村(1999年)などで冬季の観察記録が知られている(沖縄野鳥研究会 2010)。

なお、2017年に本市に渡来した個体(若鳥)は、当初豊崎地区対岸の糸満市西崎地区の海岸に渡来し(写真 43)、ここで海藻類を盛んに摂食していた。その後、ここから対岸の豊崎干潟に移動したものと考えられたが、豊崎干潟において斃死体の状態で見つかった(嵩原ら 2019)。



写真43. コクガン(*糸満市西崎側で撮影)

③ ツクシガモ *Tadorna tadorna*

2016年2月16日に三角池でセイタカシギの群れに交じって越冬している1個体が観察された(写真 44)。これまで市内においては、古くは1969年1月に漫湖干潟での飛来記録が知られている(高良・黒田 1969)。この記録以降、市内では旧共同病院(現豊見城共同病院)近くの漫湖干潟などからも観察記録が見られる。

本種については、日本鳥学会(2012)では県内での記録を琉球諸島として広域的に範囲を扱い、不定期渡来(IV)として渡り区分している。したがって、本市でも同様にイレギュラーな迷鳥もしくは冬鳥としてごく少数が渡来することが確認された。

なお、沖縄島ではこれまでうま市塩屋干潟(旧具志川市 11 個体:嵩原 1994)や南城市の佐敷干潟(10 個体)、金武町並里区(3 個体:嵩原ら 2020)などでの飛来例も見られ、島南部糸満市米須海岸(6 個体)における観察記録が報告されている(嵩原ら 2018)。

さらにモニタリング 1000 サイトによる 2022 年冬季の全国的な調査では、7256 個体が確認されており(環境省 自然環境局生物多様性センター 2023)、県内でもその渡来例が増加傾向にあるように思われる。



写真44. ツクシガモ(三角池)

④ トモエガモ *Anas formosa*

1983年冬季に豊見城共同病院近くの漫湖干潟と、2022年10月に三角池で確認された(写真 45)。本種は県内では数少ない稀な冬鳥として、金武町や久米島町、宮古島市における観察記録が知られている(沖縄野鳥研究会 2010)。したがって、市内でもかなりまれに渡来する冬鳥であり、2022年の記録は39年ぶりの記録であろう。



写真45. トモエガモ(雌:三角池)

⑤ セイタカシギ *Himantopus himantopus himantopus*

市内では冬鳥として渡来し、三角池では時に 30 個体を超えるような越冬個体数も見られることがある(写真 46)。2023 年 6 月に居残って越冬している個体では交尾行動(写真 47:比嘉盛一氏撮影・私信)が見られたがその営巣は確認されなかった。

沖縄島中部の干潟では本種の繁殖例(嵩原 2022)も知られているが、市内では典型的な冬鳥であり、市内では他に漫湖干潟や豊崎干潟などに恒常的に渡来している状況が確認される。



写真 46. セイタカシギ(群れ:三角池)



写真 47. セイタカシギ(交尾行動:三角池)
(比嘉盛一氏提供)

4) 準絶滅危惧種(NT)

市内ではオオヒシクイやマガン、カイツブリ、カラシラサギ、チュウサギ、ハマシギなど 17 種が該当した。この中では県版掲載種としては、ヨシゴイやリュウキュウヨシゴイ、リュウキュウヒクイナ、リュウキュウアオバズク、カワセミ、リュウキュウコゲラなど 9 種が見られる。この中からカラシラサギやチュウサギ、オオヒシクイ、ハマシギミサゴを取り上げた。

① 亜種オオヒシクイ *Anser fabalis middendorffii*

2008 年 3 月 22 日に三角池に 1 個体が飛来した。本種(亜種)は県内では数少ない旅鳥として渡り区分されている(沖縄野鳥研究会 2010)が、日本鳥学会(2012)による渡り区分ではイレギュラーな不定期飛来(IV:Irregular visitor)とされている。したがって、市内でもごく稀な渡来記録であろう。

② カラシラサギ *Egretta eulophotes*

市内では 1989 年 5 月に与根の南海岸干潟や 1996 年 5 月に豊見城高校前の漫湖干潟などで確認され、合計 4 例の確認が見られた。本種は県内では秋季や冬季に渡来する数少ない迷鳥である(沖縄野鳥研究会 2010)。したがって、市内でも同様にごく少数が渡来してくるものと思われる。

③ チュウサギ *Egretta intermedia intermedia*

市内においては、干潟や農耕地などに冬鳥として渡来し、少数が普通に見られる。コサギよりもやや乾燥した場所を好み、農耕地のトラクターでの耕耘作業やサトウキビのハーベスターでの収穫作業の後をアマサギやダイサギとともに集まって付いてくる光景がよく見られる。アマサギに比べると首が長く大きい、ダイサギに比べると嘴や首も短く、小さい。

④ ハマシギ *Calidris alpina*

市内の瀬長島周辺や翁長、漫湖干潟など、干潟環境に渡来する冬鳥で、少数の群れを形成する。最近漫湖干潟における飛来調査では、マングローブ林の拡大による干潟面積の減少などで、その渡来数がかなり激減していることが知られている(漫湖水鳥・湿地センター管理運営協議会 2023)。しかしながら、モニタリング1000サイトによる2022年冬季調査では、シギ・チドリ類の渡来種ではその確認個体数が上位(トップ)を占めシギ・チドリ類の総確認個体数の55.8%を占めることが報告されている(環境省自然環境局生物多様性センター2023)。なお、国内には3亜種が飛来することが知られているが(日本鳥学会 2024)、野外識別に困難さがあり、本市目録中には日本鳥学会(2024)に準拠し、2亜種を掲載することにした。

5)情報不足種(DD)

市内では前述したオンドリの他、シベリアオオハシシギ、ヘラサギなど6種が確認された。ここでは、この確認種の中から以下の2種を取り上げた。

① ヘラサギ *Platalea leucorodia leucorodia*

市内ではこれまで漫湖干潟や三角池、豊崎干潟などにおける8例の渡来記録が見られた。最近でもこれらの地区ではほぼ毎年のように1~2個体ほどが渡来し、越冬することがある(写真48)。

本種は環境省版や沖縄県版のレッドリストで「情報不足種」にランクされている保護すべき貴重種でもある。したがって、本市でも本種の保護に資する飛来数の把握を行うなど生息状況に関する情報の収集とともに、その越冬地(渡来地)となる湿地環境の保全を図る必要性があろう。



写真48. ヘラサギ(豊崎干潟)

② シベリアオオハシシギ *Limnodromus semipalmatus*

本種の市内における確認記録は1996年5月16日に翁長西方の干潟での観察例が見られ、さらに2019年8月に漫湖干潟に1個体が渡来した(写真49)。したがって、2例の観察例が市内では見られる。なお、瀬長島に隣接する那覇市側の具志干潟でも2004年4月に確認記録が知られている(嵩原ら 2009)。

本種はまれな不定期渡来(IV)として県内各地に渡来するが、かなり稀である(沖縄野鳥研究会 2010・日本鳥学会 2012)。したがって、市内でもごくまれな渡来種となる。



写真49. シベリアオオハシシギ(漫湖干潟)

③ ケリ *Vanellus cinereus*

市内ではしばしば漫湖干潟や三角池のような干潟環境に飛来することがある。県内では水田跡やターイモ栽培地などに稀に渡来する冬鳥であるが、市内ではこうした越冬できる生息地が所在しないので、おそらく通過する個体の確認と思われる。

表2. 豊見城市で確認された希少種(環境版レッドリスト及び県レッドリスト掲載種)

絶滅危惧 I A 類(CR)	(環境省版・県版共通)	< 県版(VU) >	
コウノトリ	<i>Ciconia boyciana</i>	カラスバト(環境省版:NT)	<i>Columba janthina janthina</i>
カラフトアオアシシギ	<i>Tringa guttifer</i>	ムラサキサギ	<i>Ardea purpurea manilensis</i>
オオヨシゴイ	<i>Botaurus stellaris stellaris</i>	ミフウズラ	<i>Turnix suscitator</i>
ヘラシギ	<i>Eurynorhynchus pygmeus</i>		
絶滅危惧 I B 類(EN)	(環境省版・県版共通)	準絶滅危惧(NT)	(環境省版・県版一部共通)
サンカノゴイ	<i>Botaurus stellaris stellaris</i>	オオヒシクイ	<i>Anser fabalis middendorffii</i>
クロツラヘラサギ	<i>Platalea minor</i>	マガン	<i>Anser albifrons albifrons</i>
コシャクシギ	<i>Numenius minutus</i>	カラシラサギ	<i>Egretta eulophotes</i>
リュウキュウツミ	<i>Accipiter gularis iwasaki</i>	チュウサギ	<i>Egretta intermedia intermedia</i>
アカモズ	<i>Lanius cristatus</i>	ヨシゴイ	<i>Ixobrychus sinensis sinensis</i>
絶滅危惧 II 類(VU)	(環境省版・県版一部共通)	ハマシギ	<i>Calidris alpina</i>
ヒシクイ	<i>Anser fabalis serrirostris</i>	ミサゴ	<i>Pandion haliaetus haliaetus</i>
トモエガモ	<i>Anas formosa</i>	ハイタカ	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i>
コクガン(県版なし)	<i>Branta bernicla orientalis</i>	< 県版(NT) >	
ツクシガモ	<i>Tadorna tadorna</i>	カイツブリ	<i>Tachybaptus ruficollis poggei</i>
シロチドリ	<i>Charadrius alexandrinus</i>	カツオドリ	<i>Sula leucogaster plotus</i>
セイタカシギ	<i>Himantopus himantopus</i>	リュウキュウヨシゴイ	<i>Ixobrychus cinnamomeus</i>
オオソリハシシギ	<i>Limosa lapponica baueri</i>	リュウキュウヒクイナ	<i>Porzana fusca phaeopyga</i>
ハウロクシギ	<i>Numenius madagascariensis</i>	ツルクイナ	<i>Gallinago cinerea</i>
ツルシギ	<i>Tringa erythropus</i>	ヒメアマツバメ	<i>Apus nipalensis kuntzi</i>
アカアシシギ	<i>Tringa totanus ussuriensis</i>	リュウキュウアオバズク	<i>Ninox scutulata totogo</i>
タカブシギ	<i>Tringa glareola</i>	カワセミ	<i>Alcedo atthis bengalensis</i>
ツバメチドリ	<i>Glareola maldivarum</i>	リュウキュウコゲラ	<i>Dendrocopos kizuki nigrescens</i>
ズグロカモメ	<i>Larus saundersi</i>	情報不足種(DD)	(環境省版・県版一部共通)
コアジサシ	<i>Sterna albifrons sinensis</i>	オシドリ(県版:EN)	<i>Aix galericulata</i>
ベニアジサシ	<i>Sterna dougallii bangsi</i>	アカツクシガモ	<i>Tadorna ferruginea</i>
エリグロアジサシ	<i>Sterna sumatrana</i>	ヘラサギ	<i>Platalea leucorodia leucorodia</i>
サシバ	<i>Butastur indicus</i>	ケリ	<i>Vanellus cinereus</i>
ハヤブサ	<i>Falco peregrinus japonensis</i>	シベリアオオハシシギ	<i>Limnodromus semipalmatus</i>
サンショウクイ	<i>Pericrocotus divaricatus</i>	ダイトウウグイス	<i>Cettia diphone restricta</i>

3. 調査のまとめと鳥類保全の課題

本市からは、前述したように 245 種の鳥類が記録された。特にこれまで冬鳥に区分されていたコサギとムクドリ の 2 種が留鳥として加わったことは、これらの種の市内(沖縄島)における留鳥化の進展が確認されたことであり、特筆すべきことであろう。

また、隣接する那覇市内からは 221 種の鳥類が確認されている(嵩原ら 2009)が、市内ではこれを上回る鳥類種が確認された。これは本市が市街地でありながら、那覇市同様に広大な漫湖干潟が所在し、他にも与根海岸及びその周辺干潟、そして、三角池や豊崎干潟などを有し、各メッシュの出現種数でも示したように、こうした干潟や海岸などに渡来するシギ・チドリ類やサギ類、ガンカモ類などの水鳥を中心とした渡り鳥の確認種数が多く、その要因となっているものと思われる。しかしながら、前述したように最近特に漫湖干潟はマングローブ林の拡大などにより干潟面積が縮小し、餌資源となる甲殻類を始めとした底生生物の生息地減少などにより水辺を利用する鳥類の餌場が縮小することで、その渡来数の減少が懸念されている。特にシギ・チドリ類では最近ムナグロやトウネン、ハマシギの減少傾向が指摘されている(漫湖水鳥湿地センター 2023)。このため国設鳥獣保護区の管理者である環境省によって干潟再生事業が展開され、マングローブ林の一部伐採などその積極的管理により、干潟の一部が回復・再生してきている地区も見られる。したがって、市内におけるこれらの水辺に生息する鳥類の保護のためには、今後もこうした干潟環境の適切な維持・管理がここでの大きな保全目標のひとつになるものと思われる。

さらに、市内に残る残存林や整備された緑地公園には、前述したように国指定天然記念物のカラスバトの他希少種のリュウキュウアオバズクやリュウキュウツミの繁殖記録なども見られた。これは市内における森林地域の一部は回復傾向にあることを示唆しているものと思われる。したがって、今後もその維持を中心にして、できるだけ緑地環境を保存するように努めるとともに、公園整備をさらに推進して緑地公園の創造・拡大をすすめることにより、こうした森林地域を利用する鳥類の生息地保全にも配慮すべきであろう。

したがって、そうした取り組みを進めることで野生生物との共存を図り、今日的な課題である「SDG's」の目標である陸上生態系の保護をすすめることで、われわれ人間にとっても自然からの恩恵(生態系サービス)を持続的に得ることができると同時に、潤いのある街づくりが可能になるであろう。

そうした意味で、前述したようにクロツラヘラサギが 2023 年に豊見城市の「市の鳥」として制定されたことは野生生物との共存を推進する上で環境保全のシンボリック的存在となり、今後の環境保全、特に渡り鳥の利用する干潟環境保全の推進を図る上では重要なことであろう。

末尾に、こうした市内における今日の鳥類の生息状況や鳥類相を把握することは、将来的に鳥類の生息状況の変遷を理解するとともに、環境変容の移り替わりを間接的にとらえることで、自然環境をモニターするものでもある。したがって、今後も継続的な調査が不可欠であろう。

本報告がこうした取り組みをすすめるひとつの資料として活用され、さらに学校教育における環境教育等に寄与するとともに、最近のバーダーの増加とともに高まってきたバードウォッチング活動に活用され、エコツーリズムの推進など観光振興に資するものになれば幸いである。

<謝辞>

本調査に協力していただいた沖縄野鳥研究会会員一同の皆様、特に貴重な鳥類情報を賜った沖縄野鳥研究会の大城亀信氏、沖縄市在住の大内若葉氏、北中城村在住の比嘉盛一氏、沖縄市在住の金城昌一氏、環境省漫湖水鳥湿地センター元職員の富田宏氏、名桜大学の新垣裕治氏、石垣市在住の立松聖久氏と中本純市氏、久米島在住の盛長容子氏、与那国島在住の村松稔氏、那覇市在住の奥間邑明氏と奥間健二氏、上原勇氏、沖縄市在住の平安山英義氏、那覇市在住の上江田利伸氏、国設屋我地鳥獣保護区管理員の渡久地豊氏、貴重な鳥類記録と本報告書のまとめに有益な助言をいただいた沖縄野鳥の会の山城正邦氏、文献の収集に協力いただいた沖縄県土地開発公社、(株)いであの青木博氏、鳥類情報の提供をいただいた兵庫県立コウノトリの郷公園の山田衣里氏、環境省漫湖水鳥湿地センター、鳥類調査に便宜を図っていただいた内閣府沖縄総合事務局那覇港湾・空港整備事務所に対しても記して感謝申しあげる。

<引用文献> (備考:本文の一部は、本文で引用されず、本市鳥類目録作成で引用した文献を含む)

青柳克 2016.沖縄南部におけるリュウキュウコゲラの繁殖記録.沖縄生物学会誌(3):85-87.

Brazil M. A. 2009. Birds of East Asia, China, Taiwan, Korea, Japan and Russia. Princeton University Press. 528pp.

Hsiao M. and Li C. 2017. A field guide of the Birds of Taiwan, Forestry Bureau, Council of Agriculture, Executive Yuan, R.O.C. and Wild Bird Society of Taiwan. 416pp.

伊藤はるか 2018.琉球列島における小型フクロウ類 3種の分布特性. 島の鳥類学, 南西諸島の島をめぐる自然史 p. 97-111. 海遊舎

風間健太郎 2015. 総説 - 鳥類がもたらす生態系サービス. 日本鳥学会誌 64(1): 3-23

唐沢孝一 1991. マンウオッチングする都会の鳥たち. 草思社. 261pp.

環境省編 2014. レッドデータブック 2014, 日本の絶滅のおそれのある野生生物. 2鳥類. ぎょうせい.

環境省自然環境局 生物多様性センター 2024. 2023年度 モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 2022年度 総括報告書 1-124

環境省自然環境局生物多様性センター・バードリサーチ 2023. モニタリングサイト 1000 シギ・チドリ類調査 2022年冬期調査結果概要, シギ・チドリ類調査ニュースレター.

黒田長久 1969. 琉球諸島の冬季の鳥獣と鳥獣行政(見聞記), 「鳥獣行政」52号

黒田長久編・監修 1984. 決定版生物大図鑑「鳥類」. 世界文化社. 399pp.

桐原政志・山形則男・吉野俊幸 2009. 日本の鳥 550 水辺の鳥改訂増補版. 文一総合出版. 367pp.

McWhirter, D. W., H. Ikenaga, H. Iozawa, M. Shoyama, and K. Takehara 1996.

A Check-list of the Birds of Okinawa Prefecture with notes on recent status including hypothetical records. Bulletin of Okinawa Prefectural Museum 22:33-152.

三上桂・植田睦之 2011. 西日本におけるリュウキュウ サンショウクイの分布拡大. Bird Research Vol. 7, pp. A33-A44.

宮島仁・山城正邦・田仲謙介 2012. 観察記録, 沖縄県国頭郡金武町におけるヨーロッパムナグロ *Pluvialis apricaria* の日本初記録. 日本鳥学会誌61(2): 310-313

宮島仁・髙原建二・田仲謙介 2015. 沖縄県におけるブロンズトキ *Plegadis alcinellus* の観察記録. 日本鳥学会誌 64(2): 267-270

無記名 2004. 漫湖における野鳥観察調査. 平成 15 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H15 年度(2004). P38-P44.

無記名 2005. 漫湖における野鳥観察調査. 平成 16 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管

理協議会 H16 年度(2005).P44-P50.

無記名 2006. 漫湖における野鳥観察調査.平成 17 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H17 年度(2006).P40-P46.

無記名 2007. 漫湖における野鳥観察調査.平成 18 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H18 年度(2007).P47-P52.

無記名 2008. 漫湖における野鳥観察調査.平成 19 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H19 年度(2008).P44-P49.

無記名 2009. 漫湖における野鳥観察調査.平成 20 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H20 年度(2009).P29-P36.

無記名 2010. 漫湖における野鳥観察調査.平成 21 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H21 年度(2010).P34-P39.

無記名 2011. 漫湖における野鳥観察調査.平成 22 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H22 年度(2011).P24-P29.

無記名 2012. 漫湖における野鳥観察調査.平成 23 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H23 年度(2012).P29-P34.

無記名 2013. 漫湖における野鳥観察調査.平成 24 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H24 年度(2013).P28-P33.

無記名 2014. 漫湖における野鳥観察調査.平成 25 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H25 年度(2014).P28-P33.

無記名 2015. 漫湖における野鳥観察調査.平成 26 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H26 年度(2015).P28-P33.

無記名 2016. 漫湖における野鳥観察調査.平成 27 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H27 年度(2016).P30-P35.

無記名 2017. 漫湖における野鳥観察調査.平成 28 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H28 年度(2017).P21-P26.

無記名 2018. 漫湖における野鳥観察調査.平成 29 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 22-26.

無記名 2019. 漫湖における野鳥観察調査.平成 30 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 H30 年度(2019).P22-P26

無記名 2020. 漫湖における野鳥観察調査.令和 1 年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 R01 年度(2020).P22-P26

無記名 2021. 漫湖における野鳥観察調査.令和2年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 R02 年度(2021).P23-P30

無記名 2022. 漫湖における野鳥観察調査.令和3年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 56pp.

無記名 2023. 漫湖における野鳥観察調査.令和4年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書. 漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会 22-29p.

無記名 2024. 漫湖における野鳥観察調査.令和5年度漫湖水鳥・湿地センター事業報告書.
漫湖水鳥・湿地センター運営管理協議会. pp.59

- 内閣府沖縄総合事務局・国土交通省大阪航空局 2013 那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書(要約書2) :p.3-35～3-39
- Nagai, k. Manawatthana, S. Tokita, K. Nualsri, C. Pierce, A. Sutasha, K.; Sribuarod, K. Takehara, K. Round, P. and Higuchi, H. 2020. Genetic structure between Japanese and Thailand populations of the Japanese Sparrowhawk *Accipiter gularis*. Zoological Science 37: 1-8
- 永井真人 2005. デジスコで識別しよう, モンゴルカモメ第 1 回冬羽編. Birder 12(2005):42-43
- 永井真人 2016. ♪ 鳥くんの比べて識別! 野鳥図鑑 670 第 2 版. 文一総合出版. 399pp.
- 日本鳥学会 2012. 日本鳥類目録改訂第 7 版. 438pp. 三田
- 大西敏一・真木広造 2000. 沖縄県与那国島におけるカンムリオウチュウ *Dicrurus hottentottus* の日本初記録, 日本鳥学会誌 52(2): 47-48
- 沖縄野鳥の会 1976. みなみの鳥 NO4 号(特集号), 漫湖・与根の水鳥. 8pp.
- 沖縄県うるま市教育委員会 2016. 具志川及び照間の植物・小動物調査報告書, うるま市文化財調査報告書第 29 集. 177pp.
- 沖縄県土地開発公社 2008. 豊見城市地先開発事業記念誌(豊崎タウン). 362pp.
- 沖縄県土地開発公社 2012. 豊崎タウン周辺の鳥類ガイド, 水辺の鳥(改訂版). 44pp.
- 沖縄県環境部自然保護課編 2017. 改訂・沖縄県の絶滅のおそれのある野生生物第3版「動物編」. 712pp.
- 名護博物館編 2011. とりの巣展, 鳥に学ぶ命のつながり. 平成 23 年度名護博物館企画展図録. 26pp.
- 沖縄野鳥研究会編 2010. 改訂沖縄の野鳥. 新星出版. 367pp.
- 城間盛男 2019. 北大東島の動物図鑑, 北大東村学校教育百周年記念. 北大東島の動物図鑑編さん室. 177p.
- 砂川栄喜 2011. 沖縄宮古島の野鳥, 亜熱帯の水辺、山野の鳥. ポーダーインク, 238pp.
- 高良鉄夫・黒田長久 1969. 琉球における未記録種及び稀種. 山階鳥研報 5: 115-129
- 嵩原建二・渡久地正武 1997. 沖縄島南部の市街地で繁殖する鳥類について. 沖縄県立博物館紀要 23:33-54
- 嵩原建二・山城正邦・金城道男・大城亀信・桑原和之 2000. 沖縄県内の水辺に生息する鳥類について, 特殊鳥類調査 XI(改訂版): 湿地(水辺環境)編総括. 沖縄県文化環境部自然保護課. p.3-77.
- 嵩原建二・池長裕史・金城道男・渡久地豊・金城輝男・庄山守 2000. 沖縄県内において野外観察や傷病鳥の保護及び博物館収蔵標本等によって確認された興味深い鳥類の記録. 沖縄県立博物館紀要第 26 号 27-46.
- 嵩原建二・砂川栄喜・大城亀信・柳澤紀夫・天野洋祐・土方秀行 2003. 沖縄県内における最近の希少な鳥類の渡来記録について. 沖縄国際大学南島文化研究所紀要「南島文化」25:33-45
- 嵩原建二・砂川栄喜・比嘉邦昭・宮城国太郎・高良淳司・金城輝雄・仲地邦博・長嶺隆 2008. 沖縄県内における 2003 年から 2006 年までの希少な鳥類の渡来記録と希少な繁殖記録について. 沖縄国際大学南島文化研究所紀要「南島文化」第 30 号: 127-144
- 嵩原建二・渡邊康志・中村和雄・比嘉邦昭・上原富二男 2009. GIS を利用した那覇市内における鳥類分布変遷の解析及び市内で確認された鳥類の記録. 沖縄大学地域研究所研究彙報第 5 号: 75pp.
- 嵩原建二・渡久地豊・平安山英義 2013. 名護市内における最近の希少な鳥類と繁殖記録について, 名護市鳥類目録補遺 1, 名護博物館紀要「あじまあ」(17): 65-75.
- 嵩原建二・平安山英義・大城亀信・細川太郎・新垣裕治 2016. 名護市及び沖縄島における希少鳥類及び希少繁殖事例についての記録(2014 年春から 2016 年春まで). 名桜大学総合研究所紀要(21): 97-107
- 嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志 2016. 恩納村における鳥類の記録とその生息状況について. 恩納村博物館紀要第 9 号: 1-28
- 嵩原建二・平安山英義・野中克治・細川太郎・大内力・土屋若葉 2018. 名護市内及び沖縄諸島における希少な鳥類の観察記録及び希少な繁殖記録等について(2015 年冬期から 2017 年春まで). 名護博物館紀要「あじまあ」20:1-17.

嵩原建二・比嘉邦昭・平安山英義・青山夕貴子・立松聖久・井ノ口彰良・渡久地豊・村田尚史 2019. 名護市内及び沖縄島における希少な種の観察記録と繁殖及び分布記録について(2017年3月～2019年3月).名護博物館紀要「あじまあ」21:1-11.

嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志・金城輝雄 2019.沖縄市における鳥類の記録とその生息状況について.「あやみや」第27号:8-34.沖縄市立郷土博物館.

嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志・豊見盛律子 2020.金武町における鳥類の記録とその生息状況について.金武町教育委員会.84p

嵩原建二・宮城国太郎・高良淳司・渡久地豊・村田尚史・奥間邑明・小高信彦・新垣裕治 2021.名護市内及び沖縄島における希少な鳥類の観察記録及び希少な繁殖記録等について、(2019年春期から2020年夏期まで).名桜大学紀要(26):89-101

嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志・金城輝雄 2022.第2章うるま市における鳥類の記録とその生息状況について.うるま市文化財調査報告書第40集,うるま市の鳥類調査報告書.うるま市教育委員会.p7-27.

嵩原建二・比嘉邦昭・渡邊康志・村松稔・森河隆史・森河貴子・土方秀行・池長裕史・柳澤紀夫・真木広造 2022.与那国島における鳥類の記録とその生息状況について.八重山博物館紀要第26号:18-90

嵩原建二 2022.沖縄市における新たな鳥類記録や希少な鳥類の確認記録及び繁殖記録について(2020年冬季から2022年初夏の記録).沖縄国際大学南島文化研究所「南島文化」第45号:67-79

嵩原建二・宮城邦治・飯沼慶一 2025.沖縄島中部・南部の市街地近くに生息するリュウキュウツミ *Accipiter gularis iwasakii* の営巣状況について(2010年から2024年の繁殖期における営巣事例から).世界遺産座喜味城跡ユンタンザミュージアム紀要第48号:29-53.

豊見城市役所 2022.第5次豊見城市国土利用計画.58p

富田宏 2019.沖縄島・漫湖に8か月間滞在したナンヨウショウビン観察記録.バーダー2月号(2019):42-43.

与那城義春 1986.シリーズ沖縄の自然⑬沖縄の野鳥観察.新星図書出版.166pp.

<ホームページ等の閲覧>

環境省 2020:web版 <https://www.env.go.jp/>:2021年4月10日

兵庫県立コウノトリの郷公園:<http://www.stork.u-hyogo.ac.jp/>(2016年2月10日閲覧)

国際鳥類会議:[IOC世界鳥類リスト - バージョン 12.1 \(worldbirdnames.org\)](http://www.worldbirdnames.org/)2020年9月4日閲覧

日本野鳥の会:[クロツラヘラサギ世界一斉個体数調査\(2021年\) \(wbsj.org\)](http://www.wbsj.org/)(2022年8月7日閲覧)

<新聞閲覧>

沖縄タイムスプラス(電子新聞):2015年12月22日付「幸せ運ぶコウノトリ 再び沖縄に、兵庫から」

琉球新報デジタル版:2012.4.5(5:30)「石垣島にブロンズトキ 19羽、群れて飛来は国内初か」<https://ryukyushimpo.jp/>5月17日閲覧

<附表1>

豊見城市の鳥類記録データベース

(引用を含む)

(抜粋)

メッシュコード	和名	年	期日	地名	環境1	環境2		個体数	確認・調査者・文献等
3927-15-82-2	コクガン	1991	1, 13	翁長の西海岸干潟に目撃				1	K.H
3927-25-82-4	ヒシクイ	1999	2, 7	翁長の西の保栄茂川河口に目撃				1	K.H
3927-25-25-3	アカツクシガモ	1984	12, 18	共同病院前の漫湖干潟に目撃				1	K.H
3927-25-02-2	ツクシガモ	2000	12, 8	与根の東の遊水池に目撃				1	K.H
3927-25-25-3	ツクシガモ	1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃				1	K.H
3927-25-25-3	ツクシガモ	1991	3, 17	共同病院前の漫湖干潟に目撃				3	K.H
3927-25-34-2	ツクシガモ	1998	2, 22	漫湖の中央部の干潟に目撃				1	K.H
3927-25-34-2	ツクシガモ	2000	2, 17	漫湖の中央部の干潟に目撃				1	K.H
39272502	ツクシガモ	2016	2,24	三角池	干潟	遊水地		1	K.T
3927-15-82-2	マガモ	1991	1, 13	翁長の西の保栄茂川河口に目撃				2	K.H
3927-25-25-3	マガモ	1977	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃				1	K.H
3927-15-82-2	カルガモ	1991	1, 25	翁長の西海岸干潟に目撃				3	K.H
3927-25-25-3	カルガモ	1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃				10	K.H
3927-25-02-2	コガモ	1996	4, 4	与根の東の遊水池に目撃				6	K.H
3927-25-04-4	コガモ	2000	12, 2	高安の南の饒波川に目撃				±30	K.H
3927-25-05-2	コガモ	1987	12, 23	饒波の南の河川に目撃				5	K.H

以下割愛

(総数約 3898 件)

豊見城市の鳥類目録(2026)

*掲載の順序や種名の扱いは日本鳥類目録改訂第8版に準拠.

- *1 漫湖水鳥湿地センター業務報告書(2006年~2023年)
 *2 McWhirter ら (1996) *6 沖縄野鳥研究会(1993)
 *3 沖縄野鳥の会(1976) *7 日本鳥学会(2012)
 *4 沖縄県土地開発公社(2012) *8 日本鳥学会(2024)
 *5 沖縄野鳥研究会(2010) *9 環境省自然保護局

Order ANSERIFORMES カモ目
 Family ANATIDAE カモ科

カモ目 Order ANSERIFORMES
 カモ科 Family ANATIDAE

年	月日	学名・英名・確認地	確認・備考
BRANTA コクガン属			
		<i>Branta bernicla</i> コクガン	Brant Goose
		<i>Branta bernicla nigricans</i> コクガン	
1991	1, 13	翁長の西海岸干潟に目撃	
2017	4, 30	豊崎 (斃死)	山城正邦私信
ANSER マガン属			
		<i>Anser fabalis</i> ヒシクイ	Bean Goose
		<i>Anser fabalis middendorffii</i> オオヒシクイ	
2008	3, 22	三角池	
-	11	豊見城市	真木ら (2017)
		<i>Anser fabalis serrirostris</i> ヒシクイ	
1999	2, 7	翁長の西の保栄茂川河口に目撃	* 5
2020	12, 16	豊崎干潟 (ヒメシクイ?)	山城正邦私信
CYGNUS ハクチョウ属			
		<i>Cygnus cygnus</i> オオハクチョウ	Whooper Swan
-	-	漫湖干潟	* 1
TADORNA ツクシガモ属			
		<i>Tadorna tadorna</i> ツクシガモ	Common Shelduck
1969	1, 18	漫湖干潟	高良・黒田 (1969)
1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1991	3, 17	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1998	2, 22	漫湖の中央部の干潟に目撃	
2000	2, 17	漫湖の中央部の干潟に目撃	
2000	12, 8	与根の東の遊水池に目撃	
2002	12, 5	三角池	嵩原ら (2003)
2016	2, 16	三角池	
2016	2, 24	三角池	
2021	1, 10	三角池	
		<i>Tadorna ferruginea</i> アカツクシガモ	Ruddy Shelduck
1984	12, 18	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
AIX オシドリ属			
		<i>Aix galericulata</i> オシドリ	Mandarin Duck
2013		漫湖干潟	* 1
SIBIRIONETTA トモエガモ属			
		<i>Sibirionetta formosa</i> トモエガモ	Baikal Teal
1983	冬季	共同病院前の漫湖干潟に目撃	* 2
2016	4, 3	三角池	
2022	10	三角池	
SPATULA ハシビロガモ属			
		<i>Spatula querquedula</i> シマアジ	Garganey
1996	4, 4	与根の東の遊水池に目撃	
2015	3, 22	三角池	
		<i>Spatula clypeata</i> ハシビロガモ	Northern Shoveller
1988	1, 14	翁長の西海岸干潟に目撃	

1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1990	1, 7	石火矢橋北の饒波川に目撃	
1995	1, 15	高安の西の饒波川に目撃	
1996	4, 4	与根の東の遊水池に目撃	
1998	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
2002	11, 24	与根の東の遊水池に目撃	
MARECA ヨシガモ属			
<i>Mareca strepera</i> オカヨシガモ			Gadwall
<i>Mareca strepera strepera</i> オカヨシガモ			
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1998	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1999	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1999	1, 26	与根の東の遊水池に目撃	
2020	12, 28	三角池	雄 1
<i>Mareca falcata</i> ヨシガモ			Falcated Duck
1990	2, 4	翁長の西海岸に目を撃	
1996	4, 4	翁長の西海岸に目撃	
<i>Mareca penelope</i> ヒドリガモ			European Wigeon
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1998	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1998	4, 26	与根の東の遊水池に目撃	
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
2021	1, 11	三角池	
<i>Mareca americana</i> アメリカヒドリ			American Wigeon
1988	1, 3	共同病院北の漫湖の中央部に目撃	
ANAS マガモ属			
<i>Anas zonorhyncha</i> カルガモ			Spot-bill Duck
1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1991	1, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
2021	1, 1	三角池	
<i>Anas platyrhynchos</i> マガモ			Mallard
<i>Anas platyrhynchos platyrhynchos</i> マガモ			
1977	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1991	1, 13	翁長の西の保栄茂川河口に目撃	
2021	1, 1	三角池	
<i>Anas acuta</i> オナガガモ			Pintail
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 14	翁長の西の保栄茂川河口に目撃	
1991	1, 10	石火矢橋北の饒波川に目撃	
1996	4, 4	与根の東の遊水池に目撃	
2000	12, 2	高安の南の饒波川に目撃	
2002	11, 24	与根の東の遊水池に目撃	
<i>Anas crecca</i> コガモ			Green-winged Teal
<i>Anas crecca crecca</i> コガモ			
1987	12, 23	饒波の南の河川に目撃	
1989	1, 15	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1998	11, 28	饒波の南西の河川に目撃	
1991	1, 10	石火矢橋北の饒波川に目撃	
1995	1, 10	高安の西の饒波川に目撃	
1996	4, 4	与根の東の遊水池に目撃	
2000	12, 2	高安の南の饒波川に目撃	
<i>Anas crecca carolinensis</i> アメリカコガモ			
1981	1, 17-1, 22	漫湖で観察記録	* 2
2023	1, 14	三角池	奥間健二私信
2024	1, 31	三角池	1
AYTHYA スズガモ属			

		<i>Aythya valisineria</i> オオホシハジロ	Pochard	
1976		漫湖干潟・与根	* 3	
1981	1	豊見城市内		
1983	2, 6	漫湖で観察記録		* 2
		<i>Aythya ferina</i> ホシハジロ	Common Pochard	
1999	11, 23	与根の東の遊水池に目撃		
1984	12, 9	漫湖公園沿い水面に目撃		
1992	1, 15	石火矢橋北の饒波川に目撃		
2001	1, 14	翁長の西、豊崎の埋立地の水溜まりに目撃		
		<i>Aythya nyroca</i> メジロガモ	Ferruginous Duck	
2020	12, 28	三角池		
2021	1, 11	三角池		
		<i>Aythya fuligula</i> キンクロハジロ	Tufted Duck	
2001	1, 14	翁長の西、豊崎の埋立地の水溜まりに目撃		
1998	11, 22	与根の東の遊水池に目撃		
		<i>Aythya marila</i> スズガモ	Greater Scaup	
		<i>Aythya marila marila</i> スズガモ		
2002	11, 23	与根の東の遊水池に目撃		
1982	11, 28	石火矢橋北の饒波川に目撃		
1991	1, 13	石火矢橋北の饒波川に目撃		
1980	4, 13	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃		
		HISTRIONICUS シノリガモ属		
		<i>Histrionicus histrionicus</i> シノリガモ	Herlequin Duck	
2022	1, 19	与根漁港沖合	(3 個体)	渡久地豊私信
		BUCEPHALA ホオジロガモ属		
		<i>Bucephala clangula</i> ホオジロガモ	Common Goldeneye	
		<i>Bucephala clangula clangula</i> ホオジロガモ		
2003	11, 27	翁長の西の保栄茂川河口に目撃 豊崎		* 4
		Order APODIFORMES アマツバメ目		
		Family APODIDAE アマツバメ科		
		APUS アマツバメ属		
		<i>Apus pacificus</i> アマツバメ	White-rumped Swift	
		<i>Apus pacificus kurodae</i> アマツバメ		
1988	5, 26	瀬長島で飛んでいるのを目撃		
2004	10, 23	豊見城市内		
		<i>Apus nipalensis</i> ヒメアマツバメ	House Swift	
		<i>Apus nipalensis kuntzi</i> ヒメアマツバメ		
1988	5, 29	瀬長島で飛んでいるのを目撃		
		Order CUCULIFORMES カッコウ目		
		Family CUCULIDAE カッコウ科		
		CUCULUS カッコウ属		
		<i>Cuculus poliocephalus</i> ホトトギス	Little Cuckoo	
1976		漫湖干潟・与根	* 3	
1988	6, 9	真玉橋で囀りを聞く		
1997	7, 14	嘉数の北混交林の松に目撃		
		Order COLUMBIFORMES ハト目		
		Family COLUMBIDAE ハト科		
		COLUMBA カワラバト属		
		<i>Columba janthina</i> カラスバト	Japanese Wood Pigeon	
		<i>Columba janthina janthina</i> カラスバト		
1991	10, 13	豊見城城址公園で目撃		
2011		漫湖干潟		* 1
2013	5, 9	豊崎	(ロードキル)	
		STREPTOPELIA キジバト属		
		<i>Streptopelia orientalis</i> キジバト	Oriental Turtle Dove	(Ryukyu)
		<i>Streptopelia orientalis stimpsoni</i> リュウキュウキジバト		

1989	12, 23	翁長の西海岸沿いを飛翔	
1988	1, 6	与根の南の海岸雑木林で囀り	
1988	1, 6	座安の南西の農耕地に目撃	
1999	9, 28	保栄茂の南、農耕地を飛翔	
1989	12, 17	翁長の北の農耕地で囀りを聞く	
1999	9, 28	保栄茂の広場沿い電柱に目撃、飛翔	
1989	12, 23	保栄茂の南、農耕地を飛翔	
1988	1, 6	与根の海岸で飛んでいるのを目撃	
1988	1, 6	座安の水路沿い雑木林に目撃、飛翔	
1999	9, 28	渡橋名の北の墓地の樹上から飛翔	
1988	2, 22	渡橋名の農耕地に目撃	
1999	5, 29	保栄茂の北の混交林の樹上に目撃	
1999	9, 28	渡嘉敷の西の上空を飛翔	
1998	8, 15	渡嘉敷の集落端で囀り、飛翔	
1998	8, 15	高嶺の南の混交林で囀り	
1988	2, 22	平良の広葉林で飛んでるのを目撃	
1998	8, 15	高嶺の集落の電線に目撃	
1988	1, 12	豊見城団地東の農耕地で飛翔	
1998	8, 15	瀬長島西の海岸沿い林を飛翔	
1988	4, 21	瀬長島東の海岸沿い林を飛翔	
1998	9, 23	与根の北の調整池の上を飛翔	
1988	3, 12	瀬長の野菜畑に目撃、飛翔	
1988	1, 6	伊良波の集落、農耕地で飛翔	
1988	1, 6	上田の集落端農耕地に目撃、飛翔	
1987	12, 5	平良の北の河川沿い広葉林で飛翔	
1998	11, 28	饒波の南西の河川沿いを飛翔	
1988	1, 12	金良の南の農耕地沿い林に目撃、囀り	
1987	12, 25	宜保の北の住宅街で飛翔	
1995	1, 15	高安の西饒波川沿いを飛翔	
1987	12, 23	高安の農耕地の上空を飛翔	
1998	11, 28	根差部の南の雑木林を飛翔	
1987	12, 18	金良の西の雑木林に目撃、飛翔	
1998	11, 28	南部農林高校の東農耕地に目撃	
1987	12, 25	漫湖沿い農耕地の上を飛翔	
1989	7, 23	パワーズ前河川沿い林で囀り	
1991	1, 10	豊見城高校前漫湖干潟に目撃、飛ぶのを目撃	
1990	7, 27	真玉橋の集落で囀り、飛翔	
1990	7, 27	嘉敷のギンネム林から囀り	
1998	11, 28	製糖工場西の豚舎沿いに目撃、飛翔	
		<i>Streptopelia tranquebarica</i> ベニバト	Red Turtle Dove
		<i>Streptopelia tranquebarica humilis</i> ベニバト	
1982	10, 24	与根の砂場に目撃	
2019	6, 21	与根ゴルフ場跡地電線	
TRERON アオバト属			
		<i>Treron riukuensis</i> ズアカアオバト	Ryukyu Green Pigeon
		<i>Treron riukuensis permagnus</i>	リュウキュウス ^ア アカアオバト Brazil (2009)
1987	9, 15	真玉橋の集落広葉林に目撃、飛翔	
1989	6, 3	翁長部落の北側に目撃	
1991	10, 20	豊見城城跡公園に目撃	
1998	10, 17	根差部の西の住宅街の電線に番い	
1998	8, 15	高嶺の南の混交林で囀りをした	
1998	8, 15	平良の集落の道路沿い電線に目撃	
2000	6, 21	豊見城団地の北川の道路沿い電線	
2002	11, 23	饒波の河川沿い民家のアンテナに目撃、飛翔	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川沿いで囀り	
2011		漫湖干潟	* 1
2025	11, 8	豊見城城址公園	2
Order GRUIFORMES ツル目			

Family RALLIDAE クイナ科

RALLUS クイナ属

Rallus indicus クイナ

Brown-cheeked Rail

1976

漫湖干潟・与根

* 3

GALLINULA バン属

Gallinula chloropus バン

Common Moorhen

Gallinula chloropus chloropus バン

1985 9, 15

与根の東の遊水池に目撃

1987 12, 18

漫湖干潟に目撃

1987 12, 23

饒波の南の河川に目撃

1988 1, 6

座安の水路に目撃

1988 2, 22

渡橋名の農耕地で鳴き声

1989 12, 17

豊見城団地北の河川に目撃、鳴き声

1988 4, 21

瀬長島の海岸干潟に目撃

1998 11, 22

名嘉地の西の畑沿い水路に目撃

1988 1, 6

上田の西、農耕地の溜池に目撃

1989 7, 23

石火矢橋北の饒波川に目撃

1998 11, 28

饒波の南西の河川に目撃

1990 1, 7

長堂の河川沿いの畑に目撃

1991 3, 17

豊見城高校前の漫湖干潟に目撃

1995 1, 15

高安の西の饒波川に目撃

1995 1, 15

高安の西の饒波川に目撃

1999 3, 24

翁長の西、保栄茂川に目撃

2002 9, 15

饒波の南饒波川沿に目撃

2003 10, 4

豊見城団地北東の饒波川に目撃

FULICA オオバン属

Fulica atra オオバン

Common Coot

Fulica atra atra オオバン

1969 1, 23

漫湖干潟

高良・黒田 (1969)

1998 11, 7

与根の東の遊水池に目撃

1995 1, 15

高安の西の饒波川に目撃

2001 1, 14

翁長の西、豊崎の埋立地の水溜まりに目撃

2020 11, 6

三角池

ZAPORNIA ヒメクイナ属

Zapornia fusca ヒメクイナ

Zapornia fusca phaeopyga リュウキュウヒメクイナ

RuddyCrake (Ryukyu)

1996 8, 25

与根の東の遊水池に目撃

2000 10, 7

高安の西の饒波川に目撃

2014 12, 7

三角池

奥間邑明私信

2021 3, 18

三角池

2024 1, 31

三角池

Zapornia pusilla ヒメクイナ

Zapornia pusilla pusilla ヒメクイナ

Baillon's Crake

2000 5, 7

翁長の西、保栄茂川河口沿い調整池に目撃

GALLICREX ツルクイナ属

Gallinula cinerea ツルクイナ

Watercock

1976

漫湖干潟・与根

* 3

AMAURORNIS シロハラクイナ属

Amaurornis phoenicurus シロハラクイナ

White-brested Water Hen

Amaurornis phoenicurus phoenicurus シロハラクイナ

1975 11, 30

石火矢橋北の饒波川に目撃

1996 1, 11

石火矢橋北の饒波川に目撃

2001 3, 5

とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃

2022 11, 27

漫湖干潟

Family GRUIDAE ツル科

GRUS ツル属

Grus grus クロヅル

Grus grus lilfordi クロヅル

Common Crane

1976		漫湖干潟・与根	* 3
Order PODICIPEDIFORMES カイツブリ目			
Family PODICIPEDIDAE カイツブリ科			
TACHYBAPTUS カイツブリ属			
<i>Tachybaptus ruficollis</i> カイツブリ			
		<i>Tachybaptus ruficollis poggei</i> カイツブリ	Little Grebe
2001	1, 14	翁長の西の河川に目撃	
1991	1,	高安の西の饒波川に目撃	
1999	2, 16	翁長の西海岸に目撃	
2000	4, 17	瀬長島の南海岸沿いに目撃	
<i>Podiceps cristatus</i> カンムリカイツブリ			
		<i>Podiceps cristatus cristatus</i> カンムリカイツブリ	Great Crested Grebe
1985	2, 18	翁長の西海岸に目撃	
1996	3, 24	翁長の西海岸に目撃	
1998	1, 15	翁長の西海岸に目撃	
		豊崎	* 4
<i>Podiceps nigricollis</i> ハジロカイツブリ			
		<i>Podiceps nigricollis nigricollis</i> ハジロカイツブリ	Black-necked Grebe
1999	1, 13	翁長の西海岸に目撃	
2010		漫湖干潟	
Order CHARADRIIFORMES チドリ目			
Family TURNICIDAE ミフウズラ科			
TURNIX ミフウズラ属			
		<i>Turnix suscitator</i> ミフウズラ	Bustard Quail
		<i>Turnix suscitator okinavensis</i> ミフウズラ	
1999	5, 29	保栄茂の東、農耕地帯の路上に番を目撃	
Family HAEMATOPODIDAE ミヤコドリ科			
HAEMATOPUS ミヤコドリ属			
		<i>Haematopus ostralegus</i> ミヤコドリ	Common Oystersatcher
		<i>Haematopus ostralegus osculans</i> ミヤコドリ	
1989	11, 12	翁長の西海岸を飛翔	
1989	5, 21	翁長の西海岸を飛翔	
1991	3	翁長の海岸	
Family RECURVIROSTRIDAE セイタカシギ科			
HIMANTOPUS セイタカシギ属			
		<i>Himantopus himantopus</i> セイタカシギ	Black-Winged Stilt
1989	11, 12	饒波川河口沿い岸辺に目撃	
1990	1, 7	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1995	1, 15	高安の西饒波川に目撃	
1998	4,	与根の東の遊水池に目撃	
1998	9, 23	与根の東の遊水池に目撃	
1999	11, 20	与根の東の遊水池に目撃	
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿に若鳥を目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
2023	6	三角池 (交尾行動)	比嘉盛一私信
		<i>Himantopus leucocephalus</i> オーストラリアセイタカシギ	
2003	11, 23	与根の東の遊水池に目撃	
		<i>Recurvirostra avosetta</i> ソリハシセイタカシギ	Avocet
1973	9,	漫湖干潟で観察記録	* 2
1986	4, 22	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1988	12, 25	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1998	3, 26	漫湖のとよみ大橋西側で観察	
1999	12, 4	翁長の西保栄茂川河口に目撃	
2001	4, 15	豊見城市内	髙原ら(2003)
2002	1, 3	漫湖干潟で目撃	髙原ら(2003)
2002	1, 13	漫湖干潟で目撃	髙原ら(2003)

2003	1, 19	漫湖のとよみ大橋北側で観察	
2003	11, 23	与根の東の遊水池に目撃	
2012	2, 4	三角池	
2015	12, 3	三角池	
2016	2, 16	三角池	
2018	12, 18	三角池	
Family	CHARADRIIDAE	チドリ科	
VANELLUS タゲリ属			
<i>Vanellus vanellus</i> タゲリ			Northern Lapwing
1974	12, 21	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1999	11, 13	翁長の西海岸干潟に目撃	
2003	11,	とよみ大橋南の干潟に目撃 (漫湖水鳥センター確認)	
<i>Vanellus cinereus</i> ケリ			Grey-headed Lapwing
1984	2, 4	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
1986	4, 22	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
2016	4, 20	三角池	
PLUVIALIS ムナグロ属			
<i>Pluvialis apricaria</i> ヨーロッパムナグロ			European Golden Plover
<i>Pluvialis apricaria</i> ssp. 亜種不明			
2021	9, 25	豊崎	大内若葉私信
<i>Pluvialis fulva</i> ムナグロ			Pacific Golden Plover
1982	4, 29	与根の北海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	瀬長島の南西海岸に目撃	
1987	12, 25	瀬長島の西側海岸に目撃	
1987	12, 18	金良の西のキビ畑上空を鳴いて飛翔	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	座安の西、農耕地帯で飛翔	
1988	4, 21	瀬長島の北側海岸に目撃	
1988	3, 18	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
1989	9, 30	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1999	9, 28	与根の東の農耕地に目撃	
<i>Pluvialis squatarola</i> ダイゼン			Grey Plover
1982	4, 29	与根の遊水池に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖に目撃	
1987	12, 25	瀬長島の南西海岸に目撃	
1987	12, 23	与根の海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の南海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1988	5, 26	瀬長島の西側海岸に目撃	
1988	4, 21	瀬長島の北側海岸に目撃	
1988	3, 18	与根の東の農耕地に目撃	
1989	1, 15	与根の海岸干潟に目撃	
CHARADRIUS チドリ属			
<i>Charadrius hiaticula</i> ハジロコチドリ			Ringed Plover
<i>Charadrius hiaticula tundrae</i> ハジロコチドリ			
1983	10, 28	漫湖の国場川沿いに目撃	
1984	9, 13	漫湖干潟上空を飛翔	
1986	12, 11	漫湖干潟上空を飛翔	
1999	11, 20	与根の東の遊水池に目撃	
1999	12, 5	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
<i>Charadrius dubius</i> コチドリ			Little Ringed Plover
<i>Charadrius dubius curonicus</i> コチドリ			
1985	9, 15	与根の北海岸干潟に目撃	

1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1989	12, 23	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	9, 30	漫湖干潟に目撃	
1989	12, 3	饒波川の河口干潟に目撃	
1995	1, 15	高安の西の饒波川に目撃	
1998	11, 22	名嘉地の西の畑沿い水路に目撃	
1999	1, 30	高安の南の饒波川に目撃	
1999	9, 28	保栄茂の南、農耕地に目撃	
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿に目撃	
<i>Charadrius alexandrinus</i> シロチドリ			Kentish Plover
<i>Charadrius alexandrinus japonensis</i> シロチドリ			
1985	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	瀬長島の西海岸に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	12, 23	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸に目撃	
1988	4, 21	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	9, 30	漫湖干潟に目撃	
1988	3, 18	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
2019	6, 21	那覇空港新滑走路建設用地(営巣・抱卵)	繁殖
2020	6, 6	豊崎人工ビーチ (幼鳥2)	繁殖
<i>Charadrius leschenaultii</i> オオメダイチドリ			
<i>Charadrius leschenaultii</i> ssp. 亜種不明			Great Sand Plover
1999	11, 13	与根の南の海岸干潟に目撃	
1999	12, 5	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
<i>Charadrius mongolus</i> メダイチドリ			Mongolian Plover
<i>Charadrius mongolus stegmanni</i> メダイチドリ			
1987	12, 25	瀬長島の西海岸に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1995	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
1996	12, 1	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
1999		翁長の西海岸干潟に目撃	
2003	11, 23	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
<i>Charadrius veredus</i> オオチドリ			
2011	3, 17	豊崎	
<i>Charadrius morinellus</i> コバシチドリ			Eurasian Dotterel
1975	1, 18	与根の東の野菜畑に目撃(沖縄初記録)	* 2
2007	12	豊見城市内	* 5
2008	1, 6	豊崎埋め立て地	
HYDROPHASIANUS レンカク属			
<i>Hydrophasianus chirurgus</i> レンカク			Pheasant-tailed Jacana
1981	3, 4	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
Family SCOLOPACIDAE シギ科			
<i>Numenius tahitiensis</i> ハリモモチウシヤク			Bristle-thighed Curlew
1983	3, 24	漫湖干潟	* 2
<i>Numenius phaeopus</i> チウシヤクシギ			Whimbrel
<i>Numenius phaeopus variegatus</i> チウシヤクシギ			
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	12, 23	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	9, 30	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃	

2000	10, 14	与根の南の海岸干潟に目撃	
	<i>Numenius minutus</i>	コシヤクシギ	Little Curlew
2019	5, 4	与根・具志海岸	
	<i>Numenius madagascariensis</i>	ホウロクシギ	Far Eastern Curlew
1984	10, 10	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃	
1985	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
2003	11, 23	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
	<i>Numenius arquata</i>	ダイシヤクシギ	Curlew
	<i>Numenius arquata orientalis</i>	ダイシヤクシギ	
1989	9, 30	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃	
1991	1, 10	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃	
1991	1, 13	翁長の西海岸干潟に目撃	
1997	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
2000	8, 6	翁長の西海岸沿い遊水池に目撃	
LIMOSA オグロシギ属			
	<i>Limosa lapponica</i>	オオソリハシシギ	Bar-tailed Godwit
	<i>Limosa lapponica baueri</i>	オオソリハシシギ	
1983	10, 10	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1996	5, 16	翁長の西海岸沿い遊水池に目撃	
2000	10, 14	与根の南の海岸干潟に目撃	
2001	4, 15	豊見城市内	*5
	<i>Limosa limosa</i>	オグロシギ	Black-tailed Godwit
	<i>Limosa limosa melanuroides</i>	オグロシギ	
1969	1, 30	漫湖干潟	高良・黒田 (1969)
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1985	9, 16	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1996	5, 16	翁長の西海岸沿い遊水池に目撃	
2017	4, 28	三角池	
2019	5, 5	与根ゴルフ場跡	
ARENARIA キョウジョシギ属			
	<i>Arenaria interpres</i>	キョウジョシギ	Turnstone
	<i>Arenaria interpres interpres</i>	キョウジョシギ	
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1987	5, 26	瀬長島の西側海岸に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の南海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の漁港沿い海岸干潟に目撃	
1988	4, 21	翁長の西海岸干潟に目撃	
1995	4, 29	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
2013	4, 21	与根干潟	
CALIDRIS オバシギ属			
	<i>Calidris tenuirostris</i>	オバシギ	Great Knot
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1982	5, 30	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
1999	4, 14	豊見城市内	* 5
?		豊崎	* 4
2008		漫湖干潟	
2013	4, 21	与根干潟	
	<i>Calidris canutus</i>	コオバシギ	Knot
	<i>Calidris canutus rogersi</i>	コオバシギ	
2004	5, 28	具志干潟・瀬長干潟	
2008		漫湖干潟	
	<i>Calidris pugnax</i>	エリマキシギ	Ruff
1969	1, 30	漫湖干潟	高良・黒田 (1969)
1985	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
1993	8, 15	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	

2002	11, 23	饒波の南の河川敷に目撃	
2019	9, 14	与根ゴルフ場跡地	
		<i>Calidris falcinellus</i> キリアイ	Broad-billed Sandpiper
		<i>Calidris falcinellus sibirica</i> キリアイ	
1996	5, 16	翁長の西の遊水池に目撃	
1999	4, 29	与根の東の遊水池に目撃	* 5
1976	9, 14	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
2008		漫湖干潟	* 1
		<i>Calidris acuminata</i> ウズラシギ	Sharp-tailed Sandpiper
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1982	10, 10	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
2019	5, 5	与根ゴルフ場跡	
		<i>Calidris ferruginea</i> サルハマシギ	Curlew Sandpiper
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1989	4, 13	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
		<i>Calidris temminckii</i> オジロトウネン	Temminck's Stint
1998	4, 26	与根の東の遊水池に目撃	
2001	1, 28	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
		<i>Calidris subminuta</i> ヒバリシギ	Long-toed Stint
1985	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
1996	2, 4	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1998	4, 26	与根の遊水池に目撃	
2002	11, 23	饒波の南の河川敷に目撃	
		<i>Calidris pygmaea</i> ヘラシギ	Spoon-billed Sandpiper
1983	10, 2	共同病院北の漫湖干潟に目撃	
		<i>Calidris ruficollis</i> トウネン	Rufous-necked Stint
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	与根の南海岸干潟に目撃	
1988	4, 21	瀬長島の北側海岸に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1989	9, 30	漫湖干潟に目撃	
1991	10, 20	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
		<i>Calidris alba</i> ミユビシギ	Sanderling
1978	5, 21	与根の南海岸に夏羽を目撃	
		豊崎	* 4
2003		漫湖干潟	* 1
		<i>Calidris alpina</i> ハマシギ	Dunlin
		<i>Calidris alpina sakhalina</i> ハマシギ	
1987	5, 26	瀬長島の南側の海岸に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に群れを目撃	
1988	1, 6	与根の海岸干潟に目撃	
1988	4, 21	瀬長島海岸に目撃	
1998	9, 23	与根の東の遊水池に目撃	
1990	10, 21	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
		<i>Calidris alpina</i> ssp. ハマシギの一亜種	
		琉球諸島 (冬鳥)	* 8
		<i>Calidris bairdii</i> ヒメウズラシギ	Baird's Sandpiper
1976		漫湖干潟・与根	* 3
		<i>Calidris minuta</i> ヨーロッパトウネン	Little Stint
1998	4, 26	与根の東の遊水池に目撃	
1994	2, 17	漫湖干潟に目撃	
2003		漫湖干潟	* 1
		<i>Calidris melanotos</i> アメリカウズラシギ	Pectoral Sandpiper

1985	9, 15	与根の東の遊水池に目撃	Western Sandpiper	
		<i>Calidris mauri</i> ヒメハマシギ		
		豊崎		* 4
		<i>Limnodromus semipalmatus</i> シベリアオオハシシギ	Asiatic Dowitcher	
1996	5, 16	翁長の西の遊水池に目撃		
??	4	豊見城市内		真木ら (2014)
2019	8, 28	豊見城生協病院側の漫湖干潟に目撃		
		<i>Limnodromus scolopaceus</i> オオハシシギ	Long-billed Dowitcher	
1977	12, 18	仲地の農耕地帯の水路に目撃		
1978	1, 8	与根		
1983	2, 20	与根		* 2
1993	12, 28	漫湖干潟に目撃		
1998	4, 18	与根の東の遊水池に目撃		* 5
2000	1, 23	与根の東の遊水池に目撃		
??		豊崎		* 4
2003		漫湖干潟		
SCOLOPAX ヤマシギ属				
		<i>Scolopax rusticola</i> ヤマシギ	Woodcock	
1976		漫湖干潟・与根		* 3
2008		漫湖干潟		* 1
GALLINAGO タシギ属				
		<i>Gallinago megal</i> チュウジシギ	Swinhoe's Snipe	
2022	9, 17	三角池		環境省自然保護局 (2024)
		<i>Gallinago gallinago</i> タシギ	Common Snipe	
		<i>Gallinago gallinago gallinago</i> タシギ		
1991	10, 20	豊見城高校北の漫湖に目撃		
1995	1, 15	高安の西饒波川に目撃		
1998	11, 28	南部農林高校の東の長堂川に目撃		
1996	2, 4	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃		
1999	3, 24	与根の南の海岸干潟に目撃		
1999	1, 15	饒波の南西の饒波川に目撃		
2002	11, 23	与根の東の遊水池に目撃		
2002	11, 23	饒波の南の河川敷に目撃		
2020	12, 15	三角池		
XENUS ソリハシシギ属				
		<i>Xenus cinereus</i> ソリハシシギ	Terek Sandpiper	
1988	4, 21	翁長の西海岸干潟に目撃		
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃		
1997	10, 12	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃		
PHALAROPUS ヒレアシシギ属				
		<i>Phalaropus lobatus</i> アカエリヒレアシシギ	Red-necked Phalarope	
1974		豊見城高校北の漫湖に目撃		
1996	5, 26	翁長の西保栄茂川河口に目撃		
		<i>Phalaropus fulicarius</i> ハイイロヒレアシシギ		
1976		漫湖干潟・与根		* 3
ACTITIS イソシギ属				
		<i>Actitis hypoleucos</i> イソシギ	Common Sandpiper	
1987	12, 18	真玉橋北の国場川に目撃、鳴いて飛翔		
1989	12, 23	翁長の西海岸干潟に目撃		
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟で飛翔		
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃		
1999	9, 28	保栄茂の南、農耕地の水路に目撃		
1998	8, 15	渡橋名の農耕地沿い河川を飛翔		
1988	4, 21	瀬長の西海岸に目撃		
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃		
1995	1, 15	高安の西饒波川に目撃		
1998	11, 22	名嘉地の西の畑沿い水路に目撃		

1998	11, 28	饒波の南西の饒波川に目撃	
1998	10, 1	高安の西饒波川をないて飛翔	
1998	11, 28	南部農林高校の東の長堂川に目撃	
1988	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1989	9, 30	饒波川河口沿い漫湖干潟に目撃	
1991	1, 10	豊見城高校北の漫湖干潟を飛翔	
1998	11, 28	製糖工場西の国場川に目撃、囀り	
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿いに目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
TRINGA クサシギ属			
<i>Tringa ochropus</i> クサシギ			Green Sandpiper
1998	11, 28	饒波の南の饒波川をないて飛翔	
1999	9, 28	渡嘉敷の西の上空を鳴いて飛翔	
1999	1, 30	高安の南の饒波川に目撃	
1999	1, 15	高安の西饒波川に目撃	
1999	11, 20	豊見城高校北の漫湖干潟に目撃	
2002	11, 23	饒波の南の河川敷に目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
<i>Tringa brevipes</i> キアシシギ			Grey-rumped Sandpiper
1982	4, 29	保栄茂川の河口干潟に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	瀬長島の南東の海岸に目撃	
1988	5, 26	瀬長島の西側の海岸に目撃	
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	8, 13	高安の西饒波川で鳴き声	
1989	8, 6	漫湖干潟に目撃	
1990	8, 12	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1997	10, 12	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
2000	10, 14	与根の南の海岸干潟に目撃	
2000	8, 6	保栄茂川の河口沿い遊水池に目撃	
<i>Tringa totanus</i> アカアシシギ			
<i>Tringa totanus ussuriensis</i> アカアシシギ			Common Redshank
1974	2, 11	漫湖干潟に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1991	10, 20	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1999	3, 24	与根の北の海岸干潟に目撃	
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿いに目撃	
<i>Tringa stagnatilis</i> コアオアシシギ			Marsh Sandpiper
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1996	2, 4	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
<i>Tringa glareola</i> タカブシギ			Wood Sandpiper
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1986	8, 25	高安の西饒波川に目撃	
1996	2, 4	漫湖の南西の干潟に目撃	
<i>Tringa erythropus</i> ツルシギ			Spotted Redshank
1974	2, 11	漫湖干潟に目撃	
1997	12, 7	共同病院(当時) 前の漫湖干潟に目撃	
2000	10, 28	与根の南の干潟に目撃	
2000	1, 23	与根の東の遊水池に目撃	
<i>Tringa nebularia</i> アオアシシギ			Greenshank
1982	4, 29	与根の東の遊水池に目撃	
1987	12, 25	翁長の西海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖干潟に目撃	
1987	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	12, 23	翁長の西海岸干潟に目撃	
1989	9, 30	石火矢橋近い饒波川沿い干潟に目撃	
1988	3, 18	共同病院前の漫湖干潟に目撃	

1996	8, 25	高安の西饒波川で鳴き声	
1998	11, 28	南部農林高校沿い水路に目撃	
1999	3, 24	与根の海岸干潟に目撃	
2000	8, 6	保栄茂川の河口沿い遊水池に目撃	
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿いに目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
		<i>Tringa guttifer</i> カラフトアオアシシギ	Spotted Greensandpiper
1985	9, 15	与根の北の海岸干潟に目撃	
1985	10, 7	与根	*6
1985	10, 8	豊見城市内	
1995	9, 10	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
		<i>Tringa melanoleuca</i> オオキアシシギ	Greater Yellowlegs
1983	11, 8	饒波川沿い漫湖干潟に目撃	* 2
1983	12, 26-1984, 1, 8	饒波川沿い漫湖干潟に目撃	*3
Family GLAREOLIDAE ツバメチドリ科			
GLAREOLA ツバメチドリ属			
		<i>Glareola maldivarum</i> ツバメチドリ	Indian Pratincole
2019	6, 21	瀬長島地先那覇空港新滑走路建設用地(営巣抱卵)	
Family LARIDAE カモメ科			
GYGIS シロアジサシ属			
		<i>Gygis alba</i> シロアジサシ	White Tern
		<i>Gygis alba candida</i> シロアジサシ	
2004	9, 17	豊見城市内	嵩原ら (2008)
RISSA ミツユビカモメ属			
		<i>Rissa tridactyla</i> ミツユビカモメ	Black-legged Kittiwake
		<i>Rissa tridactyla pollicaris</i> ミツユビカモメ	
1976		漫湖干潟・与根	* 3
CHROICOCEPHALUS ユリカモメ属			
		<i>Chroicocephalus ridibundus</i> ユリカモメ	Black-headed Gull
1986	2, 14	豊見城市内	
1988	3, 18	豊見城高校北の漫湖に目撃、飛翔	
2002	11, 23	与根の東の遊水池に目撃	
SAUNDERSILARUS ズグロカモメ属			
		<i>Saundersilarus saundersi</i> ズグロカモメ	Saunders' Gull
1985	11, 16	与根	
1985	11, 19	豊見城市内	
1999	11, 13	与根の南の河川を飛翔	
1999	11, 13	与根の東の遊水池に目撃	
1987	12, 25	漫湖のとよみ大橋西側で観察した	
1991	1, 10	豊見城高校北の漫湖に目撃、飛翔	
2002	11, 23	翁長の西保栄茂川河口沿い調整池に目撃	
HYDROCOLOEUS ヒメカモメ属			
		<i>Hydrocoloeus minutus</i> ヒメカモメ	Little Gull
1987	6, 22	漫湖の中央部に目撃	
1987	7, 27	漫湖干潟	* 2
LARUS カモメ属			
		<i>Larus crassirostris</i> ウミネコ	Black-tailed Gull
2001	4, 15	与根の海岸干潟に目撃	
2002	12, 22	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
		<i>Larus canus</i> カモメ	
		<i>Larus canus kamtschatschensis</i> カモメ	Common Gull
1986	2, 15	具志・瀬長干潟	* 2
		<i>Larus vegae</i> セグロカモメ	Herring Gull
		<i>Larus vegae vegae</i> セグロカモメ	

2000	2, 17	漫湖の中央部に目撃	
?		豊崎	* 4
		<i>Larus vegae mongolicus</i> モンゴルセグロカモメ	
2000	2, 17	漫湖干潟	
2020	2, 23	与根干潟南側エリア	山城正邦私信
2020	2, 26	三角池	山城正邦私信
GEOCHELIDON ハシブトアジサシ属			
		<i>Gelochelidon nilotica</i> ハシブトアジサシ	Gull-billed Tern
		<i>Gelochelidon nilotica affinis</i> ハシブトアジサシ	
1985	10, 7	与根の北の海岸干潟を飛翔	
2004		漫湖干潟	水鳥湿地センター
2022		漫湖干潟	水鳥湿地センター
HYDROPROGNE オニアジサシ属			
		<i>Hydroprogne caspia</i> オニアジサシ	Caspian Tern
1985	1~2	与根・漫湖干潟	* 2
1987	1, 16	瀬長海岸	
1998	1, 15	翁長の西海岸リーフに目撃	
1999	1, 15	翁長の西海岸リーフに目撃	
1999	11, 13	与根の南の河川を飛翔	
2002	11, 23	与根の東の遊水池に目撃・具志干潟など	嵩原ら(2003)
2002	11	漫湖干潟	嵩原ら(2003)
2016	11, 10	瀬長干潟	
2016	12, 10	瀬長干潟	
2018	11, 1	瀬長干潟	
2018	11, 5	与根旧ゴルフ場用地造成地	(平安山英義私信)
2021	1, 11	与根・瀬長島近く	
STERNULA コアジサシ属			
		<i>Sternula albifrons</i> コアジサシ	
		<i>Sternula albifrons sinensis</i> コアジサシ	Little Tern
1999	6, 13	瀬長島の西海岸に目撃	
1988	5, 26	瀬長島の海岸沿いを飛翔	
2000	8, 6	瀬長島の東海岸沿いを飛翔	
1990	8, 12	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
2019	6, 21	瀬長島地先那覇空港新滑走路建設用地(営巣・抱卵)	
2019	7	与根旧ゴルフ場造成地内(営巣・抱卵)	
2020	6, 6	豊崎人工ビーチ(営巣・抱卵)	
ONYCHOPRION セグロアジサシ属			
		<i>Onychoprion anaethetus</i> マミジロアジサシ	
		<i>Onychoprion anaethetus anaethetus</i> マミジロアジサシ	
2020	8, 20	岡波島	渡久地豊私信
STERNA アジサシ属			
		<i>Sterna dougallii</i> ベニアジサシ	Roseate Tern
		<i>Sterna dougallii bangsi</i> ベニアジサシ	
		豊崎	* 4
2020	8, 20	岡波島	渡久地豊私信
		<i>Sterna sumatrana</i> エリグロアジサシ	Black-naped Tern
		豊崎	* 4
2020	8, 20	岡波島	渡久地豊私信
		<i>Sterna hirundo</i> アジサシ	Common Tern
		<i>Sterna hirundo longipennis</i> アジサシ	
1976		漫湖干潟・与根	* 3
		豊崎	* 4
CHLIDONIAS クロハラアジサシ属			
		<i>Chlidonias hybrida</i> クロハラアジサシ	Whiskered Tern
		<i>Chlidonias hybrida hybrida</i> クロハラアジサシ	
1994	10, 16	高安の西の饒波川で飛翔	
1989	7, 23	饒波川河口沿いを飛翔	

1995	10, 1	饒波川河口沿い電線に目撃、飛翔	
1990	10, 21	豊見城高校北の漫湖を飛翔	
2019	6, 21	瀬長島地先那覇空港新滑走路建設用地	
		<i>Chlidonias leucopterus</i> ハジロクロハラアジサシ	White-winged Black Tern
1985	10, 7	与根の北の海岸沿いを飛翔	
2019	6, 21	瀬長島地先那覇空港新滑走路建設用地	
		<i>Chlidonias niger</i> ハシグロクロハラアジサシ	
		<i>Chlidonias niger niger</i> ハシグロクロハラアジサシ	Black Tern
1983	7, 15	漫湖干潟	

Order PROCELLARIIFORMES ミズナギドリ目

Family PROCELLARIIDAE ミズナギドリ科

ARDEENNA ハシボソミズナギドリ属

Ardenna pacifica オナガミズナギドリ

Ardenna pacifica cuneata オナガミズナギドリ

Wedge-tailed shearwater

1979 5, 29 市内で保護の記録

Ardenna tenuirostris ハシボソミズナギドリ

* 2
Short-tailed Shearwater

1974 5, 16 与根の民家で保護の記録

Order CICONIIFORMES コウノトリ目

Family CICONIIDAE コウノトリ科

Ciconia nigra ナベコウ

Black Stork

ナベコウ

Ciconia nigra

2012 冬季 漫湖干潟

* 1

Ciconia boyciana コウノトリ

White Stork

1967 1, 16~3, 9 漫湖に渡来記録(県内初記録)

高良・黒田 (1969)

1976 漫湖干潟・与根

* 3

1986 2, 11 漫湖に渡来記録

1986 4, 28 漫湖に渡来記録

1987 2, 15 共同病院前の漫湖干潟に目撃

1992 冬季 共同病院前の漫湖干潟に目撃

2015 12, 19 三角池近く(標識付き)

兵庫県より飛来 (J0107)

Order PHOENICOPTERIFORMES フラミンゴ目

Family PHOENICOPTERIDAE フラミンゴ科

Phoenicopterus

roseus

オオフラミンゴ Greater Flamingo

2015 4, 2 三角池

2015年4月3日付タイムス

2015 4, 10 三角池

自然分布?

Order SULIFORMES カツオドリ目

Family SULIDAE カツオドリ科

Sula leucogaster カツオドリ

Sula leucogaster plotus カツオドリ

Brown Booby

豊崎

* 4

Family PHALACROCORACIDAE ウ科

PHALACROCORAX ウ属

Phalacrocorax capillatus ウミウ

Japanese Cormorant

豊崎

* 4

Phalacrocorax carbo カワウ

Phalacrocorax carbo hanedae カワウ

Common Cormorant

1985 冬季 与根

2004 10, 23 漫湖での渡来記録

2020 4, 27 三角池・与根

2020 12, 18 三角池・与根

2020 12, 18 豊崎干潟

(20+)

Order PELECANIFORMES ペリカン目

Family THRESKIORNITHIDAE トキ科

PLEGADIS ブロンズトキ属

Plegadis falcinellus ブロンズトキ

Glossy Ibis

2021 5, 14 三角池 奥間邑明氏私信

PLATALEA ヘラサギ属

Platalea leucorodia ヘラサギ

White Spoonbill

Platalea leucorodia leucorodia ヘラサギ

1976 3, 1 漫湖に渡来記録がある
 1982 2, 11 共同病院前の漫湖干潟に目撃
 1984 2, 4 共同病院前の漫湖干潟に目撃
 2003 11, 23 与根の東の遊水池に目撃
 2015 1, 22 三角池
 2015 6, 21 三角池
 2016 3, 21 豊崎
 2021 漫湖干潟 * 1
 2022 10, 22 漫湖干潟
 2024 1. 31 三角池

Platalea minor クロツラヘラサギ

Black-faced Spoonbill

1975 ~1986(冬季) 漫湖干潟・与根干潟 * 2
 1982 2, 11 共同病院前の漫湖干潟に目撃
 1986 12, 2 翁長の西の保栄茂川河口に目撃
 1999 1, 17 共同病院前の漫湖干潟に目撃
 1999 1, 15 翁長の西の海岸に目撃
 2002 11, 23 与根の東の遊水池に目撃
 2000 12, 14 与根の東の遊水池に目撃
 2018 1, 8 三角池
 2019 3, 10 豊崎干潟 (20 個体)
 2023 8, 12 三角池 (11 個体:越夏)
 2024 1. 31 三角池 (16 個体:越冬)

Family ARDEIDAE サギ科

BOTAURUS サンカノゴイ属

Botaurus stellaris サンカノゴイ

Eurasian Bittern

Botaurus stellaris stellaris サンカノゴイ

1987 1, 30-2, 11 具志干潟・瀬長干潟 * 2

IXOBRYCHUS ヨシゴイ属

Ixobrychus sinensis ヨシゴイ

Yellow Bittern

Ixobrychus sinensis sinensis ヨシゴイ

2002 11, 3 与根の東の遊水池のアシに目撃
 1994 10, 23 高安の西、饒波川の草地に目撃
 2002 10, 19 豊見城高校前の漫湖ヒルギ林に目撃

Ixobrychus eurhythmus オオヨシゴイ

Von Skreck's Bittern

2016 漫湖干潟 * 1
 2017 10. 5 漫湖干潟で放鳥 嵩原ら (2019)

Ixobrychus cinnamomeus リュウキュウヨシゴイ Cinnamon Bittern

1994 10, 16 高安の西の饒波川に目撃
 1998 4, 18 与根の東、遊水池沿い草地の上空を飛翔
 1999 2, 6 与根の東の遊水池に目を目撃
 1999 4, 26 金良の西、農耕地の上を目が飛翔
 2000 5, 12 とよみ大橋南の漫湖に目撃
 2000 8, 26 とよみ大橋南の漫湖に♀の若鳥を目撃
 2002 1, 26 豊見城高校前の漫湖干潟に♀の若鳥を目撃
 2003 10, 4 豊見城団地北東の饒波川に若を目撃
 2020 11 三角池
 2008 漫湖干潟
 2019 11, 22 漫湖干潟

NYCTICORAX ゴイサギ属

Nycticorax nycticorax ゴイサギ

		<i>Nycticorax nycticorax nycticorax</i> ゴイサギ	Black-crowned Night Heron
1992	6, 28	とよみ大橋南の漫湖上空を若鳥が飛翔	
1999	10, 20	翁長の西の保栄茂川河口で若鳥が飛翔	
1999	9, 5	高安の南の饒波川沿いを飛翔	
1999	10, 8	饒波川の河口沿い樹上に成鳥を目撃	
1999	9, 12	真玉橋の国場川上空を成鳥が飛翔	
2000	10, 14	与根の東の遊水池の上空を飛翔	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
2004	7, 1	長堂集落の上空を鳴いて飛翔	
2011	8, 12	与根 (繁殖)	*コサギとのコロニー形成
BUTORIDES ササゴイ属			留鳥
		<i>Butorides striata</i> ササゴイ	Green-backed Heron
		<i>Butorides striata amurensis</i> ササゴイ	
1982	4, 29	与根の北の海岸干潟に目撃	
1985	4, 29	真玉橋西の漫湖干潟に目撃	
1987	12, 23	饒波の南の河川沿いで鳴き声	
1988	4, 21	瀬長島の東、干潟の水路に目撃	
1998	11, 28	饒波の南西の河川に目撃	
1991	4, 7	翁長の西の保栄茂川河口に目撃	
1999	10, 8	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
ARDEOLA アカガシラサギ属			
		<i>Ardeola bacchus</i> アカガシラサギ	Chinese Pond Heron
1997	1, 15	高安の西の饒波川に目撃	
		<i>Ardeola speciosa</i> ジャワアカガシラサギ	Javen Pond Heron
2019	9, 14	三角池 (冬羽)	新垣裕治及び立松聖久私信
2023	9	漫湖干潟 (夏羽)	
BUBULCUS アマサギ属			
		<i>Bubulcus ibis</i> アマサギ	
		<i>Bubulcus ibis coromandus</i> アマサギ	Cattle Egret
1985	9, 15	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
1988	2, 22	渡橋名の農耕地の上空を飛翔	
1988	1, 12	豊見城団地北東の河川上空を飛翔	
1988	1, 6	上田の西の集落上空を飛翔	
1999	9, 28	保栄茂の集落沿い上空を飛翔	
ARDEA アオサギ属			
		<i>Ardea cinerea</i> アオサギ	
		<i>Ardea cinerea jouyi</i> アオサギ	Grey Heron
1982	2, 11	共同病院前の漫湖干潟に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖に目撃	
1998	11, 28	饒波の南西の河川上空を飛翔	
1999	10, 8	高安の北西の饒波川に目撃	
1999	10, 8	饒波川の岸辺の樹上に成鳥を目撃	
1999	3, 24	与根の海岸干潟に目撃	
2002	11, 23	与根の東の遊水池に目撃	
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃	
		<i>Ardea purpurea</i> ムラサキサギ	Purple Heron
		<i>Ardea purpurea manilensis</i> ムラサキサギ	
1969	1, 28	漫湖干潟	高良・黒田 (1969)
1985	10, 13	与根の遊水池に目撃	
		<i>Ardea alba</i> ダイサギ	Great Egret
		<i>Ardea alba modesta</i> チュウダイサギ	
1982	4, 29	与根の北海岸干潟に目撃	
1987	12, 25	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃	
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖に目撃	
1989	7, 23	石火矢橋北の饒波川に目撃	

1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃		
1998	11, 28	饒波の南西の河川上空を飛翔		
1998	11, 28	製糖工場西の池沿いに目撃		
1998	12, 4	真玉橋の東の国場川上空を飛翔		
1999	3, 24	与根の南海岸干潟に目撃		
		<i>Ardea intermedia</i> チュウサギ	Intermediate Egret	
		<i>Ardea intermedia intermedia</i> チュウサギ		
1982	4, 29	与根の北海岸干潟に目撃		
1988	1, 6	与根の南海岸干潟に目撃		
1998	11, 28	南部農林高校の東、農耕地上空を飛翔		
1999	10, 8	とよみ大橋南の漫湖に目撃		
1999	10, 8	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃		
EGRETТА コサギ属				
		<i>Egretta garzetta</i> コサギ	Little Egret	
		<i>Egretta garzetta garzetta</i> コサギ		
1982	4, 29	与根の北海岸干潟に目撃		
1987	12, 25	とよみ大橋南の漫湖に目撃		
1988	1, 6	翁長の西海岸干潟に目撃		
1988	1, 6	座安の南西の保栄茂川に目撃、飛翔		
1989	12, 17	豊見城団地北東の河川上空を飛翔		
1989	12, 17	金良の南、農耕地上空を飛翔		
1989	7, 23	石火矢橋北の饒波川に目撃		
1989	1, 15	翁長の西海岸干潟に目撃		
1998	3, 18	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃		
1998	11, 28	饒波の南西の河川に目撃、上空を飛翔		
1998	11, 28	南部農林高校沿い水路に目撃		
2002	9, 15	饒波の南饒波川沿いに目撃		
2011	8, 12	与根 (繁殖)	*コ ^o 付 ^o のコロニーに 混在	(繁殖一部留鳥)
		<i>Egretta sacra</i> クロサギ	Pacific Reef Heron	
		<i>Egretta sacra sacra</i> クロサギ		
1985	9, 15	与根の北海岸干潟に目撃		
1987	12, 25	翁長の西海岸に黒色タイプを目撃		
1988	1, 6	与根の南、海岸干潟に黒色タイプを目撃		
1988	1, 6	与根の西、海岸干潟に目撃		
1988	5, 26	瀬長島の東、干潟の水路に目撃		
1999	10, 8	真玉橋西の漫湖干潟に黒色タイプを目撃		
1999	2, 16	翁長の西海岸に黒色タイプを目撃		
		<i>Egretta eulophotes</i> カラシラサギ	Chinese Egret	
1989	5, 7	与根の南海岸干潟に目撃		
1996	5, 4	与根の南海岸干潟に目撃		
1996	5, 19	豊見城高校前の漫湖干潟に目撃		
2019	5, 29	漫湖干潟		

Order ACCIPITRIFORMES タカ目

Family PANDIONIDAE ミサゴ科

PANDION ミサゴ属

Pandion haliaetus ミサゴ

Western Osprey

Pandion haliaetus haliaetus ミサゴ

2002	11, 23	翁長の西、保栄茂川河口沿い上空を飛翔
1985	1, 13	与根の海岸上空を飛翔
1984	10, 10	豊見城高校前の漫湖上空を飛翔

Family ACCIPITRIDAE タカ科

タカ科 Family ACCIPITRIDAE

Haliaeetus albicilla オジロワシ White-tailed Eagle

Haliaeetus albicilla albicilla オジロワシ

1969	2, 7	豊見城の干潟	高良・黒田 (1969)
1994	1, 26	翁長の西海岸干潟に目撃	

1994	2, 21	漫湖干潟上空を飛翔		
	<i>Circus melanoleucos</i>		マダラチュウヒ	Pied Harrier
2001	4, 15	豊崎の埋立地で目撃		
MILVUS	トビ属			
	<i>Milvus migrans</i> トビ		Black Kite	
	<i>Milvus migrans lineatus</i> トビ			
1984	10, 21	漫湖干潟上空を飛翔		
ACCIPITER	ハイタカ属			
	<i>Accipiter soloensis</i> アカハラダカ		Chinese Sparrowhawk	
2016		漫湖干潟の観察記録		水鳥湿地センター
	<i>Accipiter gularis</i> ツミ		Japanese Sparrowhawk	
	<i>Accipiter gularis iwasakii</i> リュウキュウツミ			
1999	9, 28	渡嘉敷の西の雑木林に飛び込む		
1998	11, 28	石火矢橋南西の饒波川沿いを飛翔		
1999	2, 6	とよみ小学校北側沿い上空を飛翔		
1989	7, 23	漫湖沿い樹上に若鳥を目撃		
2017	8	漫湖干潟沿い樹上		雌
2020	7, 9	海軍壕公園		繁殖(雌4)
	<i>Accipiter gularis</i>	ツミ		
	<i>gularis gularis</i>	沖縄諸島	秋季の渡り(旅鳥)	* 7
	<i>Accipiter nisus</i> ハイタカ		Northern Sparrow Hawk	
	<i>Accipiter nisus nisosimilis</i> ハイタカ			
2010		漫湖干潟		* 1
2023	1	漫湖干潟		
BUTASTUR	サシバ属			
	<i>Butastur indicus</i> サシバ		Grey-faced Buzzard-eagle	
1989	12, 23	翁長の西海岸を飛翔		
1988	1, 6	与根の南海岸沿いの林から鳴き声		
1999	2, 7	与根の集落の電柱に目撃		
1988	1, 6	座安の西、農耕地帯で若鳥を目撃		
1988	1, 12	豊見城団地北の農耕地で成鳥を目撃		
2002	11, 23	瀬長島の南西の雑木林を鳴いて飛翔		
1987	12, 25	瀬長の草原地上空を飛翔		
1998	11, 28	饒波の南西の河川沿い上空を飛翔		
1989	12, 17	金良の西、農耕地上空を飛翔		
1987	12, 25	宜保の農耕地帯上空を鳴いて飛翔		
1999	10, 13	豊見城城跡公園南を鳴いて飛翔		
1987	12, 23	長嶺小学校の西の広葉樹に目撃		
1987	12, 25	長嶺中学校の東のギンネム林に目撃		
1998	11, 28	南部農林高校南東の農耕地に目撃		
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側で目撃、上空を飛翔		
1998	10, 19	真玉橋の集落の上空を飛翔		
BUTEO	ノスリ属			
	<i>Buteo lagopus</i> ケアシノスリ		Rough-legged Buzzard	
	<i>Buteo lagopus menzbieri</i> ケアシノスリ			
1987	2, 8	瀬長島の北側の上空を飛翔		
1987	12, 18	製糖工場西の河川沿いで目撃		
	<i>Buteo japonicus</i> ノスリ		Common Buzzard	
	<i>Buteo japonicus japonicus</i> ノスリ			
1994	11,	饒波川河口上空を飛翔		
		Order STRIGIFORMES フクロウ目		
		Family STRIGIDAE フクロウ科		
NINOX	アオバズク属			
	<i>Ninox japonica</i> アオバズク		Brown Hawk Owl	
	<i>Ninox japonica totogo</i> リュウキュウアオバズク			
1976		漫湖干潟・与根		* 3
2018		豊見城城跡公園で鳴き声		

2019		豊見城城跡公園で鳴き声		
2022	9	漫湖干潟		漫湖水鳥湿地センター
2024	7	海軍壕公園 (繁殖)	雛 3羽	金城昌一私信
		<i>Otus elegans</i> リュウキュウコノハズク		
		<i>Otus elegans elegans</i> リュウキュウコノハズク	Ryukyu Scops Owl	
1976		漫湖干潟・与根		* 3
ASIO		トラフズク属		
		<i>Asio flammeus</i> コミミズク	Short-eared Owl	
		<i>Asio flammeus flammeus</i> コミミズク		
1977	12,	与根の農耕地沿いに目撃		
2008	2, 12	豊崎		
		Order BUCEROTIFORMES サイチョウ目		
		Family UPUPIDAE ヤツガシラ科		
UPUPA		ヤツガシラ属		
		<i>Upupa epops</i> ヤツガシラ	Hoopoe	
		<i>Upupa epops saturata</i> ヤツガシラ		
1976	3, 3	瀬長の草地に目撃		
1982	3, 13	漫湖の饒波川河口近くで目撃		
1998	8,	高安の西の饒波川沿いで目撃		
2014		漫湖干潟		
		Order CORACIIFORMES ブッポウソウ目		
		Family ALCEDINIDAE カワセミ科		
HALCYON		アカシヨウビン属		
		<i>Halcyon coromanda</i> アカシヨウビン	Ruddy Kingfisher	
		<i>Halcyon coromanda bangsi</i> リュウキュウアカシヨウビン		
1993	5,	真玉橋の集落沿い林に目撃		
		<i>Halcyon pileata</i> ヤマシヨウビン	Black-capped Kingfisher	
2001	冬季	漫湖のとよみ大橋の柱脚に目撃		
TODIRAMPHUS		ナンヨウシヨウビン属		
		<i>Todiramphus chloris</i> ナンヨウシヨウビン	Collared Kingfisher	
		<i>Todiramphus chloris collaris</i> ナンヨウシヨウビン		
	8, 10~		(沖縄島初記録)	富田(2019) 嵩原ら(2019)
2017	2018. 4. 13	漫湖干潟		
ALCEDO		カワセミ属		
		<i>Alcedo atthis</i> カワセミ	Common Kingfisher	
		<i>Alcedo atthis bengalensis</i> カワセミ		
1998	11, 10	与根の北の遊水池に目を目撃		
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川に目撃		
1996	3, 24	豊見城高校前漫湖干潟水路沿いに♀		
2016	3, 4	三角池		
2021	1, 11	三角池近く		
		Order PICIFORMES キツツキ目		
		Family PICIDAE キツツキ科		
YUNGIPICUS		コゲラ属		
		<i>Yungipicus kizuki</i> コゲラ	Pygmy Woodpecker	
		<i>Yungipicus kizuki nigrescens</i> リュウキュウコゲラ		
2003		漫湖干潟		* 1
2006		漫湖干潟		* 1
		Order FALCONIFORMES ハヤブサ目		
		Family FALCONIDAE ハヤブサ科		
		<i>Falco tinnunculus</i> チョウゲンボウ	Eurasian Kestrel	
		<i>Falco tinnunculus interstinctus</i> チョウゲンボウ		
2002	11, 23	翁長の西、保栄茂川河口沿い上空を飛翔		
2002	11, 24	与根の東の遊水池沿い上空を飛翔		
1998	1, 3	長堂の北の農耕地上空を飛翔		
2008		漫湖干潟		* 1

		<i>Falco subbuteo</i> チゴハヤブサ	Eurasian Hobby	
		<i>Falco subbuteo subbuteo</i> チゴハヤブサ		
2016		漫湖干潟		* 1
		<i>Falco peregrinus</i> ハヤブサ	Peregrine Falcon	
		<i>Falco peregrinus japonensis</i> ハヤブサ		
1994	1, 26	翁長の西海岸上空をを飛翔		
1996	2, 4	与根の東遊水池の上空を飛翔		
2002	1, 27	与根の東遊水池の上空を飛翔		
1994	1, 26	漫湖の中央部上空を飛翔		
Order PASSERIFORMES スズメ目				
Family CAMPEPHAGIDAE サンショウクイ科				
PERICROCOTUS サンショウクイ属				
		<i>Pericrocotus divaricatus</i> サンショウクイ	Ashy Minivet	
		沖繩諸島		* 7
2013	秋季	漫湖干潟		* 1
		<i>Pericrocotus tegimae</i> リュウキュウサンショウクイ	Ryukyu Ashy Minivet	
1999	11, 6	豊見城の南の林で目撃		
1998	8, 23	真玉橋の集落上空を鳴いて飛翔		
2002	9, 12	真玉橋の林から鳴き声		
Family DICRURIDAE オウチュウ科				
DICRURUS オウチュウ属				
		<i>Dicrurus leucophaeus</i> ハイイロオウチュウ	Ashy Drongo	
		<i>Dicrurus leucophaeus leucogenis</i> ハイイロオウチュウ		
2019	10, 16	漫湖干潟		
		<i>Dicrurus macrocercus</i> ssp. 亜種不明		
		<i>Dicrurus hottentottus</i> カンムリオウチュウ	Hair-crested Drongo	
		<i>Dicrurus hottentottus brevirostris</i> カンムリオウチュウ		
2004	10, 23	瀬長島		嵩原ら (2008)
		カササギヒタ		
Family		キ科		
Family MONARCHIDAE				
TERPSIPHONE サンコウチョウ属				
		<i>Terpsiphone atrocaudata</i> サンコウチョウ	Japanese Paradise Flycatcher	
		<i>Terpsiphone atrocaudata illex</i> リュウキュウサンコウチョウ		
1999	5, 29	保栄茂の北の雑木林で鳴いて飛翔		
2004	7, 1	嘉数北の雑木林で囀り		
Family LANIIDAE モズ科				
LANIUS モズ属				
		<i>Lanius cristatus</i> アカモズ	Brown Shrike	
		<i>Lanius cristatus lucionensis</i> シマアカモズ		
2000	2,	漫湖の西のマングローブ林に目撃		
2019	9, 14	与根ゴルフ場跡地		
		<i>Lanius cristatus superciliosus</i> アカモズ		
2007		漫湖干潟		* 1
2018	10, 28	不明		奥間邑明私信
		Family CORVIDAE カラス科		
PICA カササギ属				
		<i>Pica serica</i> カササギ	Oriental Magpie	
2014	11, 23	三角池		嵩原ら (2016)
2020	2	瀬長島		
		<i>Corvus macrorhynchos</i> ハシブトガラス	Jungle Crow	
		<i>Corvus macrorhynchos connectens</i> リュウキュウハシブトガラス		
1989	8, 13	豊見城の東の公園沿いに目撃		
2000	11, 5	与根の東の道路沿い電柱に目撃		
2011		漫湖干潟		
2019	2, 25	三角池		
		Family BOMBYCILLIDAE レンジャク科		
BOMBYCILLA レンジャク属				

440.	<i>Bombycilla japonica</i>	ヒレンジヤク	Japanese Waxwing	
2023	3, 12	漫湖干潟		
		Family PARIDAE シジユウカラ科		
	PARUS シジユウカラ属			
	<i>Parus cinereus</i> シジユウカラ		Great Tit (Okinawa)	
	<i>Parus cinereus okinawae</i> オキナワシジユウカラ			
1999	3, 24	保栄茂川の河口沿い雑木に目撃、囀り		
1989	12, 17	翁長の北の混交林を鳴いて飛翔		
1999	5, 29	保栄茂の北、混交林に目撃、囀り		
1998	10, 1	高安の西、饒波川沿い広葉樹で囀り		
1998	11, 28	根差部の南の雑木林で囀り		
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側の林で囀り		
1989	8, 6	饒波川沿い広葉林で囀り		
1999	9, 26	真玉橋の南の住宅街で囀り		
1991	3, 17	漫湖干潟沿いで鳴き声		
1987	9, 15	真玉橋の広葉林で囀り		
		Family REMIZIDAE ツリスガラ科		
	REMIZ ツリスガラ属			
	<i>Remiz consobrinus</i> ツリスガラ		Penduline Tit	
1999	11, 23	与根の東、遊水池のアシに♀タイプを目撃		
2003	3, 30	三角池		嵩原ら(2003)
		Family ALAUDIDAE ヒバリ科		
	ALAUDA ヒバリ属			
	<i>Alauda arvensis</i> ヒバリ		Eurasian Skylark	
	<i>Alauda arvensis japonica</i> ヒバリ			
1969	1, 30	漫湖小緑埋め立て地		高良・黒田(1969)
1976		漫湖干潟・与根		* 3
2008	2, 12	豊崎		
2013	4, 10	豊崎		
		Family PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科		
	HYPSIPETES ヒヨドリ属			
	<i>Hypsipetes amaurotis</i> ヒヨドリ		Brown-eared Bulbul	
	<i>Hypsipetes amaurotis amaurotis</i> ヒヨドリ			
-		琉球諸島	冬鳥	* 7
	<i>Hypsipetes amaurotis pryeri</i> リュウキュウヒヨドリ			
1989	12, 23	翁長の西海岸の防潮林で鳴き声		
1988	1, 6	与根の南海岸沿いの林から鳴き声		
1988	1, 6	翁長の西海岸の林で鳴いて飛翔		
1989	12, 17	翁長の北の混交林で鳴きながら飛翔		
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声		
1988	1, 6	与根集落端、トマト畑で目撃		
1988	1, 6	座安の南西の農耕地で鳴いて飛翔		
1999	9, 28	渡橋名の北の墓地の樹上で囀り		
1988	2, 22	渡橋名の混交林で鳴き声		
1999	5, 29	保栄茂の北の雑木林を鳴いて飛翔		
1999	9, 28	渡嘉敷の西の雑木林を鳴いて飛翔		
1998	8, 15	高嶺の南の広葉林で鳴いて飛翔		
1988	2, 22	高嶺の広葉林で鳴きながら飛翔		
1988	1, 12	豊見城団地北東の広葉林で鳴き声		
1998	8, 15	瀬長島の西海岸の雑木林で鳴き声		
1988	4, 21	瀬長島の海岸雑木林から鳴き声		
1988	3, 12	瀬長の農耕地(野菜畑)で姿、声		
1987	12, 25	瀬長の雑木林で、鳴いて飛翔		
1999	9, 28	与根の東の農耕地で鳴き声		
1988	1, 6	伊良波の農耕地で鳴き声		
1988	1, 6	上田の西の農耕地から鳴き声		
1998	8, 15	陸上競技場の西の樹上で囀り		

1987	12, 23	饒波の河川沿い広葉林から、鳴き声
1998	11, 28	饒波の南西河川沿い林で鳴いて飛翔
2002	11, 23	饒波の河川沿いを鳴いて飛翔
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴き声
1988	1, 12	金良の南の農耕地沿い広葉林で声
1987	12, 25	宜保の広葉林で鳴きながら飛翔
1989	8, 13	豊見城の東の公園沿いで鳴き声
1987	12, 23	長嶺小学西の農耕地沿い広葉林で声
1998	11, 28	根差部の南の雑木林を鳴いて飛翔
1998	11, 28	長堂の南の農耕地を鳴いて飛翔
1998	11, 28	長堂の北の雑木林で鳴いて飛翔
1990	1, 7	長堂の農耕地で鳴きながら飛翔
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側で鳴き声
1987	12, 25	漫湖沿い農耕地で姿、鳴いて飛翔
1989	7, 23	饒波川漫湖沿い林で鳴き声
1991	10, 21	漫湖干潟沿いで鳴き声
1990	7, 27	真玉橋で姿、飛翔、鳴き声
1990	7, 27	嘉敷のギンネム林から、鳴き声
1998	11, 28	製糖工場西の電線に目撃、囀り
1998	12, 4	真玉橋の東雑木林を鳴いて飛翔

Family HIRUNDINIDAE ツバメ科

RIPARIA ショウドウツバメ属

Riparia riparia ショウドウツバメ

Sand Martin

Riparia riparia ijimae ショウドウツバメ

1998	11, 22	渡橋名の南保栄茂川を飛翔
1988	5, 26	瀬長島の海岸沿い草地で上空を飛翔

HIRUNDO ツバメ属

Hirundo tahitica リュウキュウツバメ

Pacific Swallow

Hirundo tahitica namiyei リュウキュウツバメ

1989	12, 23	翁長の西海岸の沿い電線に姿、飛翔
1988	1, 6	与根の南海岸上空を飛翔
1989	12, 17	翁長の北の農耕地の上空を飛翔
1989	12, 23	保栄茂の南、農耕地の上空を飛翔
1988	1, 6	与根集落上空を飛翔
1988	1, 6	座安の南西の水路沿いを飛翔
1988	2, 22	渡橋名の混交林上を飛翔
2002	11, 23	伊良波中学校南西の農耕地上空を飛翔
1988	2, 22	高嶺の牛舎や広葉林がある所で飛翔
1988	1, 12	豊見城団地北東の農耕地上空を飛翔
1987	12, 25	瀬長島の南西側で上空を飛翔
1987	5, 26	瀬長島の西側頂上付近で飛翔
1988	4, 21	瀬長島の北側の電線に止まる
1999	9, 10	与根の北の遊水池を飛翔
1987	12, 25	瀬長の海岸沿い広葉林を飛翔
1988	1, 6	伊良波の豚舎近くで姿、飛翔
1999	12, 20	村役場の裏の上空を飛翔
1989	12, 23	饒波の農耕地沿い河川を飛翔
1998	11, 28	饒波の南西の河川上空を飛翔
2002	11, 23	饒波の河川上空を番が飛翔
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川を飛翔
1989	12, 17	金良の南の農耕地上空を鳴いて飛翔
1988	1, 12	金良の南の農耕地で飛翔
1987	12, 25	宜保の公園の上空を飛翔
1998	10, 1	高安の西饒波川沿い電線に姿、飛翔
1989	12, 23	長嶺小学西の畑の上空を飛翔
1998	11, 28	根差部の南の雑木林上空を飛翔
1987	12, 18	長嶺中の東の広葉林上空を飛翔
1998	11, 28	長堂の北の雑木林の上空を飛翔

1987	12, 18	長堂の農耕地の上空を飛翔
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側を飛翔
1987	12, 25	漫湖沿い農耕地上空を飛翔
1989	8, 6	饒波川沿いの電線に姿、飛翔
1992	6, 28	共同病院前漫湖沿いで上空を飛翔
1990	7, 27	嘉数のキビ畑の上空を飛翔
1998	11, 28	製糖工場西の豚舎の上空を飛翔
1998	12, 4	真玉橋の東の農耕地沿い上空を飛翔

Hirundo rustica ツバメ

House Swallow

Hirundo rustica gutturalis ツバメ

1999	9, 28	保栄茂の南農耕地を飛翔
1999	9, 28	保栄茂の広場の上を飛翔
1998	11, 22	渡橋名の南農耕地沿い電線に目撃
1999	9, 28	渡嘉敷の西の丘を飛翔
1988	4, 21	瀬長島の上空リュウキュウツバメと飛翔
1988	5, 26	瀬長の海岸沿いで飛翔
1985	9, 15	与根の北の海岸沿い上空を飛翔
1998	10, 1	高安の西饒波川沿い電線に姿、飛翔
1989	9, 23	長嶺中の東の農耕地上空を飛翔
1998	9, 15	豊見城高校前漫湖沿いで飛翔
1987	9, 15	真玉橋の住宅街で飛翔

CECROPIS コシアカツバメ属

Cecropis daurica コシアカツバメ

Cecropis daurica japonica コシアカツバメ

2004 10, 23 瀬長島

Family CETTIIDAE ウグイス科

HORORNIS ウグイス属

Horornis diphone ウグイス

Japanese Bush Warbler

Horornis diphone cantans ウグイス

1989	1, 15	翁長の西海岸の防潮林で鳴き声
1988	1, 6	与根の南海岸沿いの林から鳴き声
1988	1, 6	翁長の西海岸の林で鳴き声
1989	12, 17	翁長の北の雑木林から鳴き声
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声
1988	1, 6	与根集落沿い農耕地で鳴き声
1988	1, 6	座安の南西の雑木林で鳴き声
1988	2, 22	渡橋名の雑木林で囀り
2002	11, 23	伊良波中学校南西の林で鳴き声
1988	2, 22	高嶺の農耕地帯で地鳴きを聞く
1988	1, 12	豊見城団地北東の広葉林で鳴き声
1987	12, 25	瀬長島の南西側の雑木林で鳴き声
1987	12, 25	瀬長島の西海岸雑木林から鳴き声
1988	3, 12	瀬長の農耕地(野菜畑)で鳴き声
1988	1, 6	伊良波の集落沿い農耕地に目撃
1988	1, 6	上田の西の農耕地に目撃、鳴いて飛翔
1987	12, 23	饒波の河川沿い広葉林から鳴き声
1998	11, 28	饒波の南西河川沿い林で鳴いて飛翔
2002	11, 23	饒波の河川沿い広葉林で鳴き声
2003	10, 4	豊見城団地北東の饒波川沿いで囀り
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴き声
1988	1, 12	金良の南の広葉林から鳴き声
1987	12, 25	宜保の北の広葉林で鳴き声
1998	10, 1	高安の西饒波川沿い雑木林で囀り
1987	12, 23	長嶺小学校西のキビ畑で鳴き声
1998	11, 28	根差部の南の雑木林で鳴き声
1987	12, 18	長嶺中学東の雑木林沿い農耕地を鳴いて飛翔
1998	11, 28	長堂の南の雑木林で鳴き声
1998	11, 28	長堂の北の雑木林で鳴いて飛翔

1990	1, 7	長堂の農耕地で鳴き声	
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側で目撃、囀り	
1987	12, 25	漫湖沿いキビ畑で鳴きながら飛翔	
1987	9, 15	真玉橋の広葉林で囀り	
1987	12, 18	嘉数のキビ畑から鳴き声	
1998	11, 28	製糖工場西の雑木林で鳴き声	
1998	12, 4	真玉橋の東の雑木林で鳴き声	
<i>Horornis diphone restricta</i> ダイトウウグイス			
1999	5, 29	保栄茂の北の雑木林を鳴いて飛翔	
1998	8, 15	高嶺の南の雑木林で囀り	
1998	8, 15	陸上競技場の西の広葉樹で囀り	
1989	8, 6	饒波川沿い雑木林で鳴き声	
<i>Horornis diphone riukuensis</i> リュウキュウウグイス			

琉球諸島 冬鳥 * 7

Family PHYLLOSCOPIDAE ムシクイ科

PHYLLOSCOPUS ムシクイ属

Phylloscopus inornatus キマコムシクイ Yellow-browed Warbler

1999	9, 28	豊見城城跡公園の南の林で目撃	
2002	11, 23	瀬長島の南西の雑木林で鳴き声	
2002	11, 23	饒波の河川沿い広葉林で鳴き声	
1999	10, 14	豊見城城跡公園ので目撃	
2002	12, 14	保栄茂城址の林で鳴き声	
1991	10, 13	渡橋名の北の墓地の樹上に目撃、囀り	
2002	5, 12	とよみ大橋、爬竜橋交差点沿い樹上で鳴き声	

Phylloscopus fuscatus ムジセツカ Dusky Warbler

Phylloscopus fuscatus fuscatus ムジセツカ

2014	~2016	漫湖干潟(冬季)	* 1
2008		漫湖干潟(冬季)	* 1

Phylloscopus xanthodryas メボソムシクイ Japanese Leaf Warbler

1999	3, 24	保栄茂川河口沿い雑木に目撃、囀り	
2000	10, 7	瀬長島の南西側の雑木林に目撃、地鳴き	

Phylloscopus examinandus オオムシクイ Kamchatka Leaf Warbler

2022		漫湖干潟マングローブ林	* 1
------	--	-------------	-----

Phylloscopus borealis コムシクイ Arctic Warbler

2019	9	漫湖干潟マングローブ林	* 1
------	---	-------------	-----

Family ACROCEPHALIDAE ヨシキリ科

ACROCEPHALUS ヨシキリ属

Acrocephalus orientalis オオヨシキリ Great Reed Warbler

1999	2, 6	与根の東の遊水池のアシに目撃	
2000	10, 14	与根の東の遊水池のアシに目撃	
2000	12, 2	高安の饒波川沿いスキで囀り	
2019	5, 5	与根遊水池(三角池)	

Acrocephalus bistrigiceps コヨシキリ Black-browed Reed Warbler

2000	5, 3	与根の東の遊水池のアシに目撃、囀り	
2000	4, 26	与根の東の遊水池沿い雑木に目撃、囀り	

CISTICOLA セツカ属

Cisticola juncidis セツカ

Cisticola juncidis bruniceps セツカ Zitting Cisticola

1988	1, 6	与根海岸沿い草場で鳴き声	
1988	1, 6	翁長の西海岸沿いで囀り	
1999	9, 28	保栄茂の南のキビ畑に目撃	
1989	12, 17	翁長の北の農耕地で鳴き声	
1988	1, 6	与根集落沿い農耕地で鳴きながら飛翔	
1988	1, 6	座安の南西の農耕地を鳴いて飛翔	
1988	2, 22	渡橋名の農耕地沿いで鳴き声	
1998	8, 15	渡嘉敷の集落南で飛んで囀り	
1998	8, 15	高嶺の南の農耕地で囀り	
1988	2, 22	高嶺の部落沿い農耕地で鳴き声	

1988	1, 12	豊見城団地北東の農耕地で囀り
1998	8, 15	瀬長島の西の草地を飛んで囀り
1998	9, 23	与根の東の遊水池のアシに目撃
1988	3, 12	瀬長の農耕地で飛んで囀り
1999	9, 28	与根の東の農耕地で鳴き声
1988	1, 6	伊良波の農耕地に目撃、鳴き声
1998	8, 15	陸上競技場の西で飛んで囀り
1987	12, 23	饒波の河川沿い農耕地で鳴き声
2002	11, 23	饒波の河川沿い草地を鳴いて飛翔
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴いて飛翔
1988	1, 12	金良の南の農耕地から鳴き声
1987	12, 25	宜保の北の農耕地を飛翔
1998	10, 1	高安の西饒波川沿い草地で鳴き声
1987	12, 23	長嶺小学校西のキビ畑で鳴き声
1998	11, 28	長堂の南の住宅沿い農耕地で鳴き声
1990	1, 7	長堂の農耕地で囀り
1987	12, 25	漫湖沿いキビ畑で飛んで囀り
1989	8, 6	饒波川沿い草地で囀り
1998	11, 28	製糖工場西の農耕地沿い草地に目撃
1987	12, 18	真玉橋の東の河川沿い草地で鳴き声
2025		豊崎

Family ZOSTEROPIDAE メジロ科

ZOSTEROPS メジロ属

Zosterops japonicus メジロ

Japanese White-eye

Zosterops japonicus japonicus メジロ

沖縄諸島

本土産亜種*7

Zosterops japonicus loochooensis リュウキュウメジロ

1988	1, 15	翁長の南西海岸沿いを鳴いて飛翔
1988	1, 6	与根の海岸沿いを鳴いて飛翔
1988	1, 6	翁長の西海岸沿い林に目撃、飛翔
1988	3, 1	翁長の集落端の広葉林で囀り
1989	12, 17	翁長の北の混交林を鳴いて飛翔
1999	9, 28	保栄茂の集落を鳴いて飛翔
1989	12, 23	保栄茂の南、農耕地で鳴き声
1988	1, 6	与根の集落で鳴き声
1988	1, 6	座安の南西の雑木林を鳴いて飛翔
1999	9, 28	渡橋名の北、墓地の樹上に目撃、囀り
1988	2, 22	渡橋名の混交林から鳴き声
1999	5, 29	保栄茂の北の雑木林で囀り、飛翔
1999	9, 28	渡嘉敷の西の雑木林に目撃、囀り
1998	8, 15	渡嘉敷の集落南で鳴いて飛翔
1998	8, 15	高嶺の南の広葉林で鳴いて飛翔
1988	2, 22	高嶺の広葉林から鳴き声
1988	1, 12	豊見城団地北東沿い広葉林を飛翔
1987	12, 25	瀬長島の南西側の雑木林で鳴き声
1988	5, 26	瀬長島の西の雑木で囀り
1988	4, 21	瀬長島の北側モクマオウ林を飛翔
1985	9, 15	与根の北海岸沿い樹上に目撃
1988	3, 12	瀬長の農耕地に目撃
1988	1, 6	伊良波の広葉林に目撃、鳴き声、飛翔
1988	1, 6	上田の西の集落広葉樹に目撃、鳴き声
1998	8, 15	陸上競技場西の広葉樹に目撃、飛翔
1987	12, 23	饒波の河川沿い広葉林を鳴いて飛翔
1998	11, 28	饒波の南西の河川沿い林で鳴いて飛翔
2002	11, 23	饒波の河川沿い林で鳴き声
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴き声
1988	1, 12	金良の南の農耕地沿い林から鳴き声
1987	12, 25	宜保の北で目撃、囀り

1989	8, 13	豊見城の東の公園沿いに目撃、囀り	
1987	12, 23	長嶺小学校西の広葉樹に目撃、鳴いて飛翔	
1998	11, 28	根差部の南の雑木林を鳴いて飛翔	
1987	12, 18	長嶺中学校沿い雑木林で鳴いて飛翔	
1998	11, 28	長堂の南の住宅街で鳴き声	
1998	11, 28	長堂の北の雑木林で鳴いて飛翔	
1998	11, 28	南部農林高校の東、雑木林で鳴き声	
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側に目撃、鳴いて飛翔	
1987	12, 25	琉生団地の広葉樹に目撃、鳴いて飛翔	
1989	8, 6	石火矢橋北の河川沿い林で鳴き声	
1999	9, 26	真玉橋の南の民家の柿の実を採餌	
1991	10, 21	豊見城高校前漫湖沿いで鳴き声	
1990	7, 27	真玉橋集落内の広葉樹を鳴いて飛翔	
1987	12, 18	嘉数のキビ畑沿いの広葉林を飛翔	
1998	11, 28	製糖工場西の雑木林で鳴き声	
1998	12, 4	真玉橋の東の雑木林に目撃、鳴いて飛翔	
		Family STURNIDAE ムクドリ科	
SPODIOPSAR ムクドリ属			
		<i>Spodiopsar sericeus</i> ギンムクドリ	Red-billed Starling
1999	12, —	与根の東の遊水池沿い電線に目撃	
2006		漫湖干潟周辺	
2019	11~翌3	漫湖干潟周辺	
		<i>Spodiopsar cineraceus</i> ムクドリ	White-cheeked Starling
2019	2, 25	豊崎	
2019	6, 21	瀬長島	
2019	9, 15	三角池 (50+の群れ)	繁殖か?
AGROPSAR コムクドリ属			
		<i>Agropsar philippensis</i> コムクドリ	Chestnut-cheeked Starling
1985	9, 2	観察記録	
2000	4, 11	豊見城高校南東の電線に目撃	
STURNIA カラムクドリ属			
		<i>Sturnia sinensis</i> カラムクドリ	White-shouldered Starling
1988	10, 7	与根の東の農耕地帯の電線に目撃	
2019	9~翌3	漫湖干潟周辺	
PASTOR バライロムクドリ属			
		<i>Pastor roseus</i> バライロムクドリ	Rosy Starling
2003	3, 30	与根遊水池沿いで観察記録	嵩原ら (2003)
2019	10	漫湖干潟マングローブ林	
STURNUS ホシムクドリ属			
		<i>Sturnus vulgaris</i> ホシムクドリ	Common Starling
		<i>Sturnus vulgaris poltaratskyi</i> ホシムクドリ	
2007		漫湖干潟	* 1
2019	10~翌3	漫湖干潟周辺	
		Family TURDIDAE ツグミ科	
ZOOTHERA トラツグミ属			
		<i>Zoothera aurea</i> トラツグミ	Scaly Thrush
2008		漫湖干潟	* 1
		<i>Turdus obscurus</i> マミチャジナイ	Eye-browed Thrush
1999	3, 6	豊見城城高校北の漫湖沿い樹上に目撃	
2023	2, 16	漫湖干潟	
		<i>Turdus pallidus</i> シロハラ	Pale Thrush
1988	1, 6	与根の海岸沿いを飛翔	
1988	1, 6	翁長の西海岸のモクマオウ林で鳴いて飛翔	
1989	12, 17	翁長の北農耕地で鳴き声	
1989	12, 17	保栄茂の南の農耕地で鳴き声	
1988	1, 6	与根の農耕地に目撃	
1988	1, 6	座安の南西の雑木林で鳴き声	
1988	2, 22	渡橋名の混交林から鳴き声	

2002	11, 23	伊良波中学校南西の林で鳴き声、鳴いて飛翔	
1988	2, 22	高嶺の広葉林を鳴いて飛翔	
1988	1, 12	豊見城団地北東の広葉林で鳴き声	
1987	12, 25	瀬長島の南西側の雑木林で鳴き声	
1987	12, 25	瀬長島の西海岸雑木林から鳴き声	
1988	3, 12	瀬長の農耕地（野菜畑）で鳴いて飛翔	
1988	1, 6	伊良波の集落沿い農耕地に目撃	
1988	1, 6	上田の西の農耕地で鳴いて飛翔	
1987	12, 23	饒波の河川沿い農耕地で鳴いて飛翔	
2002	11, 23	饒波の河川沿いで鳴き声	
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴いて飛翔	
1988	1, 12	金良の南の農耕地で鳴き声	
1987	12, 25	宜保の北の農耕地から鳴き声	
1998	11, 28	石火矢橋の南西の雑木林を鳴いて飛翔	
1987	12, 23	長嶺小学校西の農耕地帯を鳴いて飛翔	
1998	11, 28	根差部の南の雑木林を鳴いて飛翔	
1987	12, 18	長嶺中学東の農耕地を鳴いて飛翔	
1998	11, 28	長堂の北の農耕地に目撃	
1998	11, 28	南部農林高校東の林を鳴いて飛翔	
1998	12, 30	豊見城城跡公園の西側で鳴き声	
1987	12, 25	漫湖沿いきび畑で鳴きながら飛翔	
1999	3, 6	豊見城城跡高校北の漫湖沿い樹上に目撃	
1987	12, 18	嘉敷の農耕地を鳴きながら飛翔	
1998	11, 28	製糖工場西の農耕地を鳴いて飛翔	
1998	12, 4	真玉橋の東の雑木林を鳴いて飛翔	
<i>Turdus chrysolaus</i> アカハラ			Red-bellied (Brown) Thrush
<i>Turdus chrysolaus chrysolaus</i> アカハラ			
1969	2, 7	豊見城農耕地	高良・黒田 (1969)
2000	3, 5	漫湖の西のマングローブ林に目撃	
2002	11, 23	高安の南の饒波川沿い道路に目を撃	
<i>Turdus naumanni eunomus</i>		ツグミ	Dusky Thrush
1999	1, 31	饒波の北東の農耕地に目撃	
1998	12, 01	金良の北の南の草地に目撃	
Family MUSCICAPIDAE ヒタキ科			
MUSCICAPA サメビタキ属			
<i>Muscicapa griseisticta</i> エゾビタキ			Grey-spotted Flycatcher
1999	10, 13	豊見城城跡公園の南の林で目撃	
2014	秋季	漫湖干潟	* 1
<i>Muscicapa dauurica</i> コサメビタキ			Brown Flycatcher
<i>Muscicapa dauurica dauurica</i> コサメビタキ			
1999	10, 13	豊見城城跡公園の南の林で目撃	
CYANOPTILA オオルリ属			
<i>Cyanoptila cyanomelana</i> オオルリ			Blue-and-white Flycatcher
<i>Cyanoptila cyanomelana cyanomelana</i> オオルリ			
1991	10, 13	豊見城城跡公園で目撃	
1999	10, 13	豊見城城跡公園の南の林で目撃	
CALLIOPE ノゴマ属			
<i>Calliope calliope</i> ノゴマ			Siberian Rubythroat
1989	12, 17	翁長の北の雑木林から鳴き声	
2002	11, 23	伊良波中学校南西の農耕地で鳴き声	
1989	12, 23	瀬長島の雑木林から鳴き声	
1987	12, 25	瀬長の雑木林から鳴き声	
2002	12, 14	与根の東の遊水池のアシで鳴き声	
2002	11, 23	伊良波中学校の南の広葉林で鳴き声	
1987	12, 23	饒波の河川沿いで鳴き声	
2002	11, 23	饒波の河川沿い林で鳴き声	
1987	12, 23	長嶺小学西の農耕地で鳴き声	
1987	12, 18	長嶺中の雑木林から鳴き声	

1998	11, 28	南部農林高校の東河川沿いで鳴き声	
2004	1, 23	真玉橋の住宅街の雑木林で鳴き声	
FICEDULA キビタキ属			
		<i>Ficedula mugimaki</i> ムギマキ	Mugimaki Flycatcher
1999	12, ー	豊見城城跡公園の南の林で目撃	
TARSIGER ルリビタキ属			
		<i>Tarsiger cyanurus</i> ルリビタキ	Red-flanked Bluetail
2002	11, 3	与根の東の遊水池沿いに♀タイプを目撃	
1998	12, 30	豊見城の城跡公園沿いでも♂を目撃	
PHOENICURUS ジョウビタキ属			
		<i>Phoenicurus aureoreus</i> ジョウビタキ	Daurian Redstart
		<i>Phoenicurus aureoreus aureoreus</i> ジョウビタキ	
2014	冬季	漫湖干潟	
2023	11	漫湖干潟	
MONTICOLA イソヒヨドリ属			
		<i>Monticola solitarius</i> イソヒヨドリ	Blue Rock Thrush
		<i>Monticola solitarius philippensis</i> イソヒヨドリ	
1999	9, 28	保栄茂の南農耕地を鳴いて飛翔	
1988	3, 1	翁長の農耕地で囀りが聞こえた	
1999	9, 28	保栄茂の広場沿いで番いを目撃	
1988	1, 6	与根の農耕地で♀を目撃	
1999	9, 28	渡橋名の北の農耕地に♀を目撃	
1988	2, 22	渡橋名の農耕地で姿、囀り	
1999	9, 28	渡嘉敷の西タンク沿いに♀を目撃	
1998	8, 15	渡嘉敷の集落南で♂を目撃、囀り	
1998	8, 15	高嶺の南の道路沿いを飛んで囀り	
1998	8, 15	瀬長島の西海岸沿いに目撃、飛翔	
1988	1, 6	伊良波の集落で♀を目撃	
1998	11, 22	名嘉地の西の農耕地に♂を目撃	
1988	1, 6	上田の集落沿い農耕地で♀を目撃	
1998	8, 15	陸上競技場の西の施設で囀り	
2002	11, 23	饒波の河川沿いに♂を目撃	
1987	12, 25	宜保の北の住宅街で♀を目撃	
1999	10, 13	豊見城城跡公園南の林の樹上に目撃	
1998	11, 28	長堂の南の民家の屋根で♂が囀り	
1998	11, 28	南部農林高校東の畑のハウスの屋根に目撃	
1989	8, 6	漫湖沿いで囀り	
1988	3, 18	漫湖沿いで飛翔	
1998	11, 28	製糖工場の施設の西に♀を目撃	
1998	12, 4	真玉橋の東側農耕地を♂が飛翔	
SAXICOLA ノビタキ属			
		<i>Saxicola stejnegeri</i> ノビタキ	Stonechat
2001	4, 15	豊崎の埋立地に目撃	
Family PASSERIDAE スズメ科			
PASSER スズメ属			
		<i>Passer montanus</i> スズメ	Tree Sparrow
		<i>Passer montanus saturatus</i> スズメ	
1989	12, 23	翁長の西海岸沿いで目撃、声、飛翔	
1988	1, 6	与根の海岸沿いに目撃	
1988	1, 6	翁長の西海岸沿い農耕地に目撃	
1999	9, 28	保栄茂の南の農耕地を鳴いて飛翔	
1988	3, 1	翁長の集落で目撃	
1999	9, 28	保栄茂の民家の柿木に群れ	
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声	
1988	1, 6	与根集落沿い農耕地に群れていた	
1988	1, 6	座安の南西の農耕地に目撃	
1999	9, 28	渡橋名の北、墓地沿いを鳴いて飛翔	
1988	2, 22	渡橋名の豚舎に群れていた	

2002	11, 23	伊良波中学校南西の農耕地で鳴き声
1998	8, 15	渡嘉敷の集落南に目撃、鳴いて飛翔
1998	8, 15	高嶺の南の広葉林で鳴き声
1988	2, 22	高嶺の広葉林で鳴き声
1988	1, 12	豊見城団地北東の集落で鳴き声
1987	4, 21	瀬長島で電柱に止まっていた
1987	12, 25	瀬長の広葉林で鳴き声
1998	4, 26	与根の北の遊水池沿いで目撃
1988	3, 12	瀬長の農耕地に目撃、飛翔
1988	1, 6	伊良波の集落、農耕地に目撃、飛翔
1988	1, 6	上田の西の集落、農耕地に目撃、飛翔
1998	8, 15	陸上競技場の西の広葉樹に目撃、飛翔
1989	12, 23	饒波の河川沿い農耕地に目撃
1988	1, 12	金良の南の農耕地に目撃、飛翔
2002	12, 1	金良の東の農耕地沿い電線に目撃
1987	12, 25	宜保の北の住宅街で鳴き声
1989	8, 13	豊見城の東の公園沿いを鳴いて飛翔
1987	12, 23	饒波の北の農耕地帯に目撃、飛翔
1998	11, 28	長堂の南の住宅街で鳴いて飛翔
1998	11, 28	長堂の北の雑木林で鳴いて飛翔
1998	11, 28	南部農林高校の東の畑に目撃、飛翔
1987	12, 25	漫湖沿い農耕地に目撃、鳴き声、飛翔
1990	7, 27	嘉敷の北東で鳴いて飛翔
1999	9, 26	真玉橋の南の住宅街の電線に目撃
1991	3, 17	漫湖干潟に小群れを目撃
1990	7, 27	真玉橋集落内の広葉樹を鳴いて飛翔
1998	11, 28	製糖工場西の雑木林に目撃、飛翔
1987	12, 18	嘉敷の北河川沿い豚舎に群れ

Family MOTACILLIDAE セキレイ科

MOTACILLA セキレイ属

Motacilla tschutschensis ツメナガセキレイ Yellow Wagtail

Motacilla tschutschensis tschutschensis マミジロツメナガセキレイ

1999	9, 10	与根の東の遊水池に目撃
2002	11, 23	饒波の河川敷きに目撃

Motacilla tschutschensis taivana ツメナガセキレイ

1999	9, 28	保栄茂の南農耕地を鳴いて飛翔
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声
1999	9, 28	与根の東の農耕地で鳴き声
1999	9, 12	真玉橋の住宅地を鳴いて飛翔
2019	9, 15	三角池近く (20+)

Motacilla citreola キガシラセキレイ Citrine Wagtail

Motacilla citreola citreola キガシラセキレイ

2002	4	与根の遊水地 (三角池)	嵩原ら (2003)
2002	5, 1	与根の東の遊水池に目撃	

Motacilla cinerea キセキレイ Grey Wagtail

Motacilla cinerea cinerea キセキレイ

1989	12, 23	翁長の西海岸の干潟で目撃
1988	1, 14	翁長の西海岸の干潟を鳴いて飛翔
1999	9, 28	保栄茂の南農耕地で鳴き声
1999	9, 28	保栄茂の広場で鳴き声
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴いて飛翔
1988	1, 6	座安の水路沿い農耕地で目撃
1988	2, 22	渡橋名の農耕地で姿、鳴いて飛翔
1998	9, 23	与根の東の遊水池に目撃
1988	1, 6	上田の東の農耕地で鳴いて飛翔
1987	12, 23	饒波の南の農耕地で鳴いて飛翔
1998	11, 28	饒波の南西河川に目撃、鳴いて飛翔
2002	11, 23	饒波の河川敷きに目撃、鳴いて飛翔

1998	10, 1	高安の西饒波川沿いで鳴き声
1987	12, 23	長嶺小学西の農耕地で鳴き声
1998	11, 28	根差部の南の雑木林を鳴いて飛翔
1998	11, 28	長堂の南の農耕地上空を鳴いて飛翔
1998	11, 28	南部農林高校沿い水路で鳴いて飛翔
1998	11, 28	南部農林高校の東農耕地で鳴き声
1987	8, 20	真玉橋集落上空で鳴き声
1998	11, 28	製糖工場西の池沿いに目撃、鳴き声

Motacilla alba ハクセキレイ

White Wagtail

Motacilla alba lugens ハクセキレイ

1969	2, 7	豊見城農耕地	高良・黒田 (1969)
1989	1, 15	翁長の海岸で姿を目撃	
1989	12, 23	翁長の西海岸の干潟で目撃	
1988	1, 6	与根の南海岸で姿を目撃	
1999	9, 28	保栄茂の南農耕地に目撃	
1987	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声	
1988	1, 6	与根海岸で、姿を目撃	
1988	1, 6	座安の水路沿い農耕地で、姿を目撃	
1988	2, 22	渡橋名の農耕地帯で飛んで囀り	
2002	11, 23	伊良波中学校南西の農耕地で鳴いて飛翔	
1988	1, 12	豊見城団地北の農耕地を鳴いて飛翔	
1988	4, 3	瀬長島の海岸干潟で♀を目撃	
1987	12, 25	瀬長の海岸沿い草原地で鳴いて飛翔	
1988	1, 6	伊良波の農耕地で鳴き声、姿を目撃	
1988	1, 6	上田の東の集落近い農耕地で目撃	
1999	10, 14	高安の饒波川を鳴いて飛翔	
1987	12, 23	饒波の南の河川沿いで鳴いて飛翔	
2002	11, 23	饒波の河川敷きに番を目撃	
1998	11, 28	饒波の南西河川沿い林で鳴いて飛翔	
1988	1, 12	金良の南の農耕地帯で鳴き声	
1987	12, 25	宜保の北の宅地造成地で飛翔	
1995	1, 15	高安の西饒波川で目撃	
1987	12, 23	長嶺小学西の農耕地で姿、飛翔	
1987	12, 18	長堂の西の農耕地で鳴いて飛翔	
1998	11, 28	長堂の南の農耕地上空を鳴いて飛翔	
1998	11, 28	長堂の北の農耕地で鳴き声	
1998	10, 1	高安の西饒波川沿いで鳴き声	
1988	3, 18	真玉橋の河川沿いで姿を目撃	
1998	11, 28	製糖工場西の路上に目撃、囀り	
1987	12, 18	嘉敷の北の河川沿いで鳴いて飛翔	

ANTHUS タヒバリ属

Anthus hodgsoni ビンズイ

Olive-backed Pipit

Anthus hodgsoni hodgsoni ビンズイ

1988	1, 12	豊見城団地北の広葉林で姿を目撃	
<i>Anthus cervinus</i> ムネアカタヒバリ			
Red-throated Pipit			
1969	2, 7	豊見城農耕地	高良・黒田 (1969)
2001	3, 11	与根の東遊水池沿い農耕地に目撃	
1988	3, 12	瀬長の農耕地帯で鳴き声	
1999	9, 28	与根の東の農耕地で鳴いて飛翔	
1988	1, 6	伊良波の農耕地で鳴きながら飛翔	
1998	11, 22	名嘉地の西の農耕地に目撃	
2008	2, 12	豊崎	
2011	3, 17	豊崎	

Anthus rubescens タヒバリ

Water pipit

Anthus rubescens japonicus タヒバリ

2013	4, 10	豊崎	
------	-------	----	--

Family FRINGILLIDAE アトリ科

FRINGILLA アトリ属

		<i>Fringilla montifringilla</i> アトリ	Brambling	
2014	冬季	漫湖干潟		* 1
SPINUS マヒワ属				
CARPODACUS オオマシコ属				
		<i>Carpodacus roseus</i> オオマシコ	Pallas's Rosefinch	
		<i>Carpodacus roseus portenkoi</i> オオマシコ		
1999	11, 6	豊見城城跡公園の南の林の樹上に目撃		
		<i>Spinus spinus</i> マヒワ	Eurasian Siskin	
2017	冬季	漫湖干潟		* 1
		Family EMBERIZIDAE ホオジロ科		
EMBERIZA ホオジロ属				
		<i>Emberiza rustica</i> カシラダカ	Rustick Bunting	
		<i>Emberiza rustica latifascia</i> カシラダカ		
1981	10, 25-12, 8	与根		* 3
		<i>Emberiza elegans</i> ミヤマホオジロ	Yellow-throated Bunting	
		<i>Emberiza elegans elegans</i> ミヤマホオジロ		
2008		漫湖干潟		
		<i>Emberiza personata</i> アオジ	Black-faced Bunting	
1988	1, 6	与根の海岸沿い草地で鳴き声		
1988	1, 6	翁長の西、農耕地で鳴き声		
1989	12, 17	翁長の北の雑木林から鳴き声		
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で鳴き声		
1988	2, 22	高嶺の広葉林から鳴き声		
1988	1, 12	豊見城団地北東の広葉林から鳴き声		
1987	12, 25	瀬長島西の海岸沿い雑木林で鳴き声		
2002	12, 14	与根の東の遊水池沿い雑木に目撃、囀り		
1987	12, 23	饒波の広葉林から鳴き声		
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴き声		
1988	1, 12	金良の南の広葉林から鳴き声		
1987	12, 25	宜保の北の広葉林から鳴き声		
1987	12, 23	長嶺小学校西のキビ畑で鳴き声		
1998	11, 28	根差部の南の雑木林で鳴き声		
1987	12, 18	長嶺中学校沿い雑木林で鳴き声		
1998	11, 28	南部農林高校南東の雑木林で鳴き声		
		<i>Emberiza pallasi</i> シベリアジュリン	Pallas's Reed Bunting	
		<i>Emberiza pallasi polaris</i> シベリアジュリン		
2022	1	三角池		(山城正邦私信)
		<i>Emberiza schoeniclus</i> オオジュリン	Common Reed Bunting	
		<i>Emberiza schoeniclus pyrrhulina</i> オオジュリン		
1978	3	瀬長島		* 2
1981	10, 25	与根		* 2

<外来種目録>

Family COLUMBIDAE ハト科

COLUMBA カワラバト属				
		<i>Columba livia</i> カワラバト (ドバト)	Rock Dove	
1988	1, 6	座安の農耕地で姿を目撃		
1988	1, 6	伊良波の集落で上空を飛翔		
1989	11, 28	長堂の南の住宅沿い農耕地を飛翔		
1998	3, 18	漫湖干潟で飛んでいるのを目撃		
1987	12, 18	嘉数の北の豚舎で姿を目撃		

Order PASSERIFORMES スズメ目

Family PYCNONOTIDAE ヒヨドリ科

PYCNONOTUS シロガシラ属				
		<i>Pycnonotus sinensis</i> シロガシラ	Light-vented Bulbul (Chinese)	
		<i>Pycnonotus sinensis</i> ssp. 亜種不明		
1988	1, 6	翁長の西海岸の林で姿を目撃		

1999	9, 28	保栄茂の南農耕地を鳴いて飛翔
1989	12, 17	翁長の北の混交林で鳴きながら飛翔
1999	9, 28	保栄茂の集落で目撃、囀り
1989	12, 23	保栄茂の南の農耕地で囀り
1988	1, 6	与根集落端のトマト畑に群れ
1988	1, 6	座安の南西の農耕地で鳴いて飛翔
1999	9, 28	渡橋名の北の墓地の樹上で囀り
1988	2, 22	渡橋名の混交林で目撃、囀り
1999	5, 29	保栄茂の北の雑木林を鳴いて飛翔
1999	9, 28	渡嘉敷の西の雑木林に目撃、囀り
1998	8, 15	渡嘉敷の集落南で目撃、鳴いて飛翔
1998	8, 15	高嶺の南の広葉林で声、囀り
1988	2, 22	高嶺の広葉林で鳴きながら飛翔
1988	1, 12	豊見城団地北東の農耕地で少群
1987	12, 25	瀬長島南東の雑木林で鳴き声
1987	5, 26	瀬長島西頂上広葉林で姿、飛翔
1988	4, 21	瀬長島海岸のユーナの木で囀り
1988	3, 12	瀬長の農耕地（野菜畑）で姿、囀り
1985	9, 15	与根の北の海岸沿いで目撃、飛翔
1987	12, 25	瀬長の雑木林で止まって、囀り
1988	1, 6	伊良波の農耕地で鳴きながら飛翔
1988	1, 6	上田の西の農耕地で少群を目撃
1998	8, 15	陸上競技場の西を鳴いて飛翔
1987	12, 23	饒波の河川沿い農耕地で飛翔
1998	11, 28	饒波の南西の河川沿い林で鳴き声
2002	11, 23	饒波の河川沿い草地に目撃
1989	12, 17	金良の南の農耕地で鳴いて飛翔
1988	1, 12	金良の南の農耕地沿い広葉林で声
1987	12, 25	宜保の広葉林から鳴き声
1989	8, 13	豊見城の東の公園沿いで囀り
1987	12, 23	長嶺小学西の農耕地で鳴いて飛翔
1998	11, 28	根差部の南の林で姿、鳴いて飛翔
1989	12, 18	長嶺中の東の雑木林で囀り、飛翔
1998	11, 28	長堂の南の住宅沿い電線に姿、飛翔
1998	11, 28	長堂の北の雑木林に目撃、囀り
1990	1, 7	長堂の農耕地で鳴き声
1987	12, 25	漫湖沿い農耕地で、鳴き声
1989	7, 23	饒波川沿いの林で鳴いて飛翔
1999	9, 26	真玉橋の南の民家の柿の木に目撃
1991	10, 21	漫湖干潟沿いで鳴き声
1990	7, 27	真玉橋の木の多い集落で声、飛翔
1990	7, 27	嘉敷のキビ畑、ギンネム林で姿、声
1998	11, 28	製糖工場西の雑木林で鳴いて飛翔
1998	12, 4	真玉橋の東雑木林を鳴いて飛翔

Family ESTRILDIDAE カエデチョウ科

LONCHURA キンバラ属

Lonchura punctulata シマキンバラ

Nutueg Mannikin

別名:アミハラ

Lonchura punctulata topela シマキンバラ

1989	12, 17	翁長の北の農耕地に目撃
1998	11, 22	渡橋名の南、農耕地沿いで鳴いて飛翔
1999	9, 28	渡嘉敷の西タンク沿い電線に目撃
1988	1, 12	豊見城団地北、農耕地に目撃
1998	4, 26	与根の東の遊水池沿いに目撃
1988	1, 6	上田の西の農耕地沿い草地に目撃
1987	12, 23	饒波の河川沿い農耕地に目撃、飛翔
1989	12, 17	金良の南の農耕地に目撃
2002	12, 1	金良の東の農耕地沿い電線に目撃
1987	12, 25	宜保の北の農耕地を鳴いて飛翔

1999	10, 13	豊見城城跡公園の南の林を鳴いて飛翔	
1998	10, 1	高安の西の饒波川沿い草地に目撃、飛翔	
1987	12, 15	長嶺小学校西の広葉樹に巣や群れを目撃	
1998	11, 28	長堂の南の住宅街で鳴き声	
1998	11, 28	長堂の北の雑木林に目撃、飛翔	
1998	11, 28	製糖工場西の雑木林に目撃	
	<i>Lonchura malacca</i> ギンパラ		Chestnut Mannikin
1988	3, 12	瀬長の農耕地でキンパラの群れの中	
	<i>Lonchura atricapilla</i> キンパラ		Black-headed Munia
	<i>Lonchura atricapilla</i> ssp. 亜種不明		
1999	9, 28	保栄茂の南の農耕地に目撃	
1988	1, 6	与根集落沿い農耕地に目撃	
1998	1, 6	座安の農耕地で鳴き声	
1988	3, 12	瀬長の農耕地で群れ	
	<i>Lonchura maja</i> ヘキチヨウ		White-headed Munia
1988	3, 12	瀬長の農耕地でキンパラの群れの中に目撃	

令和7年度「とみぐすく写真アーカイブ」古写真トークイベント実施記録

—地域資料の情報収集における有効な手法の検討—

久貝 祐子 ・ 田辺 可奈

はじめに

豊見城市教育委員会文化課(以下文化課)では、デジタル博物館事業の一環として、地域の歩んだ歴史や風景、思い出を地域で共有することを目的に、市内の自治会ごとに地域写真集『とみぐすく写真アーカイブ』を作成している。現在までに 34 自治会、34 冊の写真集を発刊し、今後は市内の全 48 自治会の写真集作成を目指している。今年度は、その活動の一環として、北分譲、県営上田団地、エコシティとはしなの 3 自治会の写真集を発刊する予定である。

写真集発刊にあたり、文化課や他部署、関係諸機関の所蔵する写真資料を収集・調査するとともに、自治会の協力のもと、自治会や住民の方の所蔵する地域の写真やそれに関わる資料の収集・調査を行った。またこれらをデジタル化し、地域に眠る資料の掘り起こしと保存に努めている。収集した資料については、自治会の方からの聞き取りや、『広報とみぐすく』などの広報誌、WEB、新聞記事や各種地図等を利用して、調査を進めている。

文化課では、より充実した写真集を作成するため、当該自治会に協力していただき、2 つの方法で資料についての情報収集を行っている。1 つ目はパンフレットを利用する方法である。写真集に使用したい写真や詳細が不明の写真を「パンフレット」にまとめ、当該自治会の自治会員に配布、情報を書き込んでいただいたものを回収する。2 つ目は「古写真トークイベント(以降 トークイベント)」である。パンフレットを利用する方法かトークイベントか、自治会と相談の上実施している。トークイベントは、集会所などで古い写真をスライドで自治会員の皆様に見ていただき、写真に関わる情報や思い出などを語り合うことで、記憶の共有と、写真集作成のための情報収集を図るものである。コロナ禍が明けたばかりということもあり、昨年度はパンフレットを選ぶ自治会もあったが、今年度は全 3 自治会でトークイベントを実施した。トークイベントは、過去の事業で実施経験はあるものの、本事業においては令和 6 年度から始まった新たな試みで、今年度が 2 年目となる。本稿では、今年度の実施内容を振り返り、地域資料の情報収集の一方法として本イベントを紹介し、今後の課題について検討する。

1. 「古写真トークイベント」の概要

1-1. 実施目的

トークイベントは、自治会の方と古い写真を見ながら、写真に関わる情報や思い出などを語り合う場として開催する。会場であがった思い出話や、写真に関する情報は、より充実した写真集を目指すため、写真集作成に活用する。写真集作成の他に、収集できた情報は地域資料を補完する貴重な情報として記録される。

1-2. スケジュール

今年度の写真集作成スケジュールは、文化課やその他諸機関の資料調査を実施しつつ、5~6 月に自治会に挨拶を行い、写真集作成の同意を得た後、自治会や個人所蔵の資料収集・調査を開始。写真集の編集作業を

しつつ、トークイベント前に各自治会の協力の下、事前調査を実施、11月にトークイベントを実施した。各3自治会の実施日時は以下の通りである(実施順に記載)。

また、トークイベントのチラシを作成、イベント1か月前の10月初めに自治会にお渡し、自治会内への配布をお願いした。チラシについては、全戸配布を希望する自治会、自治会内への案内として貼付用だけを希望する自治会など、自治会により違いが見られた。

自治会名	事前ヒアリング	トークイベント
エコシティとはしな	9月18日(木)14:00～	11月8日(土)18:00～
県営上田団地	10月14日(火)10:00～	11月18日(火)14:00～
北分譲	11月14日(金)17:00～	11月20日(木)19:00～

1-3. 実施方法

トークイベント実施にあたっては、業務委託の株式会社 Nansei の協力を得た。

役割としては、株式会社 Nansei が全体の統括と、写真の選択やスライドの作成、イベントの運営を中心となって実施、文化課は写真の選択や、自治会との連絡・調整、イベント運営補助を担当した。

トークイベント実施の1か月前を目安に、予備調査として自治会へのヒアリングを実施する。この時に、トークイベントに出す予定の写真や詳細不明の写真などを自治会役員や昔の自治会をよく知っている人に見てもらい、基礎的な情報収集を行う。

予備調査をもとに、文化課と協同して、株式会社 Nansei がトークイベントのスライドをブラッシュアップする。トークイベント当日は、株式会社 Nansei が音響や進行を担当し、文化課は運営の補助を行う。次に、各自治会のトークイベントを実施順に振り返る。

2. 各自治会の「古写真トークイベント」振り返り

2-1. エコシティとはしな

エコシティとはしなは、沖縄県住宅供給公社により環境共生住宅をテーマに作られた新興住宅地である。エコシティとはしな自治会は平成10(1998)年4月に発足し、継続的な清掃活動や、秋祭りなどのイベントが実施され、シニアクラブや子ども会青年会(友遊倶楽部)などの自治会内の団体も精力的に活動している。

トークイベントのための予備調査は、9月18日木曜日、自治会で会議が行われる前の時間を利用して実施した。10月、11月は自治会の秋祭りや大清掃があるため、予備調査の実施目安である本番の約1か月前より早めのタイミングで自治会と調整し、予備調査を行った。自治会長はじめ役員の方々、シニアクラブ会員の方10名ほどにご参加いただいた。

トークイベント当日は、自治会役員やシニアクラブ、歴代自治会長の方などにもご出席いただけた。歴代自治会長には、自治会と相談の上、チラシの他に案内状をお渡ししていた。



写真1 エコシティとはしな トークイベント

予備調査、トークイベント当日を通して、エコシティとはしな に居住するきっかけや、せせらぎ公園の改修工事、野球チームから友遊倶楽部結成への流れなど、貴重なお話を聞くことができた。全体を通して、住民同士のつながりを大切にしつつ、地域をより良くしていこうという意識の強さが感じられた。

いくつか反省する点としては、1 つには、詳細不明な写真についての情報を集めることに重点を置いてしまい、自治会の方に写真集の構成に不安を抱かせてしまった点である。これについては、業務委託先とも連携を取り、詳細不明な写真を入れつつ、写真集全体の流れをスライドで示すべきだったと考える。

2 つには、写真の年代が問題となった時に、依拠する資料をすぐに提示できなかったことである。後述するが簡単な年表のような基礎資料を準備する必要があったと思う。

なお、トークイベント後に、貴重な写真の提供やエピソードを聞くことができ、同様なことは他自治会でもみられた。トークイベントの実施により 自治会と文化課との信頼関係が醸成されたこと、具体的な写真の提示ができたことで住民の方に写真集への理解を深めていただけたことが大きいように思われる。

2-2. 県営上田団地

県営上田団地は、マンションのような外観を持つ現代的な集合住宅である。昭和 49(1974)年に完成し、昭和 50(1975)年から入居が開始された。現在の住宅は建て替えられたもので、平成 22(2010)年に工事が完了している。県営上田団地がある県道 256 号線沿いは、市役所や学校、商業施設が多くあり、また、付近を通るバスの種類も多く、豊見城の中心地ともいえる場所に立地している。

トークイベントには、予備調査と当日を通して、ミニデイに参加している住民の方に多く参加いただいた。自治会長以外の参加者は全員女性であった。建替え前の団地の思い出や周辺地域の移り変わり、県営上田団地を選んだ理由など貴重なお話を聞くことができた。

これまで文化課では 34 の自治会の写真集を作成してきたが、戸建てではない団地ははじめてであり、これまでの自治会にない難しさがあった。

トークイベントにて、この居住地を選んだ理由は交通アクセスの良さや家賃など実利的な面が大きいことが分かった。また、住民の流動性も高いため、一連の歴史を語る住民が少ない傾向にある。このことから、昔からある字の住民や、選んで居を構えた新興住宅地の住民と比べ、地域の歴史への関心は限定的であるように感じられた。一方で、行動の実感が伴う現在につながる事象には高い関心が示された。



写真2 県営上田団地トークイベント

2-3. 北分譲

北分譲は豊見城団地の北側にあることから名前がついた戸建て分譲地である。北分譲自治会は昭和 47(1972)年に結成された、歴史ある自治会である。

トークイベントには予備調査と当日を通して、自治会長をはじめ役員、シニアクラブの方を中心に、婦人会の方々にもご出席いただいた。住宅を購入するときのエピソードや、ハブが出



写真3 北分譲トークイベント

た時のお話、周辺地域の移り変わりについてなど、興味深いお話が活発に交わされた。

県営上田団地と違い、分譲地ができた頃や、周辺地域そのものに対する興味が強いように感じた。ここが新興の分譲地であり、自分で選んで住んだという意識からくる興味かもしれない。

なお、調整上の都合により、エコシティとはしな、県営上田団地と違い、予備調査に十分な時間をとることができなかった。2 自治会ではそれぞれ 30 点ほどの写真を見ていただいたが、北分譲では 6 枚ほどの写真にとどまった。詳しくは後述するが、予備調査とトークイベントの内容が重複してしまう問題について、結果的に北分譲ではこの問題が回避できたといえる。

おわりに—成果と今後の課題—

「古写真トークイベント」実施の成果としては、地域の歴史についての貴重な証言や情報が得られたことがあげられる。さらに、今回のトークイベントを通して、自治会の方々に対し写真集刊行の意義を広く周知することができたことで、自治会との信頼関係が構築され、実施後に貴重な写真資料の提供や情報収集が進展したことがあげられる。また、会場において住民同士が「懐かしい思い出」を共有し地域のアイデンティティを再確認できるような場を提供できたことは、資料や情報の収集に留まらない成果であったと考える。

一方で、いくつか反省点や課題もあげられる。

1 つ目は、実施時期の再検討である。イベント後に資料提供が活性化するという現況に鑑み、実施時期を前倒した方が事業の進捗が図られるのではないかと考える。今年度は 11 月に実施したが、8 月や 9 月などに繰り上げることで、イベントを「周知と収集の起点」として位置づけ、編集作業に充てる期間を十分に確保するとともに、より豊富な資料から、地域の歴史や特徴を示す資料を選択し得るようになることで内容の充実も図られるのではないだろうか。また、自治会の行事も秋に集中することが多く、自治会とのスケジュール調整もより円滑になるように思われる。さらに、もし夏休み期間中に充てることができれば、小中学生などの若年層やその保護者も出席しやすくなり、地域の思い出や歴史を次世代に継承する場としての機能が向上できる。

2 つ目は、補助資料の必要性である。運営側と参加者の双方が地域の歩みを共有できるよう、簡潔な歴史年表等の必要性を感じた。補助資料の導入は、写真の年代特定の精度を高めるだけでなく、参加者の記憶を呼び起こすきっかけとして機能することが期待できるのではないだろうか。

3 つ目は、予備調査と本イベントの役割分担が曖昧になってしまった点である。予備調査については、基礎的な調査のため数人の出席者を想定しているが、今年度は自治会の協力があり、3 地域とも多くの自治会員に集まっていた。そのおかげで貴重なお話を予備調査の段階から聞くことができた半面、本番の参加者の多くが重複してしまい、特にエコシティとはしなと県営上田団地の両自治会は提示資料の多くも予備調査と重複していたことから、両者の差異が曖昧となってしまった。今後は予備調査への出席人数の調整を十分に行うことが第一にあげられるが、その上で予備調査に多くの自治会員の方に参加いただいた場合には、本番のスライドに予備調査とは異なる写真を準備する、または地域の歴史を時系列に沿って再構成したスライドとするなどの対策をする必要があると感じた。

「古写真トークイベント」はいくつか課題も散見されるが、それ以上に地域コミュニティの深化と資料発掘において多大な恩恵をもたらしている。写真集作成のための調査という面と住民と行政の交流イベントとしての面を両立させることの難しさも感じたが、今後も様々な団体と協力し、地域の記憶を次世代へ継承する本事業を継続的に発展させることを目指していきたい。

デジタル博物館事業の戦前集落復元について

工藤 紗也香

はじめに

豊見城市教育委員会文化課(以下、文化課)では、令和 2 年度から沖縄振興特別推進市町村交付金(一括交付金)を活用し、デジタル博物館事業¹を実施している。その中の一つに、歴史デジタルマップ・文化財 3D 作成業務の一部として戦前集落の 3D 復元作業を行っている。

令和 4 年度からは戦前集落についての聞き取り調査を行い、戦前からの集落 23 字のうち 6 字、当時の豊見城村にあった国民学校 2 校の聞き取り調査を終えた²。令和 7 年度で事業開始から 4 年が経過し、折り返し地点に差し掛かった。

そのため、本稿では本調査の概要や調査方法などを振り返り、今後の課題を再考することを目的とする。

1、デジタル博物館事業の概要

デジタル博物館事業は、令和 2 年度から 11 年度までの事業期間を計画している。文化課で収集・所蔵している膨大な資料を整理・デジタル化し、「とみぐすくデジタルアーカイブ」として公開することによって、いつでも誰でも、どこでも豊見城の歴史や文化などの魅力に触れることが出来る。多くの資料を公開し、教育現場や観光、産業の場でも活用することで、豊見城市の魅力の発信や、地域振興につなげることを目的とする。

令和 2 年度・3 年度のおもな業務内容は、文化課で所蔵する博物館資料や地域資料のデジタル化、23 字の地域写真集の作成と発刊、民話音声公開資料作成、委託事業者による企画提案業務などである。

令和 4 年度からは新たに、戦前の集落 3D 復元も加わった。沖縄戦以前の風景はもちろん、各地域の写真についてもほとんどなく、戦前の集落風景や日常生活などは、戦前生まれの方々の記憶にしか残っていない。そこで、戦前生まれの方々にお話しを聞き、3D 復元におとしこんだ。これを使って戦前の生活を知ること、沖縄戦で失われた日常生活や風景を知ることができる。どの世代にも、戦前から現在までの歴史を知ってもらうことで、世代間のコミュニケーションを図ることができ、地域への愛着も増すことが期待できる。

また、戦前から戦後までの豊見城村の経過をデジタルマップで再現し、平和教育などにつなげるねらいもある。今年度は、デジタルマップも反映された沖縄戦平和学習用 VR コンテンツ「時空記者」³を学校側に提供し、平和学習の時間に利用してもらうことができた。

2、調査前から調査後の流れ

2-1 調査前

調査地域の景観や家屋の外観、そして調査地域の歴史や祭祀などを知るために、空中写真や古写真、文献文化課所蔵資料などを確認する。空中写真は、沖縄県公文書館で収集したものや、国土地理院のウェブサイトから入手したもの、米国国立公文書館所蔵の空中写真を確認する。また、古写真は文化課の所蔵資料を確認する。文献は、文化課の刊行物である『豊見城村史 第 6 巻 戦争編』⁴(以下、戦争編)と『豊見城市史 第 2 巻 民俗編』⁵(以下、民俗編)、そしてこの 2 冊を刊行する際の収集資料や調査資料である。また、文化課へ寄贈していただいた個人の戦争体験記や字誌などの自治会資料、広報紙、新聞なども活用した。

調査が始まる前に、対象地域の屋号地図や空中写真などの基礎的なデータを委託事業者に提出する。屋号

に番号を振り、集落全体の戸数を明らかにする。その後、調査が進むにつれて番号ごとに調査内容をまとめ委託事業者へデータを提出していく。

屋号地図は『民俗編』に直近の調査内容が反映されているが、この調査も約 20 年前に実施されており、今回の調査の話者と異なる場合が多い。

そのため、本調査の初回は『民俗編』の屋号地図を確認する。その後、屋号の確認、家屋の位置、空き家の有無、敷地内に同居する別家庭がいなかったかなど調査地の全戸数を明らかにし、最新の情報が反映された屋号地図を作成する。

2-2 調査

自治会や話者への挨拶を終えると、調査が始まる。調査場所は公民館を使用することもあるため、調査概要の説明、場所の提供などの相談を自治会長や役員に行う。場合によっては話者のご自宅でも調査を行うため、ご家族が同居されている場合は、そのご家族にも了承を得てから調査に入る。

文化課で行う調査は、聞き取り調査と現地調査の 2 つである。

聞き取り調査では、調査地域全戸数の詳細と集落景観について調査する。また、集落内の出来事や、戦前の日常生活、戦中の集落内の変化などのエピソードも収集する。話者の幼少期や戦前の日常生活を成果物に取り入れることで、親近感が増し、戦前集落や話者が過ごしていた時代を理解しやすくなる。

【写真 1】は令和 7 年度の調査地域にて、話者と自治会長へ調査前の説明をしているところである。空中写真や、戦前の屋号地図を見ながら、集落内の調査対象エリアを確認し、屋号や戸数の確認をしている。

現地調査では、調査対象の家屋(前述の屋号地図に掲載されている家屋)を中心に、集落内の水路やサーターの跡地、住民がよく使っていた道路の確認をする。現在建てられている家屋も、屋敷囲いの一部に戦前の石垣が使われていたり、ヒンプンがそのまま残っていたりする場合もあるので、戦前から現存している可能性のあるものを記録しておき、調査時に話者へ確認する。

聞き取り調査の際には、以下の【図 1】質問項目一覧表をもとに、家屋情報を集める。『戦争編』や『民俗編』の調査時にも家屋調査は行ったが、間取りや屋敷囲い、ヒンプンの有無などの詳細は調査しなかった。当時の調査内容は、集落内の屋号と戸数、瓦屋根の家屋の数や該当する家屋の屋号、公民館の外観、商店の有無や詳細、製糖場の数やクムイ(池)、共同の井戸などについてである。

そのため、本事業の調査では戦前集落の復元を目指しているため、出来る限り一軒一軒の詳細な情報を聞き出している。

前述にもあるように、刊行物 2 冊の調査時の話者と、本事業の話者は異なる場合が多いため、まずは屋号や戸数の確認から入る。

その後、話者が住んでいた家屋の詳細、親類、近所の家屋などと調査範囲を広げていき、全軒の聞き取りをする。



【写真 1】自治会挨拶

景観情報は、屋号地図や現地調査時に撮影した集落内の写真を見ていただき、戦前の景観を聞いたり、話者と一緒に集落内を歩いて教えていただいたりすることもある。その際には、自身が住んでいた屋敷跡にも行き、家屋情報を確認することもある。

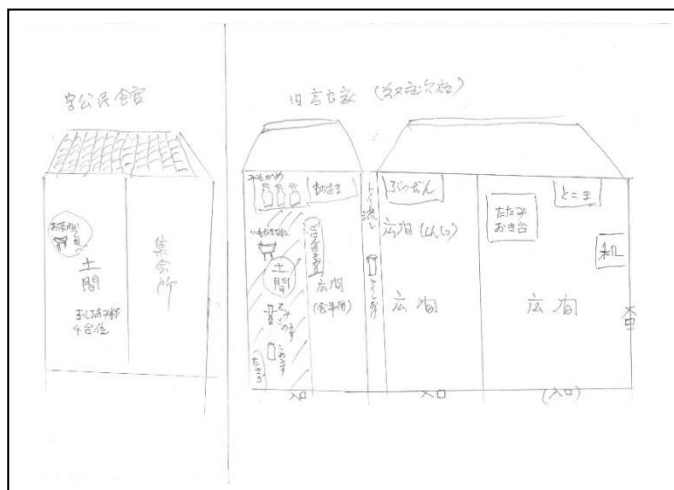
確認	調査項目	詳細	備考
<input type="checkbox"/>	(1) 門・出入口	位置	
		幅	
<input type="checkbox"/>	(2) 主家・台所	1つ/別棟	
		向き	
<input type="checkbox"/>	(3) 屋敷囲い	種類 (屋敷林のみ/石垣/チニブ/竹)	
		木の種類 (名前/実/花)	
<input type="checkbox"/>		高さ	
<input type="checkbox"/>		位置 (石垣の内/外/石垣の上)	
<input type="checkbox"/>		範囲	
<input type="checkbox"/>	(4) 屋敷内の建物など	種類 (主屋/台所/ヒンブン/門扉/家畜小屋/フール/アシャギ/アタイ/水タンク/風呂/高倉)	
<input type="checkbox"/>	主屋外部	位置 (門から見た位置)	
<input type="checkbox"/>		屋根の形状 (切妻型/入母屋型/方形型)	
<input type="checkbox"/>		屋根の材質 (カヤブチャー/ダキブチャー/赤瓦/アマダイガーラ/コンクリート瓦/コンクリート/トタン)	
<input type="checkbox"/>		出入り口	
<input type="checkbox"/>	台所	位置	
<input type="checkbox"/>		屋根の形状 (切妻型/入母屋型/方形型)	
<input type="checkbox"/>		屋根の材質 (カヤブチャー/ダキブチャー/赤瓦/アマダイガーラ)	
<input type="checkbox"/>	家畜小屋	位置	
<input type="checkbox"/>		高さ	
<input type="checkbox"/>		屋根の形状 (切妻型/入母屋型/方形型)	
<input type="checkbox"/>		屋根の材質 (カヤブチャー/ダキブチャー/赤瓦/アマダイガーラ)	
<input type="checkbox"/>	風呂	位置	
<input type="checkbox"/>		高さ	
<input type="checkbox"/>	フール	位置	
<input type="checkbox"/>		高さ	
<input type="checkbox"/>		材質 (切りだした石/土/野面積みの石)	
<input type="checkbox"/>		屋根の有無/形状 (切妻型/入母屋型/方形型)	
<input type="checkbox"/>		屋根の材質 (カヤブチャー/ダキブチャー/赤瓦/アマダイガーラ)	
<input type="checkbox"/>	ヒンブン	位置	
<input type="checkbox"/>		高さ/幅	
<input type="checkbox"/>		材質 (一枚岩/石積み (布積み/野面積み) /樹木 (種類:) /板)	
<input type="checkbox"/>	水タンク	位置	
<input type="checkbox"/>		形状	
<input type="checkbox"/>		高さ/幅	
<input type="checkbox"/>		材質 (コンクリート/切り石/焼き物)	
<input type="checkbox"/>	アタイ (菜園)	位置	
<input type="checkbox"/>	アシャギ外部	位置 (門から見た位置) /出入口	
<input type="checkbox"/>		屋根の形状 (切妻型/入母屋型/方形型)	
<input type="checkbox"/>		屋根の材質 (カヤブチャー/ダキブチャー/赤瓦/アマダイガーラ)	

【図1】質問項目一覧表

調査中の資料

調査中は、話者に聞き取りをしながら前述した屋号地図や当該地域の空中写真、戦前の古写真(家屋や屋敷囲いなどが写っているもの)を見ながら情報を書き込んでいく。

また、【図 2】のように話者から間取り図や景観に関する絵を提供していただくこともある。(調査時に使うものは基本的に屋号地図であり、それに情報を書き込んでいく。屋号や個人名などが多く書かれているため、話者からいただいた家屋の間取りや当時の公民館の詳細について紹介した。)



【図 2】話者から提供していただいた自宅の間取りなど

話者との現地調査

話者と共に、集落内の現地調査を行うこともある。事前に文化課で現地調査をした際に見つけた古い井戸や屋敷囲いの一部などを見てもらい、戦前から存在するかの確認や、景観(水田の範囲や戦時中に新設された道路など)の変遷について調査する。

また、話者の多くは戦前の住居と異なる場所に住んでいることが多かった。そのため、戦前に住んでいた敷地内に行き、家屋の配置や屋敷囲いの高さ、井戸やフル(豚便所)の位置などを教えていただいた。



【写真 2】話者との現地調査

委託事業者による 3D 撮影

事前に、住民や自治会に事業説明を行い、撮影許可を取り、調査地域に残る戦前の屋敷囲いやヒンプン、石畳、井戸などを 3D 撮影する。

撮影されたデータの一部は、成果品である「とみぐすくタイムマシン」⁶や 3D データの外部サイト「スケッチファブ」⁷内で見られることもできる。

ほとんどの調査地域で、住宅に一部残っている屋敷囲い(石垣)やヒンプン、石畳、石獅子などを撮影することが出来た。また、令和 7 年度の調査地域では、大正元年に建てられた瓦葺の家屋の撮影もすることができた。



【写真 3】業者による 3D 撮影の様子

2-3 調査後

調査後は聞き取りした内容をもとに、グラフィックデータを作成していく。また、エクセルなどに一軒ずつの詳細や集落内の景観情報をまとめる。

そして、完成したデータが納品されたあとは、調査内容と完成データに相違がないか確認し、話者の方にも確認していただく作業がある。

事業委託業者への提出データ(一部)

まず初めに事業委託業者へ提出するものは調査地域の屋号一覧と戸数、一軒ずつナンバリングした地図である。(戸数が多い場合は、エリアに分けてナンバリングしたこともあった)また空中写真や調査地域の戦前写真なども提出する。

調査が進むにつれて、各家の詳細情報を一覧化したデータや、【図 3】のような作図データなどがある。

話者との完成データの確認

完成データが納品された後、話者とともに家屋や屋敷囲い、敷地内の家屋や小屋などの配置間取りなどを一軒ずつ確認していく。

また、集落内の道路の色やクミイの大きさや深さ、色、雑草の生え具合、共同井戸やサターヤーなどの細かな景観についても確認する。

家財・民具などの確認

完成データの確認は、豊見城市歴史民俗資料展示室で行うことが多い。展示室は、簡易的な民家を展示しており、茅葺屋根、一番座・二番座・台所、そしてフール(豚便所)の一部を見ることができる。

そのため、展示室内にある茅葺屋根や内部を確認していただき、話者の家との相違を確認したり、民具や家財の有無についても聞き取りしたりしている。



【図 3】 作図データ



【写真 4】 話者と調査内容の確認



【写真 5】 話者と家財などの確認

2-4 成果品

成果品は「とみぐすくタイムマシン」や、豊見城市教育委員会作成の沖縄戦平和学習用 VR「時空記者」内のコンテンツに反映されている。

「とみぐすくタイムマシン」は、戦前の豊見城市内全域だけではなく、瀬長島や真玉橋、豊見城グスクといった要所も3D復元されている。

【写真 6】の中央にあるモニターに映っているのは戦前の瀬長集落の一部である。当時の集落は瀬長島の野球場の位置にあったが、戦後は島外に移動した。



【写真 6】展示室のモニター画面

「とみぐすくタイムマシン」では、戦前の集落と現在の集落を同時に閲覧できる。

また、集落内を散策することもできる。敷地内に入り、一軒ずつ住居内も詳細に確認できる。

一部の地域ではあるが、委託事業者によって 3D 撮影した現存している戦前からのヒンプンやシーサー、屋敷囲い(石垣)、五右衛門風呂も確認できる。【写真 7】は字真玉橋の戦前集落である。沖縄戦によって破壊された遺構の真玉橋と、家屋などが確認できる。

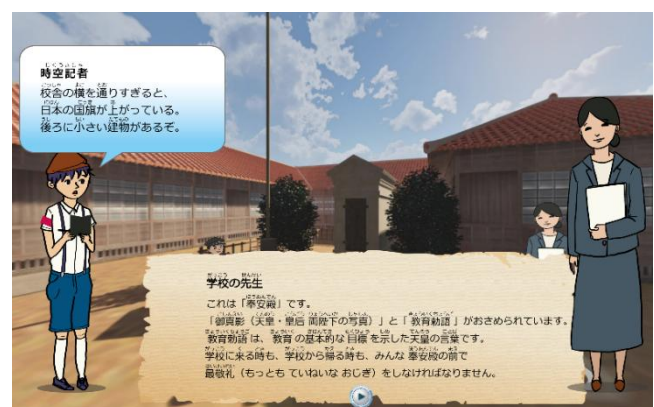


【写真 7】デジタル復元した真玉橋と真玉橋集落

「時空記者」は、令和7年7月に一般公開された豊見城市教育委員会作成の平和学習コンテンツである。

「時空記者」内のコンテンツでは、戦前から戦後の集落の様子が変わるようになっており、地域住民がどのように戦争に巻き込まれていったのかが分かる。

また、昨年度に聞き取りした豊見城第二国民学校も復元されており、児童・生徒に現在の学校との違いを見比べてもらうことができるため、より戦前のイメージができやすくなっている。



【写真 8】「時空記者」内で再現された戦前の豊見城第二国民学校

令和4年度からは、デジタル復元された集落や遺構などの成果品をもとにした歴史講演会や、沖縄戦 VR コンテンツ監修者による文化講演会を開催している⁸。また、調査地域で住民に向けた成果品の報告会も行った。

3、活用事例

令和7年4月に、豊見城市内の小中学校に沖縄戦平和学習用VR「時空記者」の供用が開始され、7月には市のウェブサイト一般公開された。その結果、今年度は豊見城市立長嶺小学校と伊良波小学校、豊崎中学校の平和学習で活用していただいた。

豊崎中学校では、電子黒板と生徒一人ひとりが持っているクロームブックを併用した。本コンテンツでは字真玉橋、瀬長、渡橋名という3つの集落を散策することができる。生徒はこの3地域に班分けされ、それぞれの地域内の戦前から戦後の様子を見たり、登場人物に聞き取りをしたりなどして散策をする。その後、同じ班内での意見交換・共有をし、他の2つの集落を散策した生徒同士で学習内容を教え合う。1年生から3年生までの各学年で実施し戦前から戦後までの各時代を迫体験してもらうことができた。

長嶺小学校でも同様に、電子黒板とクロームブックを併用して取り組み、6学年でクラスごとに実施した。

また、豊見城市立中央図書館1階にある豊見城市歴史民俗資料展示室でも閲覧・操作することができるため、来館者や市内の学童クラブの子ども達、県外の修学旅行生にも利用していただいた。



【写真9】豊崎中学校での平和学習



【写真10】長嶺小学校での平和学習

4、今後の課題

現在までに、6地域と2校の聞き取り調査をし、いずれの調査でも戦前生まれの方にお話しを聞くことが出来た。また、話者が他の方を紹介して下さることもあり、最終的には10名ほどからお話を聞くことができた地域もある。しかし、地域によって話者の人数や年齢も様々で情報量にも差がある。お話を聞くことが出来るうちにより多くの情報を得ていきたい。

「時空記者」は、いつでも・どこでも・誰でも操作ができ、平和学習の導入としても適している。戦前集落を表示しながら、同時に写真資料や説明も見ることができるため、一度に多くの情報を得ることが出来る。また、集落内の気になるスポットを自由に散策できるので、没入感の高い体験ができる。そのため、より戦前集落やその時代をイメージしやすくするために、集落環境や風景、住民のエピソードや収集をさらにすすめていきたい。

調査が進む中、話者からの情報提供で、戦前からある樹木や屋敷囲いの石垣がほぼ完全な状態で現存していることが分かった地域がある。しかし、樹木も石垣も、その年の台風で倒壊・損壊し、樹木に関しては伐採されてしまった。どの調査地域でも、樹木や屋敷囲い、井戸などの一部が戦前から現存しており、このような戦前からの風景の一部を住民に伝え、地域で大切にさせていただくために、調査内容を地域に還元していきたい。

おわりに

ここまで、デジタル博物館事業の一つである、「戦前集落の3D復元作業」についておおまかに振り返った。本調査では、戦前集落の日常風景だけではなく、話者の幼少期から現在までの半生を聞くことが出来た。今回の調査では、戦前に国民学校へ上がる前の方、国民学校へ通っていた方、他県へ疎開した方、中学生だった方、成人していた方など幅広い年代の方からお話を聞くことが出来た。那覇港まで見渡せる景勝地近隣に住んでいた方には、1944年10月10日の空襲を長い時間眺め、黒い煙が自宅近くまで来ていたことなどを教えていただき、その他にも多くの方から戦中のお話を聞くことが出来た。一緒に同席していただいたご家族も初めて聞く内容も多かったようで、今後は地域の方へも伝えていくために、戦前生まれの方と戦後生まれの方が交流できる場をもちたいと考えている。

令和7年度までに、6地域と当時の豊見城村にあった2校の聞き取り調査を終え、いずれの地域も戦前生まれの方にお話を聞くことが出来た。約半年間、ほぼ毎週のように聞き取り調査にご協力いただき、感謝の思いでいっぱいである。また、ご本人だけではなく、ご家族や自治会の方にも感謝を申し上げたい。

今後、戦前生まれの方にお話を聞くことが困難な地域もあるだろう。少しでも多くの方にお話を聞き、戦前の集落復元を地域の住民に見てもらうことで、沖縄戦で破壊されたものや失われたものを想像し、地域の歩んできた歴史や出来事をみていただきたい。戦前生まれの方の記憶や体験を風化させず、次世代に形あるものとして継承し、多くの住民に地域への理解と愛着が増してもらえるような事業にしていきたい。

-
- ¹ 島袋幸司 2022「豊見城市のデジタルアーカイブ作成—基礎自治体単位のデジタルアーカイブ作成実践記録—」『豊見城市教区委員会文化課 紀要 まだま 第2号』
 - ² 豊見城市内に戦前からある集落は字豊見城、宜保、我那覇、名嘉地、田頭、瀬長、与根、伊良波、座安、渡橋名、上田、渡嘉敷、翁長、保栄茂、高嶺、平良、高安、饒波、金良、長堂、嘉数、真玉橋、根差部である。令和4年度は字瀬長と真玉橋、令和5年度は字豊見城と嘉数、令和6年度は字渡橋名と豊見城第二国民学校(現在の豊見城市立座安小学校)そして令和7年度は字長堂と豊見城第一国民学校(現在の豊見城市立長嶺小学校)の聞き取り調査を実施した。
 - ³ 3Dデータを平和教育向けに活用するために制作された。平和学習の教材としても活用できることを想定し、令和5年度から沖縄戦や平和教育の専門家の方と検討がすすめられ、令和7年度に一般公開された。
<https://www.city.tomigusuku.lg.jp/soshiki/8/1035/gyomuannai/3/TGDA/8661.html>
 - ⁴ 豊見城村教育委員会文化課 2001『豊見城村史 第6巻 戦争編』豊見城村役所
 - ⁵ 豊見城市教育委員会文化課 2008『豊見城市史 第2巻 民俗編』豊見城市役所
 - ⁶ 戦前の豊見城村を知るには、現存している写真などの資料では限りがあり、当時を生きていた方の記憶が頼りである。その記憶を頼りに戦前の豊見城村の姿を残すことで、戦争で失われたものを考えるきっかけや、現存している史跡や文化財を見るなど、学習や探訪、観光のきっかけとなるコンテンツとして作成された。
 - ⁷ <https://sketchfab.com/TGDA>
 - ⁸ 令和4年度「デジタルでよみがえる真玉橋とその歴史—最新テクノロジーで復活を遂げる いにしへの真玉橋—」(上里隆史先生)、令和5年度「デジタルでよみがえる豊見城グスクと石火矢橋」(上里隆史先生、山本正昭先生)、令和6年度「沖縄戦 VR で平和を考える:平和学習の可能性を探るデジタルアプローチ」(北上田源先生、喜納大作先生、狩俣日姫先生)、令和7年度「戦後80年の平和教育—デジタル教材と取り組みの共有」(北上田源先生、狩俣日姫先生)

豊見城第二国民学校(二豊)の3D復元について

中村 鼓

はじめに

豊見城市教育委員会文化課(以下、文化課)では、令和4(2022)年度より戦前の集落および史跡を3Dで復元する事業を行っている。戦前の風景を形に残すことで、当時の生活や沖縄戦が与えた影響等、地域に積み重ねられた歴史を後世に伝えることが目的である。また、世代間交流や平和学習への活用、現存する文化財への興味関心を呼び起こすことも期待される。

同事業では、これまでに5つの集落(字豊見城・瀬長・渡橋名・嘉数・真玉橋)と4つの史跡(豊見城グスク・橋梁真玉橋・石火矢橋・豊見城第二国民学校)を3Dで復元した。このうち、令和6(2024)年度に手掛けた豊見城第二国民学校(現在の座安小学校。以下、二豊)は、同事業ではじめて旧制小学校の建築を対象としたものである。同校の校舎は沖縄戦で全焼しているため、わずかに残る古写真と当時在学していた方への聞き取り調査等をもとに、校舎の姿を推定し3Dの形で復元した。本稿では、その方法および成果を報告し、同時に課題についても共有する。

1 豊見城第二国民学校(二豊)について

明治13(1880)年、二豊の前身である豊見城小学校が開設された。前年の廃琉置県により沖縄でも日本の教育制度が適用され、県内で最初に設置された14校のうちの一つであった。その後、小学校令の公布に伴い明治20(1887)年に豊見城尋常小学校へ改称。開校当初は字豊見城の間切番所内の一室を校舎としていたが、明治21(1888)年～明治22(1889)年頃に同字のメヌヒラに新築移転した。明治39(1906)年には高等科が併置され、豊見城尋常高等小学校へ改称した。

同じく明治39年、間切会¹は豊見城尋常高等小学校を二校に分離することを決議。明治41(1908)年に第一豊見城尋常高等小学校と第二豊見城尋常小学校に分離し、前者は饒波に、後者は座安に校舎を新築した。その後大正6(1917)年には第二豊見城尋常小学校にも高等科が併置され、第二豊見城尋常高等小学校へ改称した。

二校は「一豊」「二豊」の略称で親しまれたが、昭和16(1941)年の国民学校令によって豊見城第一国民学校と豊見城第二国民学校へそれぞれ改称した。国民学校には6年制の初等科と2年制の高等科があり、義務教育である初等科を終えると希望者は高等科へ進んだ²。

二豊は、村内西側の13字(宜保・我那覇・名嘉地・田頭・瀬長・与根・伊良波・座安・渡橋名・上田・渡嘉敷・翁長・保栄茂)を校区とし、沖縄戦直前には1,000人あまりの児童が通っていたとされる。大勢の児童が学んだ校舎には十・十空襲以降日本軍が駐屯し、米軍上陸後の昭和20(1945)年4月³に全焼した。

終戦直後は、座安・渡橋名・伊良波に収容所が設置され、二豊のあった場所には村役場や配給所、警察署郵便局、病院などの機関が設置されて行政の中心地となった。昭和20年11月には第二豊見城小学校として座安の民家跡地と空き地で青空教室を開始。昭和21(1946)年4月からは元の敷地に戻り、座安初等学校へ改称した。その後、昭和27(1952)年に現在の校名である座安小学校となり、沖縄の日本復帰や豊見城村の市政施行を経て、豊見城市立座安小学校となった。

¹ 間切(現在でいう市町村)の議決機関。明治31(1898)年に間切島規定が公布されたことで、翌明治32(1899)年に各間切・島におかれた。

² 国民学校令により昭和19(1944)年度から義務就学期間が6年から8年に延長予定だったが、戦時特例により適用が延期され、実施されることはなかった。

³ 『豊見城村史』や『座安小学校50記念誌』の学校沿革では4月20日とされているが、他にも3月末とするものから5月末とするものまで複数の証言がある。

2 3D 復元の方法

2-1 GIS(地理情報システム)⁴データの作成

3D 復元の基盤となるのは、昭和 23(1948)年に米軍が作成した 1/4800 地形図である。戦後、沖縄の地形は米軍基地建設や区画整理、宅地開発等で大きく変化するが、この図は改変前の地形を等高線により記録している。GIS沖縄研究室⁵の渡邊康志氏は、この図をもとに DEM(数値標高モデル)を作成し、地形を3Dで復元する「沖縄島 1948 年地形復元プロジェクト」を行った。

文化課では、同氏の協力を得て 1948 年の豊見城村⁶の地形を3D で復元したものに 4 種のテクスチャ(米軍地形図・大正時代迅速測図・戦前空中写真・戦後空中写真)を重ねたデジタルマップを作成した。これを土台として、豊見城市史(村史)の屋号地図や聞き取り調査等で得た情報をもとに、当時あったと推定される建物や植物の 3D を配置し、戦前の集落および史跡を復元している。二豊の3D 復元においても同様の方法を用いた。

2-2 資料の収集・整理

まず、二豊の校舎の写真を収集した。文化課所蔵の古写真から同校の校舎が県内に同時期にあった多くの学校と同様に木造瓦葺であることが分かった。

また、沖縄県公文書館や国土地理院が所蔵する米軍撮影の空中写真から、撮影コースに座安やその周辺を含むものを探した。校舎が明瞭に写っている空中写真は少なかったが、複数の写真から校舎がコの字型とエの字型に接続する様子を確認できた【図1】。

写真以外には、近代の学校建築に関する法令や県内外の例を調べた。また、豊見城市史(村史)や座安小学校の記念誌、自分史等から二豊の校舎や学校生活に関する記述を探した。それらを抜粋して項目別に分類し表に整理した。

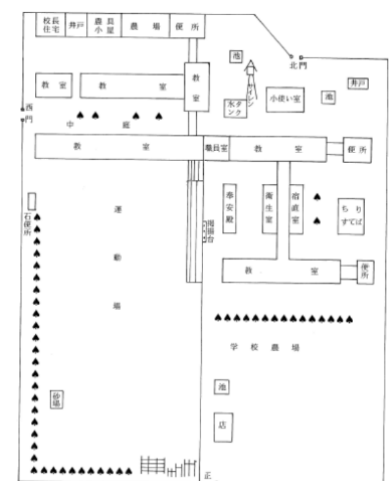
2-3 校舎の配置・大きさの推定

収集した資料をもとに校舎の配置を推定した。しかし、二豊の場合、すでに座安小学校 80 周年記念誌に昭和 18(1943)年頃の校舎配置図が掲載されていた【図 2】。この図は、二豊の卒業生で座安小学校の 80 周年時に校長を務めていた高良健二氏によって作られたものである。校舎の形状は先述の空中写真とおおむね一致し、「教室」「奉安殿」「井戸」といった各施設・設備の位置が示されている。今回の復元において重要な資料となった。

続いて、校舎の大きさを推定した。学校建築は、明治 28(1895)年に発刊された『学校建築図説明及設計大要⁷』と、その内容を改訂増補した『学



【図1】ON24591その005-2(部分拡大)
昭和 19(1944)年12月31日撮影
沖縄県公文書館所蔵



【図 2】記念誌編集委員会「昭和 18 年頃の校地校舎の概況」『座安小学校創立 80 周年記念誌』座安小学校創立 80 周年記念事業実行委員会、1990 年、26 頁

⁴ 地理的な位置を手がかりに、位置に関する情報を持ったデータ(空間データ)を総合的に管理・加工し、視覚的に表示し、高度な分析や迅速な判断を可能にする技術。国土地理院 web サイト「GIS とは…」<https://www.gsi.go.jp/GIS/whatisgis.html>(最終閲覧日:2026年2月6日)より引用。

⁵ 渡邊康志氏が GIS に関する情報を発信する個人 Web サイトの名称。同氏は地域史や学校教材、沖縄関係書籍の資料に GIS を活用する協力をしており、これまでに沖縄県文化振興会・読谷村史・西原町史等での実績がある。

⁶ 当時。

⁷ 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築図説明及設計大要』文部大臣官房会計課、1895 年、国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1078704>(最終閲覧日:2026年2月5日)

校建築設計要項⁸』が明治 37(1904)年に発刊され、明治後半以降類型化が進んだとされている⁹。二豊の校舎は明治 41(1908)年に落成していることから、これらに基づき設計された可能性が高い。このような学校建築の規格に加えて、空中写真の縮尺や古写真に写り込む人物と校舎の比率を委託事業者が割り出し、大きさを推定した。また、聞き取り調査で得られた証言も参考にした。

2-4 聞き取り調査

当時在学していた方へ詳細な部分について聞き取り調査を行った。まず、二豊の通学区域より話者を選定し、自治会長と話者に事業内容を説明して承諾を得た。聞き取りは主に話者の自宅で行った。二豊にあった施設・設備について、ハード面(位置・向き・大きさ・形状・材質・色・間取り・植物の種類等)を中心に、併せてソフト面(用途・関連するエピソード等)を訊いた。その際、大判印刷した校舎配置図にメモを書き込んだ。外観を言語化しづらい場合は、同時代の県内外の例を写真で示し、話者の記憶との共通点あるいは相違点を訊いた。また、話者の許可を得て音声を録音し、後に文書化した。

聞き取りには、先述の高良健二氏にご協力いただいた。昭和 5(1930)年生まれの高良氏は、校地に隣接する字の渡橋名で生まれ育ち、高等科 1 年を卒業して旧制中学校に進学するまでの 7 年間二豊に通った。したがって、今回復元した校舎は高良氏が記憶する昭和 12(1937)年 4 月から昭和 19 年 3 月までの姿である。

また、高良氏は戦後には教員として座安小学校の復興を担い、退職直前に再び同校に戻って第 22 代校長を務めている。このように、高良氏は同校の変遷を間近で見てきた人物であり、聞き取りでは充実した内容を得ることができた。

一方で、今回は 1 名にしか聞き取り調査を実施することができず¹⁰、女子児童の視点も欠けている¹¹。今後の復元ではより多くの話者を対象に聞き取りを行い、証言の客観性を量的にも保証していきたい。

二豊の 3D 復元においては、先述の 2-2 から 2-4 の調査を並行して進めることで、それぞれの情報を紐づけていった。

3 成果

調査で得た内容を【図 3】の校舎配置図や表に集約し、それをもとに委託事業者が 3D を作成した【図 4】。完成品は、豊見城市歴史民俗資料展示室内のモニターにて公開中のコンテンツ「とみぐすくタイムマシン」の一部として閲覧できる。【図 5】～【図 8】は、そのスクリーンショットと二豊の古写真を比較したものである。

また、web サイトで公開中の沖縄戦平和学習用 VR「時空記者¹²」で地域を「渡橋名」と選択することでも閲覧可能である。「時空記者」では、登場人物のセリフにも調査で得た証言を利用している。令和 7(2025)年度には、市内の小中学校(長嶺小学校・伊良波小学校・豊崎中学校)で平和学習教材として活用された。

4 今後の展望

令和 7 年度現在、戦前の豊見城村にあったもう一つの旧制小学校である豊見城第一国民学校(現在の長嶺小学校。以下、一豊)の 3D 復元に向けて調査を進めている。



「時空記者」QR コード

⁸ 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築設計要項』文部大臣官房会計課、1904年、菅野誠、佐藤謙『日本の学校建築 資料編』文教ニュース社、1983年

⁹ 菅野誠、佐藤謙『日本の学校建築 発祥から現代まで』文教ニュース社、1983年

¹⁰ 令和6年度は、二豊と同時に渡橋名に関する聞き取り調査を実施した。そこでは高良氏以外にも 3 名の話者にご協力いただいたが、戦前は未就学児であるなどの理由から二豊の話は伺っていない。

¹¹ 当時は男女別学級や女子児童にのみ課された授業(裁縫・家事)があったことから、女子児童のみが使用した施設・設備が存在すると思われる。話者が男性の場合、そこを記憶していない可能性がある。

¹² URL:<https://www.okitechub.com/tgda-okinawa-war-vr/>(右上の QR コードからもアクセスできます)



【図3】昭和12～19年頃における豊見城第二国民学校の校舎配置図(推定)

二豊の場合、すでに高良氏が作成した校舎配置図があり、非常に参考になった。しかし、一豊の場合はそれがなかったため、空中写真等をもとに一から校舎配置図を作る必要があった。

聞き取り調査では、二豊の際に1名しか実施できなかった反省から、一豊の場合は通学区域内から広く話者を探し、計7名の方に聞き取りを行うことができた。話者の数が増えたことにより、共通して語られる内容にはより説得力が増した。しかし、学年や個人によって記憶の異なる部分も多く、それをどのように3D復元に反映するかという新たな課題も浮上した。



【図4】豊見城第二国民学校の3D復元(スクリーンショット)

また、一豊を調査していく中で、二豊との共通点および相違点が明らかになってきた。例えば、「四大節¹³や学芸会等の行事の際は、教室の仕切りを取り外して一つにし、講堂として利用した」という証言は二校で共通して聞かれた。これは、『学校建築図説明及設計大要』の第2章の概説に挙げられた「別に講堂を作らず教室の仕切を取外して講堂の用に充つべし¹⁴」という小学校の建築に関する要件に基づくと考えられる。なお、二校ともその教室を「普段は高等科の教室として使用される東側の3、4教室」とする証言が多い点も注目に値する。

対して、奉安殿の立地には違いがみられた。二豊の奉安殿は校舎の中央に位置し職員室も近く、児童がよく通る場所だったと考えられる。一方、一豊の奉安殿は校舎の外れの丘陵を階段で昇った先にあった。聞き取りでは、2名が「階段の上に行ったことはない」と話しており、詳細な外観を記憶している者もほとんどいない。ある自分史では、饒波の若者たちが夜の学校に忍び込み肝試しをする中で、最も怖い場所が奉安殿だったと伝聞調で記されている¹⁵。そして、奉安殿はその立地から畏敬の場所であると同時に近寄り難い場所だったとしている。

このように、同時代・同村内にあった二校の間に共通点だけでなくそれぞれの特徴が見られることは興味深い。今後は、二校に関する証言や記述を一覧できる表を作成し、容易に比較できるようにしていきたい。また、施設・設備に関するものだけでなく、学校生活等のエピソードについてもまとめいずれは3Dに表示する形で市民の皆様の地域学習に寄与したい。

おわりに

今回、二豊を3D復元するにあたって、まず直面したのが古写真等の一次資料の少なさである。この背景にはやはり沖縄戦があり、歴史が断絶されていることを感じた。現在、人数は限られるものの、当時在学していた方への聞き取りが可能である。37年間多くの児童が過ごし、記憶を共有する二豊の校舎を3Dで復元し、視覚的に記録することは意義深いと考える。

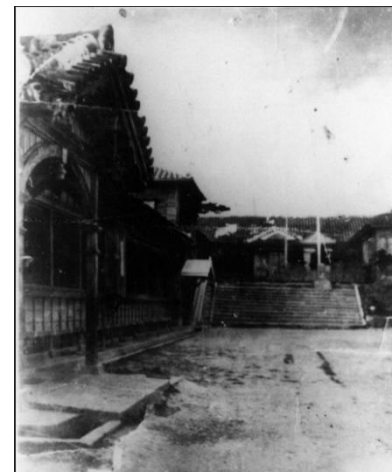
また、復元に利用した空中写真は、本来米軍が攻撃目標を把握するために撮影したものである。そして、終戦から80年経った現在、その空中写真は当時を知るための限られた資料となり、ついには攻撃により失われた建物の3D復元に利用された。高精度な空中写真は校舎の配置や接続を明らかにしたが、同時にこれだけはっきりと校舎の姿が捉えられていたことに恐怖を感じる。



【図5】戦前の二豊の校舎、撮影年不明、豊見城市教育委員会所蔵。運動会で青年学校の学生が軍事教練の成果を披露する場面か



【図6】図5と同じ位置の3D復元(スクリーンショット)。バスケットリングの位置が証言と異なるため、今後修正予定



【図7】昭和初期の二豊の校舎、撮影年不明、豊見城市教育委員会所蔵。手前にむくり屋根のポーチ、階段の先に奉安殿と国旗掲揚台が見える



【図8】図7と同じ位置の3D復元(スクリーンショット)

¹³ 旧制の祝日である四方拝(1月1日)・紀元節(2月1日)・天長節(4月29日)・明治節(11月3日)の総称。この日、学校では式典が開かれ、「君が代」斉唱や御真影への最敬礼、校長による教育勅語の読み上げ等が行われた。

¹⁴ 文部大臣官房会計課建築掛『学校建築図説明及設計大要』文部大臣官房会計課、1895年、国立国会図書館デジタルコレクション <https://dl.ndl.go.jp/pid/1078704> コマ番号8(最終閲覧日:2026年2月5日)

¹⁵ 平田永哲『好きなこと、やりたいことを慌てず、焦らず、諦めず歩んだ人生を回顧して人生大転換～高校英語教師から大学特別支援 教育研究と普及啓発の道へ～』2016年、72～73頁。筆者は高安出身で、1940年に一豊に入学している。

さいごに、本事業を支えているのは、なにより当時を知る方々の証言である。たとえ古写真や空中写真に建物が写っていたとしても、それが人々にどのように使われ捉えられていたかという意味的な部分は知り得ない。限られた時間の中で少しでも多くの個人の記憶を記録するため、今後の調査でも聞き取りを重点的に行っていきたい。そして、3D 復元という形で成果を公開することで、市民の皆様へ還元していく所存である。至らない点も多くあると思うが、ご意見等あればお気軽にご連絡いただきたい。

謝辞

今回の 3D 復元にあたって高良健二氏には複数回に渡る聞き取りにご協力いただいた。戦前の豊見城第二国民学校と渡橋名について、建物だけでなく当時の生活や戦後復興に関する多くの貴重な証言をいただいた。また、沖縄戦平和学習用 VR「時空記者」の作成にあたっては、監修委員の北上田源氏(琉球大学教育学部准教授)・喜納大作氏(与那原町立軽便与那原駅舎展示資料館学芸員)・狩俣日姫氏(株式会社さびら)に多角的なご意見をいただいた。なお、この調査は文化課の工藤・田辺と共同で行い、GIS および 3D データの作成は委託事業者の株式会社パスコ沖縄支店が行った。その他にも関わってくださったすべての方にこの場を借りて感謝申し上げる。

【参考文献】

豊見城市史(村史)

- ・豊見城村史編纂委員会『豊見城村史復刻版』豊見城村役所、1964 年
- ・豊見城村教育委員会村史編纂室『豊見城村史 第 9 巻 文献資料編 別冊 統計にみる豊見城』豊見城村・役所、1998 年
- ・豊見城村史戦争編専門部会『豊見城村史 第 6 巻戦争編』豊見城村役所、2001 年
- ・豊見城市 市史編集委員会 新聞集成編専門部会『豊見城市史 第 3 巻 新聞集成編(明治 31 年～昭和 20 年 6 月)』豊見城市役所、2010 年

座安小学校記念誌

- ・『座安小学校五十周年記念誌』座安小学校、1959 年
- ・『創立六十周年記念誌』座安小学校、1968 年
- ・記念誌編集委員会『座安小学校創立 80 周年記念誌』座安小学校創立 80 周年記念事業実行委員会、1990 年
- ・記念誌編集委員会『創立 90 周年記念誌』座安小学校創立 90 周年記念事業期成会、1999 年

GIS 沖縄研究室「沖縄島 1948 年地形復元プロジェクト」

- ・GIS 沖縄研究室 Web サイト <http://gis-okinawa.jp/>(最終閲覧日:2026年2月6日)
- ・渡邊康志、辻浩平、上原富二男「1948 年米軍作成 1/4800 地形図を用いた DEM 作成と国土地理院 5m メッシュ標高との差分による地形改変判読」『沖縄地理』第 14 号、沖縄地理学会、2014 年、1～18 頁
- ・渡邊康志、上原富二男「沖縄島中南部の 1948 年地形とその改変」『沖縄地理』第 19 号、沖縄地理学会、2019 年、1～16 頁

戦前の学校建築に関する法令・刊行物

- ・琉球政府『沖縄縣史 第 4 巻 各論編 3 教育』琉球政府、1966 年
- ・文部省『学制百年史 資料編』帝国地方行政学会、1981 年
- ・文部省『学制百二十年史』ぎょうせい、1992 年

デジタル技術を活用した平和教育の新たな展開

—沖縄戦平和学習用 VR「時空記者」の実践を中心に—

島袋 幸司

1. 報告の背景

戦後 80 年(2025 年)という大きな節目を迎えた現在、沖縄戦体験者の高齢化が進み、直接体験を語り継ぐ機会は年々減少の一途をたどっている。平和教育・平和学習において、戦争の記憶を次世代へいかに継承するかは喫緊の課題である。本報告の対象となる豊見城市(当時は豊見城村)は、沖縄戦において旧海軍司令部壕が設置された場所であり、小禄飛行場や那覇港にも近接していたため、激しい攻撃を受けた歴史を持つ。当時の人口約 9,000 名に対し、戦没者は約 3,600 名に上り、住民の約 40%が犠牲となった。特に 1945 年 6 月には約 2,000 名が亡くなるなど、凄惨な地上戦が展開された。このような背景から、同市は「非核平和都市宣言」を掲げ、多角的な平和行政を推進している。

豊見城市教育委員会文化課(以下、文化課)では、これまで『豊見城村史 第6巻 戦争編』(2001 年刊)¹の発刊や、戦争遺跡のパンフレット作成(2014 年)²、戦争体験者の証言映像の YouTube 公開(2019)³など記録の保存と継承に努めてきた。しかし、これまで発刊・公開した成果を学校の授業で利用するためには、1,000 ページを超える村史の読み込みや 1 人 20 分程度の証言映像を 31 名分確認することなど、教材を作成する教員にとって負担が大きい。また、現在の児童生徒にとって証言映像で語られる 80 年前の生活や失われた風景を想像することが極めて困難であるという課題が浮き彫りになっていた。

2. 本報告の目的

本稿では、これらの課題を解決するために文化課が取り組んだ「デジタル博物館事業」の一環としての沖縄戦平和学習用 VR コンテンツ「時空記者」(以下、本コンテンツ)の制作過程、および学校現場での実践と連携について報告する。特に、コンテンツ制作に先立って設置された「沖縄戦 VR 検討委員会」での議論、より良い平和教育にむけて情報共有を目指した「平和教育サポート会議」の実施、そして実際の授業における児童生徒の実践に着目し、デジタル技術を活用した新たな平和教育の可能性を考察する。

3. 平和教育が抱える課題と解決策の検討

(1) 沖縄戦 VR 検討委員会の設置

文化課では、コンテンツ制作にあたり、教育現場の実情や学術的な正確性を担保するため、令和 5 年度(2023 年度)に「沖縄戦 VR 検討委員会(以下、検討委員会)」を設置した。委員には、琉球大学教育学部の北上田源准教授、株式会社さびらの狩俣日姫氏、与那原町軽便駅舎資料館の喜納大作氏といった平和教育・学校教育、地域コーディネーター、歴史学・博物館学の専門家を招聘した。併せて、委託事業者のパスコ沖縄支店により、教室で実施する利用方法に合わせた適切なデジタルコンテンツの技術的な課題も検討した。

¹ 豊見城村史戦争編専門部会『豊見城村史 第6巻 戦争編』豊見城村史編集委員会(2001)

² 豊見城市教育委員会文化課『豊見城市の戦跡「戦世の“証人”が伝える 故郷の沖縄戦』(2016)パンフレット
https://www.city.tomigusuku.lg.jp/material/files/group/36/BUNKA2014h26PANFU_sensekii_001_83403960.pdf

³ 豊見城市教育委員会文化課『語り継ぐ受け継ぐ 豊見城の戦争記憶』(2019)映像資料
https://www.youtube.com/playlist?list=PLi6Y1v8Eee0J8WtG-TLgC_Zl8uo2KQf3g

(2) 教育現場における課題の抽出

検討委員会では平和教育の現状について詳細な分析が行われた。特に指摘されたのは以下の3点である⁴。

- ① 平和教育の環境変化：コロナ禍や体験者の高齢化により、講堂に集まる「集会型」の講話が困難になり、各教室で行う「授業型」への移行が進んでいるが、それに対応した教材が不足している。
- ② 教育現場の体制：教員の人手不足や多忙化により、教材研究に充てる時間が十分に確保できない。また、戦前・戦中・戦後の情報不足により、指導の方向性を定めることが難しい。
- ③ 教育の機会と質：慰霊の日前後に学習が集中し、継続的な学習になりにくい。また、体験者講話の性質上、個別の体験談に重きが置かれ、沖縄戦全体を俯瞰する視点が不足しがちである。加えて 戦前の生活文化や風景が現在と大きく異なるため、共感が得にくい。

(3) コンテンツの方向性と技術選定

これらの課題に対し、下記の通り整理した。

- ① 平和教育の環境変化：制作するコンテンツを「授業型」に対応する教材とする。Web や CT を活用しプリント補助教材などの資料も準備する。そして学校現場へ普及方法も併せて検討する。
- ② 教育現場の体制：児童生徒が自ら完成させる教材であり、教師が利活用しやすい拡張性・汎用性の高い教材とする。学校と連携強化を図り、教材活用術のデモンストレーションなども検討する。
- ③ 教育の機会と質：Web を活用したアクセス性の高い教材であり、沖縄戦全体を俯瞰できる広域的視点も含めた構成とする。「人」に着目した各個人の体験談を出典とする。デジタルアーカイブとの連携も検討する。

委員会では上記の整理から、「授業型 平和学習用教材」としての VR コンテンツの開発を決定した。技術面では、専用の VR ゴーグルを使用せず、学校現場に配備されている GIGA スクール構想端末(Chromebook 等)で利用可能な「オフサイト(遠隔体験)」型をメイン環境として設定した。具体的には Web ブラウザ上で動作し、デジタルマップ、パノラマ VR、ビジュアルノベル(物語形式)を組み合わせる仕様にする事で、特別な機材を必要とせず、学校の通信環境と端末性能でアクセス・操作可能な環境を構築した。これにより、教員がデバイスなどの事前準備に時間を割くことなく、授業で即座に活用できることを目指した。特に各端末から一度にアクセスするため通信量が大きすぎないことが重要であった。通信量の課題解決のために事前にコンテンツを各PCにインストールする案も検討されたが、学校現場で各端末にインストールやバージョンアップの作業の手間が発生すると見込まれたため見送った。

4. 沖縄戦平和学習用 VR コンテンツ「時空記者」の概要

(1) コンセプト：共感できる戦前の沖縄の復元

本コンテンツの最大の特長は、戦闘シーンの再現ではなく、「失われた戦前の風景」を 3D 技術で復元した点にある。令和 4 年度からの「歴史デジタルマップ・文化財 3D 作成業務」の成果を活用し、真玉橋、瀬長、渡橋名の集落と史跡として石橋の真玉橋と豊見城第二国民学校の戦前の姿を精緻に再現した。課題の(2)・③で「戦前の生活文化や風景が現在と大きく異なるため、共感が得にくい」の対応として、沖縄の風景や日常生活の環境を知り戦争によって破壊される過程を視覚的に体験可能とすることで、対比的に「平和の尊さ」や生命以外の「失われたものの大きさ」を実感できる構成とした。

⁴ 豊見城市教育委員会・株式会社バスコ「沖縄戦 VR コンテンツ計画書」(2024) pp.5-6
https://www.city.tomigusuku.lg.jp/material/files/group/36/Bunka2024r06_DH_okinawasenVRp01.pdf

(2) 本コンテンツの構成と学習モード

タイトルは『時空記者 ～あの時の記憶～』とし、プレイヤーがタイムトラベル可能な記者となり、過去の世界で取材を行う設定である。構成は、真玉橋、瀬長、渡橋名の3地点を舞台に、「平和な暮らし」「戦争のあしあと」「十・十空襲」「いくさゆー」「村にかえって」という5つの時間軸で構成されている。それぞれの場所と時期について、学習モードは以下の2つが用意されている。併せて資料室では映像資料をみる仕組みも取り入れた。

- ① ストーリーモード：1944年から1945年にかけての出来事を時系列で追体験する。地域の変化や人の動きをみながら物語形式で進むことで、沖縄戦の流れを体系的に理解できる。
- ② シーン学習モード：各場面(シーン)を自由に選択し、じっくりと観察・調査できるモード。授業の単元や児童生徒の興味に合わせて柔軟に活用できる。

(3) 役割分担による協働学習

授業での運用を想定し、以下の役割分担(ロールプレイ)による協働学習を推奨している。

- ① 時空記者(ファーストプレイヤー)：電子黒板や端末を操作し、ストーリーを進める。
- ② デスク(セカンドプレイヤー)：記者の取材をサポートし、得られた情報を副教材にまとめる。
- ③ キャップ(サブプレイヤー/教員)：取材全体を統括し、助言を行う。

このような協働により、単に映像を見るだけでなく、情報を収集・整理・共有するという「主体的・対話的で深い学び」を促進する構成。

5. 学校現場への導入支援体制

検討委員会では、コンテンツの制作だけでなく、それを現場で活用するための支援体制の構築も重要であるとの指摘があった。その対応として令和7年度には平和教育サポート会議の設置と学校現場のサポートを実施した。

(1) 平和教育サポート会議の開催

令和7年(2025年)4月17日、豊見城市教育委員会は第1回「平和教育サポート会議」を開催した。この会議には、文化課(コンテンツ制作・資料提供)、生涯学習振興課(講師派遣・教材紹介)、教育指導課(平和教育主管)、協働のまち推進課(平和行政主管)、および市内の小中学校の平和教育担当教諭が参加した。会議の目的は、様々な教材や人的資源・イベントなどの情報共有を促進することで平和教育の質の向上と教員の負担軽減である。VR教材・『戦争編』の案内や、地域ボランティア・外部講師の紹介、授業案の相談など、各学校の要望に応じた具体的なサポートを行う体制が整えられた。参加した教員からは、「いろんな形でサポートしていただけたらとてもいいと思います。」「授業づくりでも試行錯誤している。先生方に共有して実践していきたい。」「時間的に足りないのは否めない。会議を通して模索してやっていかないといけない」との声が聞かれ、組織的なバックアップの必要性が確認された。平和教育サポート会議はその後、第1回の欠席者向けに5月1日に第2回を、実践の振り返りに9月30日に第3回を開催した。

⁵ NHK 沖縄放送局 News「豊見城市が教材資料など教員に紹介の初会議」2025年4月18日放送

⁶ 琉球新報「平和教育「VR教材」活用 豊見城「慰霊の日」向け市教委提案」2025年5月15日

⁷ RBC「戦後80年#あなたの623 豊見城市の取り組み 変わる・変える平和学習」2025年6月19日放送

6. 学校現場における実践事例

令和7年(2025年)6月、完成した本コンテンツを用いた平和教育が豊見城市内の小中学校で実施された。

(1) 豊崎中学校の実践(令和7年6月5日)

豊崎中学校では、3学年それぞれで学年ごとに、本コンテンツを活用した授業が行われた。1学年4クラスであり、教頭先生が放送で各教室の進行をサポートし、各クラスでは教員がリードしつつ、生徒たちがタブレット端末を用いてコンテンツを利用した。授業では、クラス内で「真玉橋」「瀬長」「渡橋名」の3つの地域別グループに分かれ、それぞれの地域の戦前から戦後への変遷を取材した。その後、異なる地域を担当した生徒同士で学習内容を共有し合う活動が行われた。一部で接続エラーが発生したものの、教育委員会のICTサポートにより授業は継続された。生徒たちは、「不発弾で遊んでた」「壕を掘っていたみたい」などの会話しながら、主体的に情報を探索していた。班ごとに異なる地点や時代を体験し、後に教え合うジグソー学習を通じて、地域差や時期差に注目した深い学びが展開された。

1時間のなかで各時期の取材・共有・発表とタイムスケジュールの進行が重要な要素をもっていた。コンテンツ内には小動物のアイコンに触ると鳴き声になる仕組みがあり、「平和な時代」に多くの動物が登場するため様々な動物の鳴き声がそれぞれの端末からなることで笑い声があがり和やかな雰囲気であったが、時期が戦争に近づくにつれて動物が少なくなり犠牲になった場面も登場するなど緊張感を増す変化がみられた。風景のみならず、このような要素でも平和な時代と戦争に向かう時代の雰囲気の対比を再現・共有できたことは発見であった。

(2) 長嶺小学校の実践(令和7年6月19日)

長嶺小学校では、接続トラブルもなくスムーズに実施された。ここでは、担当教員が6年生のクラスごとに平和教育の授業を担当する形で行われた。開始前に学習する3つの場所について、現在どのような場所か何があるか等、児童と共通理解を図ったうえでVRを開始した。授業では、児童がイヤホンを付け、それぞれが集中して学習を行った。ワークシートに取材した内容を書き込んでいく形で進められたが、中にはVR内の人物の服装をイラストとして描きこむ児童もいた。これまでの教材にある文字情報や証言では得られなかった興味関心が本コンテンツで喚起できたことは一つの成果であった。ただし、コンテンツ内の3地点とも校区外であったため、身近さに感じにくい面があったことは否めない。児童生徒にとって歴史事象に対する実感や当事者意識(身近さ)につなげるため、校区内の馴染みのある地域も選択できることが望ましい。

7. 成果と考察

(1) 「日常の喪失」の実感と共感

実践後の生徒の感想には、本コンテンツの教育効果がみてとれた。「校舎や住居など、沖縄戦で破壊される前の沖縄はとてもきれいだと思った。いや応なく戦争に巻き込まれる住民の悲しい気持ちも伝わった⁸⁾」「実際にこの街の様子が見られて、そこがしっかり、戦争についての考えが深まった⁹⁾」これらの声は文字や証言、モノクロの写真だけでは伝わりにくい「かつてそこにあった日常」を3D空間で体験したからこそ得られたものと考えられる。美しい風景とその破壊の対比は、戦争の悲惨さを知識としてではなく、感情を伴う「実感」として捉えさせる。こうして本コンテンツは児童生徒の「共感」を引き出すことに成功している。

⁸⁾ 琉球新報りゅうPON 2025年7月6日1~2面

⁹⁾ RBC「戦後80年#あなたの623 豊見城市の取り組み 変わる・変える平和学習」2025年6月19日放送

(2) 学習への意欲喚起と主体性

「良い意味でゲーム感覚で沖縄戦を学ぶことができ、とても分かりやすくもっと知りたくなった¹⁰」「ゲームみたいだからなんか言い方悪いけどちょっと楽しくてどんどんもっと知りたくなってきました。¹¹」とあり、VR やゲーム的なインターフェースは、歴史学習に対する心理的なハードルを下げ、生徒の能動的な関与を引き出した。また、当事者意識(身近さ)を感じやすかったとの感想も聞かれた。豊崎中学校の棚原教諭は、「これまでは体験者の話を聞くだけだったが、子供たちが自分から情報を仕入れる主体性が見えた¹²」と評価している。今回の取り組みは、ロールプレイングを取り入れたことで、児童生徒の学習意欲を喚起し、主体性や共感を引き出した点で、従来の受動的な平和学習からの転換点とひとつになったと言える。

(3) 支援体制の有効性

「平和教育サポート会議」を通じた組織的な支援は、教員の心理的・実務的負担の軽減に寄与した。豊崎中学校内山直美教頭からは「今後どの先生でも学習を進めていくには、外部の力や教育委員会の力が必要になってくる¹³」との発言があり、専門知を持つ文化課や外部人材との連携が可能な生涯学習振興課、平和行政の情報共有が可能な協働のまち推進課、指導ノウハウを持つ学校現場が連携するモデルの有効性が示唆された。

今後の課題は、各学校の実践事例を共有し、それぞれの取り組みを可視化し、行政と学校、教員同士や外部協力者がお互いに連携しやすい環境の構築と、教育現場での活用事例や授業で使うノウハウ等を収集しデジタルアーカイブ等によって公開をしていくことである。

8. 今後の展望と課題

(1) 一般公開とコンテンツの改良

本コンテンツは、学校での先行利用を経て、令和7年7月1日よりWeb上で一般公開された。今後は実践校の教員からのフィードバックを基に、コンテンツの修正・追加作業を行う計画である。デジタルアーカイブの連携や要望の反映などを通じて、教材として「育て」、完成度を高めていくことが重要である。

(2) 持続可能な平和教育に向けて

本コンテンツは、体験者の高齢化が進む中で、証言の背景を描くことで証言資料を補完し、あるいは代替する重要なツールとなる。しかし、デジタル技術はあくまで手段であり、重要なのはそこから何を学び、どう継承するかである。今後は、VR 体験を入り口とし、より詳細な情報を「とみぐすくデジタルアーカイブ」で調べたり、実際の戦跡フィールドワークへ繋げたりするなど、デジタルとリアルを横断した重層的な学習プログラムの開発が必要である。また、作成されたデータやデータベースは、探究学習や平和学習の様々な場面で有用であり、持続可能なシステムとして追加・公開させていくことが、戦後80年以降の平和教育において不可欠である。

令和5年から開始した沖縄戦平和学習用VRコンテンツの検討・制作・実施・活用について報告した。制作に当たり、基盤のデジタルマップを作成した文化課スタッフの奥原三樹、工藤紗耶香、中村鼓の調査成果を活用した。スタッフと地域の協力者が協働で作上げた「戦前の沖縄・豊見城」を舞台に、教育のコンテンツを制作できたことは僥倖であった。あらためて感謝の意を表します。

¹⁰ 琉球新報りゅうPON 2025年7月6日1~2面

¹¹ RBC「戦後80年#あなたの623 豊見城市の取り組み 変わる・変える平和学習」2025年6月19日放送

¹² RBC「戦後80年#あなたの623 豊見城市の取り組み 変わる・変える平和学習」2025年6月19日放送

¹³ RBC「戦後80年#あなたの623 豊見城市の取り組み 変わる・変える平和学習」2025年6月19日放送

そして、本 VR コンテンツの制作にあたり、貴重な証言を提供して下さった体験者の皆様、監修を務められた北上田源先生、狩俣日姫氏、喜納大作氏をはじめとする専門家の皆様、そして実践にご尽力いただいた各学校の先生方、制作を担当して下さった株式会社パスコ沖縄支店の皆様に深く感謝申し上げます。

また、事業の構想のヒントは琉球歴史家の上里隆史先生による 2021 年の SNS での発信があった¹⁴。その際の構想内容から検討することができ、企画のきっかけをいただけたことに記して感謝いたします。

【参考文献】

豊見城市教育委員会・株式会社パスコ「令和 5 年度 沖縄戦 VR コンテンツ計画書」(2024)

豊見城市教育委員会・株式会社パスコ「令和 6 年度 沖縄戦学習 VR コンテンツ制作報告書」(2025)

豊見城市教育委員会文化課「沖縄戦平和学習用 VR コンテンツと豊見城市平和教育の取り組み」スライド資料(2026)

https://www.city.tomigusuku.lg.jp/material/files/group/36/BUNKA2025r07_TGDA_okisenVR_PresentationMaterials_01.pdf

北上田源「沖縄県内の公立小中学校における平和教育の実態と課題(1) - 県教委調査および担当教員・学校長インタビューの分析を通して -」
『琉球大学教育学部紀要第 103 集』琉球大学教育学部(2023)

北上田源「沖縄県内の公立小中学校における平和教育の実態と課題(2) - コロナ禍における沖縄の平和教育および市町村教育委員会の取り組み」
『琉球大学教育学部紀要第 104 集』琉球大学教育学部(2024)

北上田源「沖縄の平和教育「前史」から考える - 1950 年代の議論に着目して -」『新沖縄文学 第 96 号』株式会社沖縄タイムス社(2025)

報道(時系列順 2025 年)

- ・4/22 RBC 琉球放送 YouTube「平和教育願う教員の負担軽減へ 平和教育サポート会議」
 - ・4/24 沖縄タイムス「「時空記者」としてタイムトラベル 沖縄戦を迫体験できる VR コンテンツ 豊見城市が教員に使い方を説明」社会 18 面
 - ・5/15 琉球新報「平和教育「VR 教材」活用 「慰霊の日」向け、市教委が提案 豊見城・沖縄市町村 19 面
 - ・5/22 沖縄タイムス「戦争体験の継承 全国で進む VR 導入、沖縄でも 利点と課題は 豊見城市の「デジタル博物館事業」
 - ・6/5 NHK 沖縄放送局「豊見城 VR コンテンツ 中学校で平和学習に活用」
 - ・6/10 NHK 沖縄放送局 おきなわ HOTeye「沖縄戦 80 年 転機迎えた平和教育の新たな動き」
 - ・6/19 読売新聞 朝刊 特別面 10 面「沖縄戦で生き残った大隊長の詫び状、苦悩・悔恨つづり 600 人の遺族へ...356 通の返信が物語る戦火の悲惨さ」
 - ・6/19 RBC 琉球放送 YouTube「戦世にタイムトラベル 戦火で失われた豊見城の集落を中学生が VR 体験 デジタルでつなぐ平和
- 【#あなたの 623】
- ・6/23 日本経済新聞 NIKKEI Film「AI は歴史を語れるか 沖縄戦 80 年、語り部は虚構に何を思う」(web 記事)
 - ・6/23 NHK 持論公論「太平洋戦争終結から 80 年 転機にさしかかる平和教育」
 - ・6/26 NHK おはよう日本 7:30~ 「▼沖縄戦の記憶どうつなぐ VR で新たな平和教育」
 - ・6/26 読売新聞 読売 KODOMO 新聞 5 面「戦後 80 年知る伝える 沖縄戦 住民の悲劇 戦前の集落「再現」
 - ・7/4 日本経済新聞 YouTube「【沖縄戦 80 年】AI は歴史を語れるか 語り部は虚構に何を思う【NIKKEI Film】」

公開ホームページ

・豊見城市役所「沖縄戦平和学習用 VR「時空記者」公開のお知らせ」公式ホームページ

<https://www.city.tomigusuku.lg.jp/soshiki/8/1035/gyomuannai/3/TGDA/8661.html>



¹⁴ X (旧 Twitter) 2021 年 3 月 1 日

資料とふれあい、人と向き合う社会科教育への提案

—『豊見城市史 第5巻 社会と文化・教育編』の成果を学校で広く活用するために—

稲嶺 航

1. はじめに

1-1. 豊見城市史 第5巻の特徴と教材化の動機

『豊見城市史 第5巻 社会と文化・教育編』(以下、本巻)は、豊見城市の戦後の歩みを、行政資料、統計、写真、証言、子どもの作文など多様な資料を掲載し紹介している。市の歴史を知る上で重要な資料を、翻刻や写真で掲載しつつ、資料から読み取れることや、歴史を知る上での価値を解説している点が特長である。戦後の土地利用の変化、産業構造の推移、人口動態、教育や地域社会のあり方などが、具体的な資料を通して立体的に理解できる構成となっており、豊見城市の戦後史を学ぶ上で極めて有用である。本巻の編集作業を通して収集し公開する資料は、研究者や行政関係者のみならず、市民、とりわけ次世代を担う子どもたちにとっても高い教育的価値を有している。

そこで本稿では、本巻の編集成果を学校教育の場に還元し、社会科授業における教材として活用できる資料を紹介する。

1-2. 活用のターゲット-小学校 3・4 年生社会科

本巻に掲載された資料の教材化にあたり、主な活用対象を小学校 3・4 年生の社会科とする。

第1の理由は、学習指導要領およびその解説に示される小学校社会科の教科目標と、掲載資料の活用に高い親和性があるためだ。指導要領解説¹では、「社会的な見方・考え方」を用いた考察、構想や、説明、議論等を学習活動取り入れ、社会の形成者として課題を追究したり解決したりする資質と能力の基礎を育てることが目標とされている²。ここでいう社会的な見方・考え方とは、社会的事象を位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係に着目して捉え、比較・分類・総合したり、人々の生活と関連付けたりすることである。また、教科学習のなかで、新聞や公的機関が発行する資料など、多様な資料を活用する学習も求められている³。

豊見城市内の学校に通う児童が、市内や校区内の社会的事象を理解する際、本巻に掲載された、戦後の土地利用や産業に関する年次的統計、市勢要覧などの刊行物、戦後の子どもの作文などは、空間的・時間的変化と人々の営みの相互関係を具体的に捉える手がかりとなる。

第2の理由は、3・4年生の社会科の学習内容との対応関係である。3年生では、市町村の地形や土地利用交通、公共施設、産業、防犯・防災などを学ぶ単元が設定されている⁴。また4年生では、地域の発展に尽くした先人が、開発、教育、文化、産業、医療などで果たした業績を学ぶ単元が設定されている⁵。これらの内容は

1 『小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編 平成29年7月』

2 註1前掲 8-10頁

3 註1前掲 8頁

4 註1前掲 「第1節 第3学年の目標及び内容」31-47頁

5 註1前掲 「第2節 第4学年の目標及び内容」48-69頁

本巻に収録された資料と密接に関連しており、本巻で紹介する資料は地域の具体的な事象を児童に提示し深い学びを可能にする教材として有効である。

1-3. 教材化における視座

本巻を教材化するには、2つの視座を重視したい。

1つ目は、児童自身が資料を基に考察し、議論し、判断する力を育むことである。今日は、情報技術の発達により、インターネットや人工知能を活用すれば、情報を容易に入手・加工できる時代となった。一方で、情報の真偽を見極め、情報を価値づけ社会活動に生かす力の重要性が一層高まっている。その基礎を育てるためには、児童が学習課題を意識し、自ら資料を読み解き、検証・考察する学習が不可欠である。そこで、資料を活用する際は、情報を提供する材料として利用するだけでなく、児童が考察し、情報の加工や整理、説明、議論するための材料として位置付ける。

2つ目は、歴史を消費する物でなく、主権者を育てる教育の材料とする視点である。歴史の調査や研究の目的は、地域の顕彰や観光資源の発掘であるとする言説は少なくない。地域の顕彰や観光資源化という営み自体を否定するものではないが、教育活動において、歴史を観光資源創出や、地域に情緒的な愛着を抱かせるための資源として捉え消費するだけでは不十分だと感じる。児童は将来、主権者として地域社会を運営する担い手となる存在である。歴史を単なる資源としてではなく、地域社会を理解し、よりよい社会を構想するための材料であると位置付け、資料をもとに検証、考察する力を育てることが社会科の教育においては重要な課題である。

① 航空写真の比較



米軍撮影航空写真(1947年撮影)

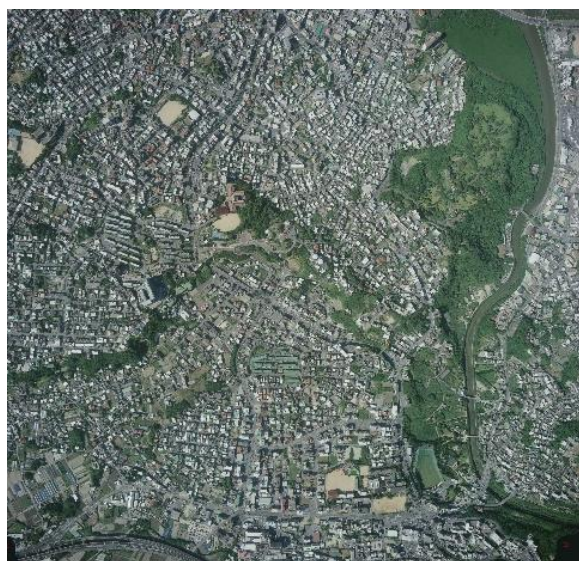
2. 活用事例の紹介——具体的活用の提案

本稿では、小学校3・4年生社会科で活用可能な資料を、「導入で利用できる資料」と「展開で利用できる資料」の2つに分けて紹介する。

2-1. 導入で利用できる資料

導入は、授業や学習単元の冒頭に位置付けられ、学習内容への関心や意欲を高め、学習の見通しをもたせる役割を担う。導入で利用する資料として有効なのが写真、グラフ、表である。

例えば、① 終戦直後の1947年と2010年の航空写真を比較することで、市域の土地利用や市街地の広がりやを直感的に捉えることができる。1947年のモノクロの航空写真をよく観察すると、畑の中に点在する集落や大きく蛇行した饒波川がみられる。2010年の航空写真では、写真に写る地域の全域が宅地化し、饒波川の流



国土地理院撮影の航空写真(2010年撮影)

路は直線的に改修されている。一方で主要な道路の位置は大きく変化していない事も確認できる。これら写真から読みとれる情報を、教師が明示するのではなく児童が観察して気が付き、さらには市の土地利用、人口、交通、公共施設の変化と、どのような関わりがあるか検討することで、社会的な見方・考え方の獲得に繋がる。

同様に、②、③、④はいずれも、市の歴史を知る上で高い価値をもつ写真である。

② 1960年の渡橋名に設置された灌漑用風車である。写真をよく見ると、英語の書かれた風車の尾翼や、高所に設置されたタンク、水を撒くスプリンクラーが確認できる。

写真を観察し、その後写真に写った背景を説明すれば、児童は米軍から提供された灌漑用風車によって畑に水を撒いていることや、市内ではかつて米軍向け野菜の栽培が盛んだった事が理解できる。更に、当時の農業にとって灌漑施設の整備が大きな課題だったことに着目すれば、戦後の市内の農業がどのような課題をもち、農地の改良によって課題を克服してきたか、その歴史を考える出発点にもできる。

③ 1975年の真玉橋の朝の混雑を写したものだ。自動車の往来が盛んになる一方、歩道が整備されず、歩行者の通行には危険を伴った状況が写っている。交通事故や自動車の渋滞といった、今日も続く交通の課題が、1970年代から既にあった事を知ることができる。

さらに、なぜ真玉橋が混雑していたのか、真玉橋はどんな位置にあるのか、真玉橋の渋滞を解消するため、1970年代以降にどのような施策がとられたのか、といった点を児童が検討すれば、道路整備と市内の都市化との関連性について考えることができる。

これら写真の教材化は、写真を児童に見せて説明するだけでなく、児童が写真から情報を読み取り、主体的に考える活動を行うことで、教材としての真価を発揮する。

写真に何が写っているのか、現在の市内のどこで撮影されたのか、なぜ撮影されたのか、写真に写っている場所は現在どんな風景になっているのか、といった問いを投げかけ、児童自らが考えるきっかけを与える学習である。さらに、フォトランゲージ⁶の手法を用い、グループで話し合う教材とすることにより、児童が互いに持っている多様な捉え方や考え方に触れさせ、共感性と自身の固定観念にとらわれない批判的思考を育てることも期待できる。

また、今日撮影された写真を利用し、児童が普段見ている風景はどのような歴史的経緯によって作られたかを考えることも社会的な見方・考え方を育てる上で有用である。

② 1960年の渡橋名の灌漑用風車



③ 1975年の真玉橋の交通渋滞



⁶ 写真やイラストを教材として使い参加者が自由に読み解き、グループで話し合うことで、文化や社会、他者への理解を深める活動。

④ 近年に撮影した饒波のビニールハウス群は、長嶺小学校周辺で児童が普段見ている風景だ。なぜ多くのビニールハウスが設置されたのか、何を栽培しているのか、いつからこれほど多くのビニールハウスがあるのか、児童が疑問を持つことによって、疑問を解決するための学習へ繋がられる。市の農業の歴史、農業政策、栽培が盛んな作物の種類を学ぶ動機付けとなる。



④ 饒波のビニールハウス群

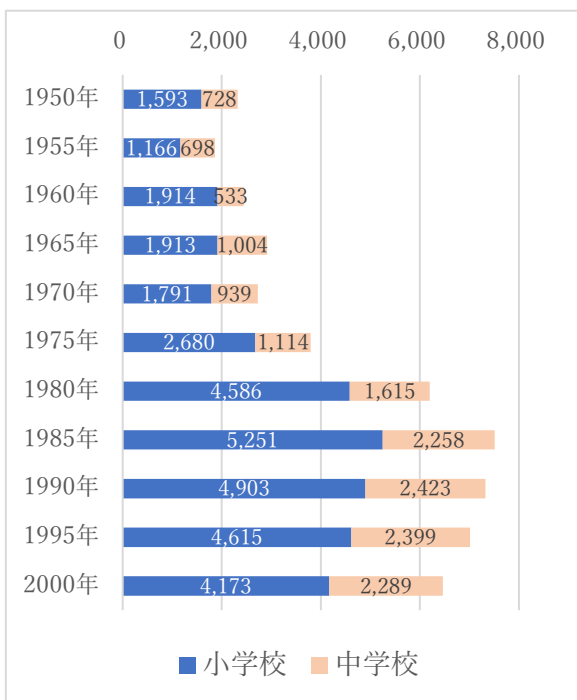
写真だけでなく、統計資料を元に作成したグラフも導入で使う教材となりえる。⑤ 市内小中学校の児童生徒数の推移や、⑥ 上水道の給水人口と普及率は教材として利用しやすい資料である。

どの時期に児童生徒が増えているか、なぜ増えたのかを考えることで、1970年代に多くの住民が市内へ転入した歴史を学ぶことができる。また、⑤と⑥の資料にはどのような関係があるか検討すると、多くの住民が生活するために、上水道の整備が必要であったという事を考察できる。

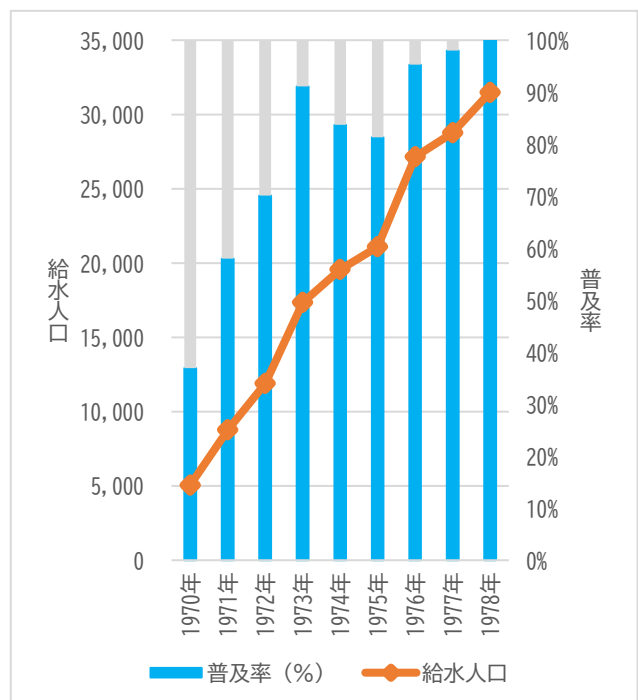
グラフも写真と同様、単に提示するだけでなく、児童に発問して、自ら考える材料に利用することが、社会的見方考え方を獲得する上で望ましい。また、グループ学習を行って児童間で意見を交換し、グループで検討した事を学級に発表する活動にも利用できる。

写真や統計資料は、豊見城市教育委員会文化課が非常に多く所蔵しており、児童の生活に近い地域の物学習する単位と関連が深い物を選択できる可能性が高い。学習内容に合わせて、有効な資料を選択すれば授業や単元の学習意欲を高め学習課題を児童が理解するための導入として活用できる。

⑤ 市内小中学校の児童生徒数 (人)



⑥ 上水道の給水人口 (人) と普及率 (%)



2-2. 展開で利用できる資料

展開は、学習の中心部分であり、課題に対して思考・活動・表現を通して理解を深める段階である。本巻には主体的な学びにつなげやすい資料が多く収録されている。特に統計資料は児童がグラフ化し、その成果を読み解き検討する学習に適している。

⑦ 作物種類別作付面積は、近年に市内耕地がほとんど野菜畑になっている事を読み取ることができる。一方で原資料では面積を表す単位に a(アール)が用いられており、3年生の児童には、面積を想像したりグラフ化したりすることが難しい。

⑦ 作物種類別作付面積の統計と単位グラフの例

【元資料】市内の作物種類別作付面積(a)

年次/種別	全作物	サトウキビ	野菜類
1974年	51,916	19,364	29,641
1985年	42,016	16,643	23,125
1990年	50,630	12,731	35,482
2000年	35,465	2,121	32,028

【加工】市内の畑は学校何個分あるか(学校面積=240a)

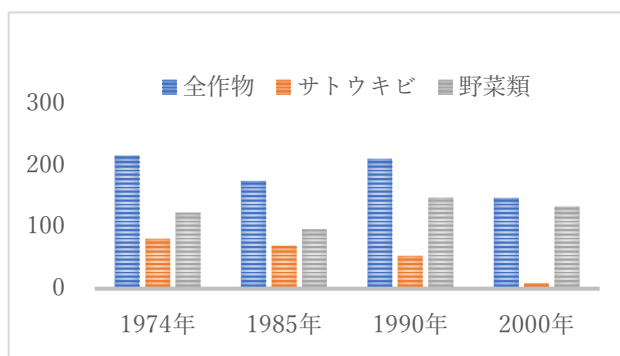
年次/種別	全作物	サトウキビ	野菜類
1974年	216	81	124
1985年	175	69	96
1990年	211	53	148
2000年	148	9	133

学校の面積は国土地理院地図GISマップを利用し長嶺小学校の面積を測定した

そこで、教師が統計資料をあらかじめ加工し、児童にとって身近な面積(例えば学校や公園、商業施設など)を単位に用いた表を示す必要がある。児童が広さを実感できるよう、GIS を用いて算出した学校敷地(〇a)との比較を示すなどの工夫が必要である⁷。また資料の加工は表計算ソフトを利用することで、数値の単位を容易に変換できる。

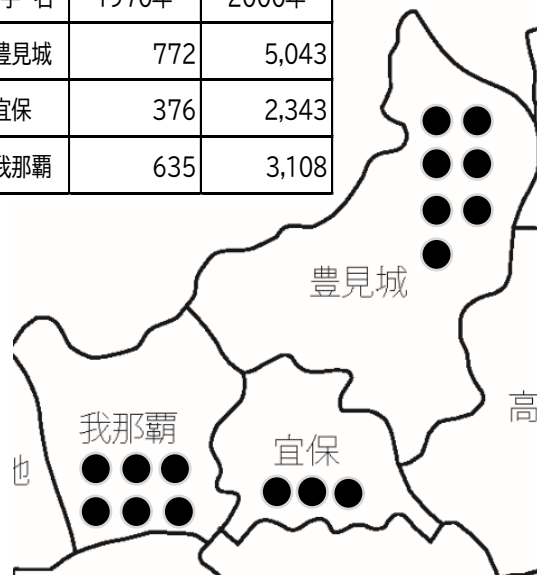
児童が広さを実感できるよう、GIS を用いて算出した学校敷地(〇〇平方メートル)との比較を示す

統計資料を利用し行政区の白地図とともに利用することで、情報を簡単に地図化する学習に活用できる。⑧ 字別人口の統計資料と、大判に印刷した行政区白地図を用意すれば、児童自らが人口分布のドットマップ⁸を作成できる。人口 100 人ごとにシールを 1 枚



⑧ 字別人口の統計と行政区白地図 (人口 100 人ごとにシールを貼ろう)

字名	1970年	2000年
豊見城	772	5,043
宜保	376	2,343
我那覇	635	3,108



⁷ 教師が児童にとって身近な場所や施設の面積を求める際は、国土地理院がインターネット上で公開する、GIS マップ の機能を活用すれば簡単に測定できる。GIS マップや距離の測定方法は以下のサイトから確認できる

地理院地図 / GSI Maps | 国土地理院 : <https://maps.gsi.go.jp/>

GIS マップを利用した面積の測定方法 : https://www.gsi.go.jp/CHIRIKYOUIKU/gsimaps_5.htm

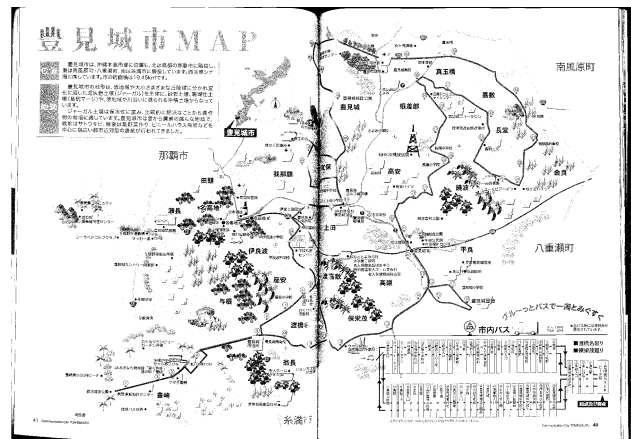
⁸ 地図上に配置した点(ドット)で、人口分布や事件・事故の発生地点などを視覚化する主題図

ずつ貼れば、1970年と2000年の字人口を比較し、市内のどの字で人口の変化が大きいのか、どの地域に人口は偏在しているのかわかる。そこから、なぜ人口の偏在がみられるのか、といった疑問を持たせ、道路や公共施設などとの関連を考えることもできるだろう。また、児童が地図から情報を読み解く技能や、統計資料を用いた情報を地図化する技能を身に着けることもできる。

⑨ 市政要覧に掲載された地図には、市内の主要な建物や公共施設がイラストにわかりやすく示されている。1979年と2011年の地図を比較すると、約30年間に学校や社会教育施設、新興住宅地や大型商業施設が数多く建設され、役所の位置が移動したことを読み取れる。さらには、市内の公共施設の偏在や、主要な道路の配置、道路と住宅地の位置の関係性などを検討できる。そのうえで、「1979年以降に新しく作られた施設や宅地は市内のどこに多いか」、「なぜ、学校は市の北側に多いのだろう」といった発問をグループで討議し発表する、あるいは、2011年の地図へ、近年新しくできた学校や商業施設を書き込んで発表する学習にも活用できる。⑧の字人口の資料と組み合わせることで、人口の偏在と公共施設や住宅地、道路の関係を検討する資料ともなるだろう。

証言や子どもの作文を読み解く学習を通して、統計や地図では捉えきれない人々の思いや生活の実態に触れることが可能となる。⑩ 座安小学校5年生の作文には、1972年の本土復帰を境に、日本本土の専売制度が沖縄でも適用され、製塩業が出来なくなった家族の様子が記されている。作文は都市化や本土復帰など市の大きな変化が、住民の生活にどんな影響を与えたか考えるうえで重要である。本土復帰によって家業の製塩ができなくなることが、当事者たちの暮らしをどのように変えるのか、当事者たちはどんな心情だったか、児童が考え共感できる。本巻には公共事業に関わった村長や役所職員や、市の特産物を製造する人々の証言も掲載されており、作文と同様、人々の生活の変化や思いが読み取れる。

⑨市勢要覧の地図



⑩座安小学校5年生の作文

(1972年)5月14日のことでした。わたしが、学校から帰ってみると、祖母が、母とさびしそうな声で、何か話合っていました。わたしは、何かしらと思って、祖母に開くと、
「沖縄が日本復帰するために塩がつかれなくなったよ。」と、祖母は説明してくれた。

長い間、祖母の仕事として現在までつづけてきた、製塩業ができなくなると、祖母がかawaiiそうになった。祖母は塩づくりの仕事が大すきで、塩をたいている時、の姿は生き生きとはりきっていた。その祖母から塩たき、のしごとかなくなると、どんなにさびしいことでしょう。

1973年 座安小学校文集「しば」より抜粋

2-3. 高学年、中学校での資料活用

本稿では、小学校 3・4 年生の授業で利用する事を前提として資料を提案したが、高学年と中学生で歴史や地域の事象を学ぶ単元にも本巻の資料は活用できるだろう。例えば、歴史や社会制度、産業について学ぶ単元では、市議会の議事録や、市長の市制方針、市の刊行物を教材化することで、日本全体の歴史や社会の動き、産業の推移と、豊見城市の地域的な事象を関連付け学ぶことができる。

3. 単元計画と資料の結び付け

次は社会科のカリキュラムと対応させて、利用できる資料を紹介する。カリキュラム編成の例として、文部科学省が作成した、小学校第3学年社会科の単元「市の様子の移り変わり」指導計画⁹を参考に、「市の様子の移り変わり」の単元計画と活用できる資料をまとめたものが、表⑪『「市の様子の移り変わり」単元計画と活用できる資料』である。

学習指導要領解説の中「市の様子の移り変わり」の単元目標は、市や人々の生活の様子が時間経過に変化したことを理解し、交通や公共施設、土地利用や人口、生活の道具などの時期による違いに着目して、市や人々の生活の様子を捉え、それらの変化を考え、表現することとされている。また、聞き取り調査をしたり地図などの資料で調べたりして、年表などにまとめることも学習課題に位置付けている¹⁰。表⑪で示す学習内容は、本巻の資料を効果的に利用し、学習指導要領解説で挙げた目標を達成することを目指した。土地利用、人口交通、公共施設の変化を学ぶ各展開では、以下 4 つ学習活動を順に進めていくことを提案する。

- (1) 写真やグラフを提示し、児童へ発問して学習課題を明確にする。
- (2) 資料を提示し、市の様子が変化した時期や地域、変化の状況を児童自らが調べ確認する。
- (3) 資料から明らかになったこと整理し、市の様子の変化が、他の事象や人々の生活の変化とどのように関連しているか検討する。
- (4) 分かった事を年表に記載し、単元全体の学習内容を総合的に確認する

これらの学習活動を各 2 時間程度でこなしていくことを想定する。上記学習を行うことによって単元目標を達成しつつ、社会科の教科目標である社会的な見方・考え方の獲得も期待できる。

なお、同単元の中に位置づけられた「昔の道具の変化」については、豊見城市歴史民俗資料展示室を見学することで、昔の道具の実物を見る事ができる。

また単元のまとめとして、児童が学んだ土地利用や人口などの変化から、未来の市の様子を予測し、市にとって今後どのような施策が必要であるか議論し提案する学習や、年表・壁新聞を作成する学習が想定される。これら単元全体の学習活動は、将来の主権者を育てるうえでも非常に価値の高い学びとなり得る。

⁹ 文部科学省 HP 小・中学校向け主権者教育指導資料「主権者として求められる力」を子供たちに育むために

(1) 第 3 学年「市の様子の移り変わり」

chromeextension://efaidnbmnnnibpcajpcglclefindmkaj/https://www.mext.go.jp/content/220922-mxt-kyoiku01-000025143_4.pdf

¹⁰ 註 1 前掲 44 頁

4. 学校現場で歴史資料を活用するための課題

前述の通り本巻に収録された多様な資料は、社会科の教材として高い価値を有している。しかし、これらを学校現場で日常的に、かつ効果的に活用するためには、教師が必要な資料を簡単に見つけ、教材研究は教材化に教師が大きな負担をかけず利用できる環境の整備が必要である。

ここでは、資料活用の可能性を高めるための、2つの課題と解決方法を検討したい。

4-1. デジタルアーカイブの拡充と普及

第1の課題は、資料へのアクセシビリティの向上である。本巻の成果を教育現場へ還元するためには、デジタルアーカイブ(以下、DA)の整備と拡充と利用の促進が鍵となる。

DAの最大の利点は、時間や場所の制約を受けず、誰もが資料を閲覧・利用できる点にある。現在、文化課では収蔵写真などをオンラインで公開する取り組みを先行させているが、今後は統計資料、市刊行物、地図さらには本稿で提案したような具体的な教材案についても、順次DAへと登録していく必要がある。

また、システムの整備と並行して、教師へ利用を促す支援も重要である。教師がDAを利用し、授業で利用できる資料を確認できるよう、DAやDAで閲覧・取得できる資料の活用に関するワークショップや研修会を継続的に実施し、DAを活用した教育活動を、市内の小中学校へ浸透させていくことが求められる。

4-2. 教師の多忙化への対応と専門的支援

第2の課題は、教師の教材研究における負担軽減である。資料を教材化するには、地域の歴史や民俗に関する専門知識が求められる。しかし、業務が多忙を極める今日の教育現場において、教師個人が独力で市史を読み込み、社会科の单元ごとに専門的な背景を理解する時間の確保は極めて困難である。

この解決策として、行政と学校の連携強化が求められる。具体的には、市の歴史に精通した文化課職員が教師による教材化を専門的見地から伴走支援する体制の構築である。学芸員等の知見を授業設計に組み込むことで、教師の負担を抑えつつ、質の高い教育実践を創出できる。

さらに、そうして生まれた教育実践の記録や、作成された教材などをDA上で共有・蓄積していくことも重要だ。過去の優れた実践事例を容易に参照・再利用できる環境が整えば、教材研究の効率化が図られ、地域資料を活用した授業の普及が期待できる。市の歴史資料を学校教育で効果的に活用するために、次世代の主権者を育てる教材とするためには、こうしたアーカイブ化と人的支援の両輪によるバックアップが不可欠である。

⑪「市の様子の移り変わり」単元計画と利用できる資料

展開	学習活動	資料
単元の導入	<ul style="list-style-type: none"> ・航空写真（1946年・2010年）を見比べる。 ・1946年の航空写真で集落、道路、畑を色分けさせ、2010年の航空写真と比較する ・1947年は市域の大部分が畑で、畑の中に集落が点在していたことに気づかせる ・2010年の航空写真では畑がほとんど見られなくなり、市街地広範囲に広がったことを確認する ・なぜ豊見城市内は大きく変わったのか検討する（グループで互いに意見を共有する） 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空写真（1947年、2010年）
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・前回色分けした1947年航空写真を再度観察する ・1947年と2010年に加え1970年代の航空写真も提示し、それぞれの航空写真から畑、集落（宅地）、山林が土地の何割ほどを占めるか予想を立てる。 ・年次別有租地のグラフを見せ、航空写真を元に予測した割合と比較させる。 ・グラフと航空写真を見比べ、いつ頃から市内の土地利用が大きく変わったか検討させる。 ・なぜ土地利用が変化したか予想してみる 	<ul style="list-style-type: none"> ・航空写真（1947、1973、2010年） ・土地利用状況のグラフ
人口	<ul style="list-style-type: none"> ・タイトルを隠し「市内年次別人口のグラフ」と「市内小中学校の年次別生徒数のグラフ」を見せ、グラフの 主題は何か（何の数を示すグラフか）想像させる（豊見城市の事象で在ることは伝える）。 ・グラフの主題を告げ変化が大きい時期を確認する。 ・学校周辺を観察し（校舎屋上などから実際に見るか、航空写真など）で人口が多い地域を予想する ・行政区地図に1970年と2000年の人口に応じたシールを貼る 	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別小中学校の児童数グラフ ・年代別市人口のグラフ ・字別の人口（1970年・2000年） ・市内行政区の白地図2枚
道路	<ul style="list-style-type: none"> ・1975年真玉橋の混雑時の画像を見せる ・1975年になぜ交通渋滞や交通事故が深刻になったか検討する ・1946年の航空写真に写る主要な道路に色をつけ1970年第の航空写真と比較する。 ・1970年代の主要な道路の位置が1946年と一致していることに気づかせる。 ・1970年代の道路の路面の色を見せ、舗装されているか確認させる。 ・村道路の舗装状況を示す統計を見せる。 ・道路の整備と人口増加（既習）の関係を検討させる。（人口と道路の整備はどちらが先か？） 	<ul style="list-style-type: none"> ・1975年交通渋滞の写真 ・年代別村道の舗装率 ・自動車の普及状況を示すグラフ ・村道の整備状況に関する資料
公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・前時までに記録した簡易年表を見て（土地利用の変化・人口増加・道路の舗装）の時期の確認 →児童数名の年表学級で見て、互いの記録方法の違いを見ても良い ・土地利用の変化、人口の増加、道路の整備・舗装、これら事柄は、どちらが一番早く起きたか検討→グループごとに予想を発表する ・市内小中学校の年次別生徒数のグラフを見せ、児童生徒数が増加すると、学校の数はどうなるか予測 ・1979年と、近年の市勢要覧に掲載された地図を比較 ・市内学校の開校年と位置を示す地図を確認し自分の通う学校は何年開校したか確認する ・学校や役所、社会教育施設は1979年以降、どこに設置されたか確認 ・簡易年表に学習事項（各学校の開校時期）を記録させる 	<ul style="list-style-type: none"> ・年代別小中学校の児童数グラフ ・市政要覧の絵地図 ・市内小中学校の開校年と位置を示す地図

令和7年度デジタル博物館事業（沖縄振興特別推進市町村交付金事業）
デジタル博物館資料作成活用推進業務 普及発信デジタルアーカイブ作業報告書

本号執筆者（掲載順）

○外部執筆者

嵩原 建二 沖縄県鳥獣保護管理員
比嘉 邦昭 沖縄野鳥研究会
渡邊 康志 沖縄国際大学非常勤講師
池村 浩明 漫湖水鳥湿地センター
長嶺 将範 元漫湖水鳥湿地センター
宮城 国太郎 沖縄野鳥の会

○豊見城市教育委員会 教育部 文化課

久貝 祐子 学芸員（デジタルアーカイブ）写真アーカイブ チーム
田辺 可奈 学芸員（デジタルアーカイブ）写真アーカイブ チーム
工藤 紗也香 学芸員（デジタルアーカイブ）集落・史跡3D復元 チーム
中村 鼓 学芸員（デジタルアーカイブ）集落・史跡3D復元 チーム
島袋 幸司 文化班長（学芸員）
稲嶺 航 学芸員（デジタルアーカイブ）市史デジタルアーカイブ連携 担当

書名 まだま 第3号 豊見城市教育委員会 文化課 紀要
[普及発信デジタルアーカイブ活動報告 特集号 No.1]

発刊日 令和8（2026）年2月27日

編集 豊見城市教育委員会文化課
沖縄県豊見城市字伊良波 392 番地
TEL 098-856-3671

発行 豊見城市教育委員会

印刷 株式会社 Nansei
那覇市曙 1 丁目 15 番 3 号 2F

